

# 貧困プロフィール

---

## マラウイ

平成 26 年 3 月  
(2014 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)  
NTC インターナショナル株式会社

【注】当資料は、JICA が NTC インターナショナル株式会社に委託し、政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取りまとめたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、出典元の資料類から直接行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
14-013



# 貧困プロフィール

---

## マラウイ

2013 年度版

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

NTC インターナショナル株式会社

【注】当資料は、JICA が NTC インターナショナル株式会社に委託し、政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取りまとめたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、出典元の資料類から直接行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
14-013



(目次)

<b>I. マラウイ国の貧困状況の概観</b> .....	1
<b>II. 貧困削減のための政策枠組み</b> .....	14
1. 国家開発計画・戦略の概要と貧困削減の位置付け .....	14
(1) PRSP の概要とその他の国家計画戦略との関係性 .....	14
(2) 特に貧困と関連深い国家戦略・政策の概要と現状 .....	19
(3) 過去 10 年程度の成果の分析 .....	20
(4) 今後の改定の予定など .....	22
2. 当該国政府による指定貧困地域・集団など .....	22
<b>III. 所得貧困による分析</b> .....	23
1. 貧困ラインとデータ .....	23
(1) 当該国政府設定の貧困線の根拠と妥当性の確認 .....	23
(2) データソースの紹介とその評価 .....	24
2. 貧困の状況—貧困率・貧困 GAP 率・GINI 分析 .....	25
(1) 州・県レベルの貧困率・貧困ギャップ率・GINI の表と地図 .....	25
(2) 過去 10 年程度のトレンドと要因、今後の見通し .....	27
(3) 地理的分布の分析 .....	28
<b>IV. 所得貧困以外による分析</b> .....	45
1. 概況とトレンド、国際および地域比較 .....	45
(1) HDI (人間開発指数) .....	45
(2) MDGs の達成状況 .....	47
2. 食料安全保障・脆弱性による分析 .....	77
(1) 都市部 .....	79
(2) 北部地方部 .....	81
(3) 中部地方部 .....	83
(4) 南部地方部 .....	85
<b>V. 社会的属性・特性と貧困との関連分析</b> .....	88
1. 社会的被排除グループの存在と貧困指標との関連 .....	88
(1) 社会的被排除グループの存在 .....	88
(2) その他一般的な要因 .....	104
<b>VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因</b> .....	107
1. 国内外からの移住者および難民 .....	107
2. 農業生産を脅かす干ばつと貧困 .....	109
3. 当該国特有の事項 .....	113
(1) マラウイ国内一般家庭にみる不安定要因 .....	113
(2) 地方農業セクターにおける日雇い労働 (Ganyu) : 地方部の雇用機会 .....	114

---

<b>VII. 重点支援分野と貧困の関連分析</b> .....	119
1. 農業・鉱業などの産業育成のための基盤整備 .....	119
(1) 農業生産性の向上にかかる課題 .....	119
(2) 小農とエステートの関係 .....	124
(3) 環境保全および気候変動にかかる課題 .....	126
(4) 鉱業セクターと貧困 .....	133
(5) 運輸交通分野などのインフラ整備 .....	136
2. 教育および水分野における基礎的社会サービスの向上 .....	141
(1) 教育分野（中等教育）の整備・拡充 .....	141
(2) 持続可能な水利用・管理の推進と安定的な給水率の向上にむけて .....	145
<b>VIII. 添付資料</b> .....	152
1. 添付資料リスト .....	152
2. 主要な情報源リスト .....	160
<b>IX. ANNEX 各 DISTRICT 別の貧困状況詳細</b> .....	161

(図表目次)

図 I-1	マラウイの人口密度 (2008 年) .....	1
図 I-2	マラウイにおける品目別輸出額 (2001 年/2010 年) .....	2
図 I-3	マラウイにおけるタバコ輸出と GDP の関連 (1970 年~2003 年) .....	2
図 I-4	マラウイの食糧脆弱性地図と貧困分布地図 .....	3
図 I-5	モノカルチャー諸国の輸出総額に占める割合 .....	4
図 I-6	マラウイ独立前のタバコ輸出 (金額・数量) データ (1930 年~1954 年) .....	5
図 I-7	マラウイにおける海外送金と GDP、輸出入の関係 .....	6
図 I-8	マラウイの道路状況 (2010 年) .....	7
図 I-9	マラウイの鉄道網 (2010 年) .....	8
図 I-10	マラウイの幹線送電線の経路図 (2010 年) .....	9
図 I-11	マラウイ全土の電力グリッド網 (2009 年) .....	10
図 I-12	マラウイの携帯電話 GSM カバレッジ (2010 年) .....	11
図 I-13	マラウイの灌漑可能地域 (2010 年) .....	12
図 I-14	マラウイの灌漑整備状況 (2010 年) .....	13
図 II-1	「MGDS II」の概念図 .....	14
図 II-2	「MGDS II」の指標と目標値 (1) .....	15
図 II-3	「MGDS II」の指標と目標値 (2) .....	16
図 II-4	「MGDS II」の指標と目標値 (3) .....	17
図 II-5	「MGDS II」の指標と目標値 (4) .....	18
図 II-6	マラウイにおいて弱者対策として実施されている政策 .....	19
図 II-7	マラウイにおけるトウモロコシ生産量の推移 (1982 年度~2006 年度) .....	20
図 II-8	「MGDS」「MGDS II」の指標と目標値の比較 .....	21
図 II-9	「MGDS II」における指定貧困集団 .....	22
図 III-1	マラウイ政府の貧困線の定義 .....	23
図 III-2	マラウイのインフレ率の推移 (2006~2013 年) .....	23
図 III-3	「IHS 3」における調査地域と対象世帯数 .....	24
図 III-4	マラウイ全土の食料脆弱性と貧困率 (再掲) (2010 年) .....	25
図 III-5	マラウイ全土の人口密度 (再掲) (2008 年) .....	26
図 III-6	マラウイの貧困関連指標 (2005 年/2010 年) .....	27
図 III-7	マラウイ都市部の貧困状況 .....	28
図 III-8	マラウイ都市部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年) .....	29
図 III-9	マラウイ都市部 給与収入の種類 (2011 年) .....	29
図 III-10	給与所得者の雇用主の種類 (2011 年) .....	30
図 III-11	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (都市部) (2011 年) .....	30
図 III-12	マラウイにおける 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年) .....	31
図 III-13	マラウイの主要農産物収穫率 (地方別、2009 年度) .....	32
図 III-14	マラウイ各地域の貧困状況 (地方部) (人口: 2008 年、貧困指数: 2010 年) ..	32

図 III-15	マラウイ 農業生産経済地域地図	33
図 III-16	マラウイ北部地方部の貧困状況 (人口: 2008 年、貧困指数: 2010 年)	34
図 III-17	マラウイ北部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)	34
図 III-18	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (北部地方部) (2011 年)	35
図 III-19	北部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年)	35
図 III-20	北部地域の主要農産物収穫率・生産量 (地方別、2009 年度)	36
図 III-21	マラウイ中部地方部の貧困状況 (人口: 2008 年、貧困指数: 2010 年)	37
図 III-22	マラウイ中部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)	37
図 III-23	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (中部地方部) (2011 年)	38
図 III-24	中部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年)	38
図 III-25	中部地域の主要農産物収穫率・生産量 (地方別、2009 年度)	39
図 III-26	マラウイ南部地方部の貧困状況 (人口: 2008 年、貧困指数: 2010 年)	40
図 III-27	マラウイ南部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)	40
図 III-28	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (南部地方部) (2011 年)	41
図 III-29	南部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年)	42
図 III-30	マラウイの主要農産物収穫率 (再掲) (地方別、2009 年度)	43
図 III-31	南部地域の主要農産物収穫率・生産量 (地方別、2009 年度)	43
図 IV-1	マラウイの HDI 関連指数の動向 (1980~2012 年)	45
図 IV-2	マラウイとアフリカ大陸内の SADC 加盟国の HDI (1995~2012 年)	46
図 IV-3	マラウイと他国の HDI 関連指数の動向 (2012 年)	46
図 IV-4	マラウイにおける MDGs の達成状況 (2010 年)	47
図 IV-5	マラウイにおける貧困率・最貧困率・貧困ギャップ率の推移	49
図 IV-6	マラウイにおける低体重児の比率・マラウイにおける最貧困 5 分位率	50
図 IV-7	マラウイにおける初等教育関連の数値	51
図 IV-8	MDGs ターゲット 2 (教育関連) の指標値推移	52
図 IV-9	マラウイにおける地域別識字率と学校に行かなかった理由 (15 歳以上、2011 年)	53
図 IV-10	女子の初等教育就学比率 (対男子、1990~2009 年)	54
図 IV-11	女子の中等教育就学比率 (対男子、1990~2009 年)	55
図 IV-12	女性の雇用率 (1998~2009 年)	55
図 IV-13	マラウイにおける性別と雇用状況の関係	55
図 IV-14	女性の識字率推移 (1998~2008 年)	56
図 IV-15	女性国会議員数の推移 (1994~2009 年)	56
図 IV-16	マラウイにおける 5 歳未満児死亡率の推移 (1992~2006 年)	57
図 IV-17	マラウイにおける乳児死亡率の推移 (1992~2006 年)	58
図 IV-18	マラウイにおける乳児死亡率と社会的属性 (2010 年)	58
図 IV-19	マラウイにおける 1 歳児はしか接種率の推移 (1992~2006 年)	59
図 IV-20	予防接種に関する社会的属性 (2010 年) と推移 (1992~2010 年)	59



図 IV-21	マラウイの妊産婦死亡率の推移 (1992~2006 年)	60
図 IV-22	マラウイの妊産婦死亡率 (2010 年)	60
図 IV-23	マラウイの妊産婦死亡率に関する各種調査	61
図 IV-24	マラウイにおける専門家立ち会いの出産率 (1992~2008 年)	62
図 IV-25	マラウイにおける出産環境 (2010 年)	62
図 IV-26	マラウイの妊産婦死亡原因に関する各種調査結果	63
図 IV-27	マラウイの 15~24 歳妊婦の HIV 感染率の推移 (1994~2009 年)	64
図 IV-28	マラウイの HIV 感染率 (年齢別)	65
図 IV-29	マラウイの年齢別 HIV 感染率の推移 (2004 年/2010 年)	65
図 IV-30	マラウイにおけるマラリアによる死者数の推移 (1998~2009 年)	66
図 IV-31	マラウイにおけるマラリア治療へのアクセス率 (1998~2009 年)	66
図 IV-32	マラウイ 防虫処理済み蚊帳の所有率 (1998~2010 年)	67
図 IV-33	マラウイにおけるアメリカのマラリア対策支援状況 (2007 年度~2013 年度)	68
図 IV-34	PMI により設置されたアフリカの防虫モニタリング拠点の推移 (2008 年/2012 年)	68
図 IV-35	マラウイ 結核による死亡率 (1990~2008 年)	69
図 IV-36	マラウイ DOTS による結核患者の治療率 (1998~2010 年)	69
図 IV-37	マラウイにおける森林被覆率の推移 (1990~2005 年)	70
図 IV-38	マラウイにおける森林面積の推移 (1990~2010 年)	70
図 IV-39	マラウイ 改良水源にアクセスできる世帯の割合 (1990~2009 年)	71
図 IV-40	マラウイ 改良衛生施設にアクセスできる世帯の割合 (1990~2009 年)	71
図 IV-41	マラウイにおける都市部スラム居住率の推移 (1990~2009 年)	72
図 IV-42	GDP に占める ODA の割合 (1990~2009 年)	73
図 IV-43	マラウイ 15~24 歳の失業率 (1998~2009 年)	74
図 IV-44	マラウイにおける携帯電話の加入率 (2000~2010 年)	75
図 IV-45	マラウイにおける固定電話の加入率 (2000~2010 年)	75
図 IV-46	マラウイにおけるインターネットの利用率 (2000~2010 年)	76
図 IV-47	マラウイ 農業生産カレンダー	77
図 IV-48	マラウイ トウモロコシ価格の推移	77
図 IV-49	マラウイにおける食料不足の理由 (地域別)	78
図 IV-50	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における都市部の食事回数 (2011 年)	79
図 IV-51	マラウイ都市部における 5 歳未満児の栄養不良状況 (2011 年)	79
図 IV-52	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における都市部の食料調達方法 (2011 年)	80
図 IV-53	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における北部地方部の食事回数 (2011 年)	81
図 IV-54	マラウイ北部地方部における 5 歳未満児の栄養不良状況 (2011 年)	81
図 IV-55	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における北部地方部の 食料調達方法 (2011 年)	82
図 IV-56	北部地域 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	82

図 IV-57	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における中部地方部の食事回数 (2011 年) ..	83
図 IV-58	マラウイ 中部地方部における 5 歳未満児の栄養不良状況 (2011 年) .....	83
図 IV-59	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における中部地方部の 食料調達方法 (2011 年) .....	84
図 IV-60	中部地域 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」 .....	84
図 IV-61	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における南部地方部の食事回数 (2011 年) ..	85
図 IV-62	マラウイ 南部地方部における 5 歳未満児の栄養不良状況 (2011 年) .....	85
図 IV-63	「WMS 2011」調査実施前 7 日間における南部地方部の 食料調達方法 (2011 年) .....	86
図 IV-64	南部地域 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」 .....	86
図 IV-65	マラウイにおける食料関連の地図 (左) 食料脆弱性地図 (再掲) .....	87
図 V-1	マラウイにおける世帯主の年齢層と貧困率の関係 .....	88
図 V-2	マラウイにおける 15 歳以上の新規被雇用者等の職業形態別内訳 (2011 年) .....	89
図 V-3	マラウイにおける主な慢性疾病に関する疾患報告の割合 .....	90
図 V-4	マラウイにおける疾病 (上位 5 種)・負傷の罹患率内訳 .....	91
図 V-5	マラウイ 蚊帳の所有率に関する統計 (2012 年) .....	92
図 V-6	マラウイ 社会属性別 蚊帳の利用状況 (2012 年) .....	93
図 V-7	マラウイ 妊産婦の蚊帳の利用状況 (2012 年) .....	94
図 V-8	マラウイにおける重病者を有する世帯に対する外部支援とそのアクセス状況 .....	95
図 V-9	マラウイの HIV 感染者の社会的属性 (2010 年) .....	96
図 V-10	HIV/AIDS に関する女性の包括的知識 (2010 年) .....	97
図 V-11	HIV/AIDS に関する男性の包括的知識 (2010 年) .....	98
図 V-12	マラウイ国内における孤児 (15 歳以下) の各種人口割合 (2010 年度) .....	99
図 V-13	マラウイにおける孤児の状況 .....	100
図 V-14	マラウイ 全就学児中の孤児比率推移 (1994~2009 年) .....	100
図 V-15	孤児と非孤児の学校の出席状況 (2011 年) .....	101
図 V-16	孤児と非孤児のドロップアウト率 (2011 年) .....	101
図 V-17	マラウイの都市部・地方部における障害者人口と障害区分 (2010 年) .....	102
図 V-18	マラウイにおける障害者のスキル向上と雇用機会に関する課題 (2013 年) .....	102
図 V-19	マラウイにおける低所得世帯に占める女性・男性世帯主の割合 (2012 年) .....	103
図 V-20	マラウイにおける世帯主 (男性・女性) の分布状況 (2010 年度) .....	103
図 V-21	マラウイにおける世帯主別 (男性・女性) の特性 (2012 年) .....	104
図 V-22	マラウイにおける貧困発現率と世帯主の最終学歴との関係 (2012 年) .....	105
図 V-23	マラウイにおける児童労働に従事する子どもの割合 (2010 年 ILO) .....	106
図 VI-1	マラウイにおける国内人口移動 (2010 年度) .....	108
図 VI-2	マラウイ国内における難民および救済申請者の数 (2013 年 8 月) .....	108
図 VI-3	マラウイにおける農業従事世帯数 (2011 年) .....	109
図 VI-4	マラウイ 国内地域別にみた食料の調達先 (2012 年) .....	110
図 VI-5	マラウイ国内における主な自然災害と被災者数 (1900 年~2013 年) .....	111

図 VI-6	マラウイにおける降雨の変動性 (メイズ作播種 2 ヶ月目以降)	112
図 VI-7	マラウイ 一般世帯について生活に深刻な影響を及ぼしている 事象等 (2010 年度)	113
図 VI-8	マラウイにおける世帯主別 (男・女) の所得源 (2012 年)	114
図 VI-9	Whiteside(2000)によるマラウイにおける「Ganyu」の種類	115
図 VI-10	マラウイにおける農作事および 飢餓の時期 (hunger season) との関係 (再掲)	116
図 VI-11	マラウイ農家世帯 (県別) における雨期・乾期別 Ganyu 就労の割合 (2004 年)	117
図 VI-12	「Ganyu」による収入額と、同時期に購入が必要なトウモロコシ価格の比較 (1993 年 10 月～1994 年 2 月)	118
図 VI-13	「Ganyu」の内訳 (1993 年 10 月～1994 年 2 月)	118
図 VII-1	一般世帯の経験した食料不足の合計期間 (2011 年)	120
図 VII-2	農家世帯の農業生産材別の投入面積割合 (2011 年)	121
図 VII-3	農業用投入資材補助金プログラムにおける最終裨益者の地域別割合 (2011 年度)	122
図 VII-4	マラウイにおける肥料価格の推移 (2000 年～2011 年)	123
図 VII-5	Nkhotakota District の土地利用図 (2009 年)	124
図 VII-6	Nkhotakota District の HIV/AIDS 対策体制	125
図 VII-7	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (地方別) (2011 年)	126
図 VII-8	「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (都市部) (再掲) (2011 年)	126
図 VII-9	マラウイの一般世帯における炊事用燃料源の内訳 (2011 年)	127
図 VII-10	マラウイで 2000 年から 2012 年にかけて失われた森林の位置図	128
図 VII-11	マラウイの人口 (2008 年/1998 年)	129
図 VII-12	マラウイにおける家庭用燃料の内訳 (2011 年)	129
図 VII-13	マラウイ北部において 2000 年から 2012 年にかけて失われた森林の位置図	130
図 VII-14	マラウイ北部における土地被覆図「2012 年時点現況」	131
図 VII-15	マラウイの化石燃料による二酸化炭素排出量 (1965～2007 年)	132
図 VII-16	マラウイにおける主要鉱物生産量の推移 (2003～2008 年)	133
図 VII-17	マラウイにおける世帯の産業別分布割合 (2012 年)	133
図 VII-18	マラウイにおける鉱物セクター正規雇用者 (2008 年)	134
図 VII-19	マラウイにおける鉱山開発の展望 (2009 年時点)	135
図 VII-20	マラウイの道路指標 (アフリカ低・中所得国との比較、2009 年)	136
図 VII-21	マラウイにおける道路の分類と舗装状況 (2010 年)	137
図 VII-22	マラウイ中・北部州域の道路網 (2010 年)	137
図 VII-23	Blantyre 市における住宅地の分類 (1999 年)	138
図 VII-24	マラウイにおける住宅の分類	138

図 VII-25	マラウイにおける飲用水源の状況 (都市部、2011 年) (再掲) .....	139
図 VII-26	マラウイにおける衛生施設の状況 (都市部、2011 年) (再掲) .....	139
図 VII-27	都市部における食料脆弱性と住居の関係 (2013 年) .....	140
図 VII-28	マラウイ都市部における廃棄物の投棄方法 .....	140
図 VII-29	マラウイ 中等教育における属性別の就学率 (2011 年) .....	141
図 VII-30	マラウイ 初等・中等教育における中退率と初等教育における 主な中退理由 (2011 年) .....	142
図 VII-31	マラウイにおける初等学校および中等学校教員数の推移 (2008 年～2012 年) .....	143
図 VII-32	マラウイにおける初等学校および中等学校教室数の推移 (2008 年～2012 年) .....	143
図 VII-33	マラウイにおける退学の理由 (2011 年) .....	144
図 VII-34	マラウイにおける教育と雇用状況の関係 .....	144
図 VII-35	マラウイにおける家庭飲料用水の水源別利用状況 (2010 年) .....	145
図 VII-36	マラウイにおける貧富階層別にみた給水方式・水源 (2009 年) .....	146
図 VII-37	マラウイ都市・地方部別にみた世帯の衛生施設整備状況 (2010 年) .....	147
図 VII-38	マラウイにおける飲用水源の状況 (都市部、2011 年) .....	148
図 VII-39	マラウイにおける衛生施設の状況 (都市部、2011 年) .....	148
図 VII-40	マラウイにおける飲用水源の状況 (北部地方部、2011 年) .....	149
図 VII-41	マラウイにおける衛生施設の状況 (北部地方部、2011 年) .....	149
図 VII-42	マラウイにおける飲用水源の状況 (中部地方部、2011 年) .....	150
図 VII-43	マラウイにおける衛生施設の状況 (中部地方部、2011 年) .....	150
図 VII-44	マラウイにおける飲用水源の状況 (南部地方部、2011 年) .....	151
図 VII-45	マラウイにおける衛生施設の状況 (南部地方部、2011 年) .....	151

(Annex 図表)

(北部)

図 IX-1	Chitipa District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	161
図 IX-2	Karonga District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	162
図 IX-3	Nkhata Bay District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	163
図 IX-4	Rumphi District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	164
図 IX-5	Mzimba District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	165

(中部)

図 IX-6	Kasungu District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	166
図 IX-7	Nkhotakota District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	167
図 IX-8	Ntchisi District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	168
図 IX-9	Dowa District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	169
図 IX-10	Salima District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	170
図 IX-11	Lilongwe District (地方部) 食料脆弱性地図・貧困率地図、 「Malawi-FEZ Map」	171
図 IX-12	Mchinji District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	172
図 IX-13	Dedza District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	173
図 IX-14	Ntcheu District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	174

(南部)

図 IX-15	Mangochi District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	175
図 IX-16	Balaka District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	176
図 IX-17	Machinga District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	177
図 IX-18	Neno District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	178
図 IX-19	Zomba District (地方部) 食料脆弱性地図・貧困率地図、 「Malawi-FEZ Map」	179
図 IX-20	Mwanza District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	180
図 IX-21	Blantyre District (地方部) 食料脆弱性地図・貧困率地図、 「Malawi-FEZ Map」	181
図 IX-22	Chiladzulu District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	182
図 IX-23	Mulanje District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	183
図 IX-24	Phalombe District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	184
図 IX-25	Chikwawa District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	185
図 IX-26	Thyolo District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	186
図 IX-27	Nsanje District 食料脆弱性地図・貧困率地図、「Malawi-FEZ Map」	187

## 貧困関連用語解説<sup>1</sup>

### (1) 貧困指標

用語	解説
絶対的貧困 Absolute Poverty	ある最低必要条件の基準が満たされていない状態を示す。一般的には、人間として生存するために最低限必要とされる食糧と食糧以外のものが購入できるだけの所得または支出水準 (= 貧困線) に達していない状態を絶対的貧困と定義する。
相対的貧困 Relative Poverty	ある地域社会の大多数よりも貧しい状態を示す。例えば所得が地域内の下位 10% に属する人は、衣食住が満たされていても相対的貧困者となる。また中所得国以上では、人間の生存の為に最低限必要な食糧と食糧以外の日常品ではなく、その社会で一般的な生活を送るために必要な収入・支出水準を元に相対的貧困線を設定する国もある。OECD などでは中位可処分所得の 50% の水準を高所得国の相対的貧困線と定義している。
貧困線 Poverty Line	所得または支出水準が最低限の必要を満たす水準が貧困線であり、それに達しない層 (= 貧困者) が全人口に占める割合を貧困率・または指数として示す。これにより表される貧困を経済的貧困、所得貧困とも言う。
国際貧困線 International Poverty Line	MDGs を機に、国際的な絶対的貧困線として「1 日 1 ドル未満」が設定された。国際貧困線以下の人口が世界の絶対的貧困者の数であり、その割合が国際貧困率として算出される。1993 年購買力平価での最貧 15 か国の貧困線の平均が月 32.74 米ドル (一日 1.08 米ドル) であったことから、MDGs 指標として一日 1 ドルの指標が採用された。最貧国の国別貧困線の各国の物価は異なり、同じ 1 ドルで購入できるものには大差があるため、購買力平価 (Purchasing Power Parity : PPP) を用いて、米国での 1 ドルの購買力に相当するように調整されている。2005 年以降の貧困線は物価上昇などを加味し、2008 年購買力平価における最貧 15 か国の貧困線の平均から、一日 1.25 ドルが国際比較のための絶対貧困線とされている <sup>2</sup> 。
国別貧困線 National Poverty Line	国ごとの実情を反映し、各国政府が家計調査のデータなどに基づいて独自に設定したのが国別貧困線である。国内における物価の差異に対応するため、都市、地方、あるいは地域ごとに設定された異なる貧困線を元に、統計的に国家貧困線を算出する場合もある。多くの発展途上国では、下記のベーシックニーズ貧困線が国別貧困線とされている <sup>3</sup> 。下記の食糧貧困線とベーシックニーズ貧困線は、国により Upper/Lower Poverty Line や、Poverty Line/Extreme Poverty Line など様々な表現があるため、定義によっていずれであるかを判断する必要がある。
食糧貧困線 Food Poverty Line	人間が生存していく上で、最低限必要なエネルギーを摂取できる支出レベルを算出したもの。摂取エネルギーは、FAO が提唱する成人の一日に必要なカロリー (2100 カロリー) を基準に、国ごとに設定される場合が多い。そのカロリーを摂取するための基本的な食糧の種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合がある。
ベーシックニーズ貧困線 CBN/Basic Needs Poverty Line	ベーシックニーズ費用手法 (The Cost of Basic Needs Method: CBN) を用い、食糧貧困線に非食糧、すなわち衣類、住居、医療などのための最低限の支出金額を足して算出される。
非食糧貧困線 Non Food Poverty Line	非食糧ニーズの種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合も多い。また、所得貧困 (Income Poverty) という表現がされることが多いが、途上国での貧困率の算出に使用されるのはほとんどの場合支出に関するデータである。

<sup>1</sup> 主に国際協力総合研修所 2008 年 3 月『指標から国を見る～マクロ経済指標、貧困指標、ガバナンス指標の見方』 ([http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC\\_and\\_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803\\_aid02.pdf](http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803_aid02.pdf))、世界銀行 (2009) Measuring Poverty and Inequality (<http://go.worldbank.org/4WJH9JQ350>) を元に作成。

<sup>2</sup> World Bank (2008) Dollar a Day Revisited (<http://go.worldbank.org/SMQ2FCW4J0>)

<sup>3</sup> World Bank (2012) Poverty Measurement Methodology by Country (<http://go.worldbank.org/OP02MEZ880>)

用語	解説
貧困ギャップ率・指数 Poverty Gap Ratio・ Index、P <sub>1</sub>	貧困率が貧困の発生頻度を表すのに対し、貧困ギャップ率は貧困の平均的「深さ (depth)」を表すために用いられる。通常、国別貧困率を元に算出される。貧困ギャップ率は、国民の収入または支出が貧困線に対して何パーセント下回っているか (乖離しているか) を、貧困線以上の人々の乖離率をゼロとして計算した数値である <sup>4</sup> 。貧困ギャップ率に貧困線と人口を乗じた数字が、貧困削減のための最低限の必要な費用であるとされ、政策上の目安となる。
二乗貧困ギャップ率・指数 Squared Poverty Gap Ratio・Index/Poverty Severity Ratio・Index、P <sub>2</sub>	貧困の極端な「深刻さ (severity)」を表すために用いられる。通常国別貧困率を元に算出される。二乗貧困ギャップ率は、貧困線からの乖離率を二乗したもので、乖離率が高ければ (貧困の深刻度が高い)、より大きく数値に反映される。

## (2) 不平等指数

用語	解説
ジニ係数・指数 Gini Coefficient, Gini Index	国や地域の所得 (または消費) の平等・不平等度を示す指標。完全に平等な社会では 0 になり、完全に不平等な社会では 1 となる。なお、世界銀行の統計などではパーセンテージ表示のジニ指数 (Gini Index) を用いており、完全に不平等な社会を 100 で表す。通常 30 から 50 の範囲になることが多く、40 を超えると社会が不安定になると一般的に言われている。
所得階層別の所得シェア Percentage Share of Income or Consumption	ジニ係数を算出する基礎となるもの。人口を所得水準で階層分類し (五分位または十分位)、国全体の所得のうちそれぞれの階層が占める割合を % で表示。一般的に、五分位の最下層 20% が全体の 6-10% の消費を行い、最上位 20% が全体の 35-50% の消費を行っている場合が多い。

## (3) 開発指数

用語	解説
人間開発指数 Human Development Index : HDI <sup>5</sup>	人間開発の 3 つの基本的側面 (①寿命、②知識、③生活水準) を総合して、各国の達成度を測定、比較するための指数。経済指標のみでは表せない国の開発の度合いを表す尺度として、UNDP が 1990 年に刊行した『人間開発報告 (Human Development Report)』の中で用い各国のランキングを行ったことに始まる。算出方法は、①平均寿命指数、②教育指数 (成人識字率と初等・中等・高等教育総就学率)、③GDP 指数 (1 人当たり実質 GDP (PPP)) について、それぞれの最大値を 1、最小値を 0 として算出し、3 つの平均値をとる。2010 年より HDI の派生指標として不平等調整済み HDI (IHDI) が導入されている。また、それまで発表されていたジェンダー開発指数 (GDI) とジェンダーエンパワメント指数 (GEM) に代わってジェンダー不平等指数 (GII) が、人間開発指数 (HPI) に代わって多次元貧困指数 (MPI) が導入された。

<sup>4</sup> World Bank (2009) “Handbook on poverty and inequality” (<http://issuu.com/world.bank.publications/docs/9780821376133>.)

<sup>5</sup> HDI の詳細については UNDP HDI 公式ウェブサイト (<http://hdr.undp.org/en/data/about/>)

UNDP 東京事務所から日本語でも入手可能。

[http://www.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human\\_development/human\\_development1.html](http://www.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human_development/human_development1.html)

#### (4) その他

用語	解説
ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) <sup>6</sup>	2000 年 9 月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した 147 の国家元首を含む 189 の国連加盟国代表は、21 世紀の国際社会の目標として「国連ミレニアム宣言」を採択した。この宣言と 1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものが MDGs である。MDGs は国際社会の課題に対して、2015 年までの達成を目指す期限付きの 8 つの目標、21 のターゲット、60 の指標を掲げている。貧困に関する様々な経済的・非経済的指標が取り上げられているが、その第 1 目標が、「一日 1.0 ドルの未満 (2005 年以降は 1.25 ドル) の絶対的貧困線以下の人口を半減する」という目標である。
脆弱度分析と地図化 (Vulnerability Analysis and Mapping: VAM) <sup>7</sup>	食糧安全保障の観点から、「人々が最低限の厚生水準を維持できないほど、食糧へのアクセスや食糧消費が急速に低下する可能性」を「脆弱性」と定義し、地域別の脆弱度を地図化したものが VAM である。WFP が緊急食糧援助を行う際、援助を最も必要とする人々や地域を選定し、効果的な支援を行うために開発した。VAM は、包括的食糧安全保障・脆弱度分析 (CFSVA)、食糧安全保障モニタリング・システム、GIS データを用いた空間分析と地図化の 3 つの活動からなる。CFSVA では、社会政治環境、地理・気象条件、マクロ経済、教育・保健水準、農業、環境などの観点から食糧安全保障と脆弱性に影響を与える要素を包括的に分析する。既存のデータに加え、家計調査や市場価格調査などを組み合わせ、「どのような社会グループ (生計活動や食糧入手手段) が影響を受けやすいか」などの分析も行う。

<sup>6</sup> MDG については国連 MDG 公式ウェブサイト (<http://unstats.un.org/unsd/mdg/default.aspx>)

<sup>7</sup> VAM に関しては WFP VAM ウェブサイト (<http://www.wfp.org/food-security>)



(略語集)

略語	正式名称	日本語名
ACT	Artemisinin-based Combination Therapy	アルテミシニン誘導体多剤併用療法 (マラリア治療)
AIDS	Acquired Immune Deficiency Syndrome	後天性免疫不全症候群
ASWAp	Agriculture Sector Wide Approach	農業セクターワイドアプローチ
CFSVA	Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis	総合食料安全保障および脆弱性分析
DAC	Development Assistance Committee	OECD 開発援助委員会
FAO	Food and Agriculture Organization	国連食糧農業機関
FEZ	Food Economy Zone	農業生産経済地域
FISP	Farm Inputs Subsidy Programme	農業用投入資材補助金プログラム
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GNI	Gross National Income	国民総所得
GSM	Global System for Mobile communications	GSM(第 2 世代携帯電話規格)
HDI	Human Development Index	人間開発指数
HIV	Human Immunodeficiency Virus	ヒト免疫不全ウイルス
IBRD	International Bank for Reconstruction and Development	国際復興開発銀行
IHS	Integrated Household Survey	総合世帯調査
ILO	International Labour Organization	国際労働機関
IPTp	Intermittent Preventive Treatment in pregnancy	妊婦に対する間欠的予防治療 (マラリア)
IRS	Indoor Residual Spraying	室内残留性噴霧
ITN	Insecticide Treated Net	防虫処理済蚊帳
JETRO	Japan External Trade Organization	独立行政法人 日本貿易振興機構
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
LDCs	Least Developed Country/Countries	後発開発途上国
MDGs	Millennium Development Goals	国連ミレニアム開発目標
MDHS	Malawi Demographic and Health Survey	マラウイ国民健康調査
MGDS	Malawi Growth and Development Strategy	マラウイ成長開発戦略 (国家開発計画)
MoDPC	Ministry of Development Planning and Cooperation	マラウイ開発計画協力省
NSO	National Statistical Office	マラウイ国立統計事務所
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
PRSP	Poverty Reduction Strategy Papers	貧困削減戦略文書
RDT	Rapid Diagnostic Test	マラリア迅速診断試験法

略語	正式名称	日本語名
<b>SADC</b>	Southern African Development Community	南部アフリカ開発共同体
<b>SP</b>	Sulfadoxine-Pyrimethamine	スルファドキシン/ピリメタミン (マラリア治療薬)
<b>TNM</b>	Telekom Networks Malawi	テレコムネットワーク マラウイ (携帯電話会社)
<b>UNCTAD</b>	United Nations Conference on Trade and Development	国連貿易開発会議
<b>UNDP</b>	United Nations Development Programme	国連開発計画
<b>UNHCR</b>	Office of the United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所
<b>USDA</b>	U.S. Department of Agriculture	アメリカ農務省
<b>WFP</b>	World Food Programme	国連世界食糧計画
<b>WMS</b>	Welfare Monitoring Survey	厚生モニタリング調査 (マラウイ)

(要約)

章	項目	概要
I 章	貧困の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラウイは葉タバコが輸出品の 6 割以上を占める著しいモノカルチャー経済であり、葉タバコの国際価格や生産量の変動に国内経済が影響を受ける。かつては国外の出稼ぎによる送金も重要な収入源だったが、現在は GDP に占める海外送金の割合は著しく低下している。</li> <li>インフラは北部と中部を結ぶ幹線道路の状況が悪い。東西方向の電力整備が遅れているが、携帯電話網はほぼ全土をカバーしている。灌漑適地は多く存在するにもかかわらず、現在は開発が停滞している。</li> </ul>
II 章	国家開発計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>2000 年に策定された長期国家開発計画「Vision 2020」の下位計画として、貧困削減戦略と経済開発戦略を統合した 5 か年中期計画「<i>Malawi Growth and Development Strategy (MGDS)</i>」が 2006 年から実施されており、2011 年から第 2 フェーズに入っている (2011~2016 年)。</li> <li>「MGDS」の中に、国連 MDGs の数値指標が組み込まれており、第 1 フェーズ (2006~2011 年) の数値目標の多くが達成されている。</li> </ul>
III 章   VI 章	貧困の主な背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>貧困状況はマラウイ国内において大きく相違する。対立軸としては大きく分けて ①都市部と地方部②北部・中部・南部地方の各 District の 2 つが存在する。都市部はマラウイ全国平均と比べると貧困率は少ない。一方、地方の貧困は主に地域の農業生産性によって規定されており、同一地方であっても農業生産性によって収入状況が異なる。</li> <li>栽培作物によっても状況が変化し、トウモロコシ栽培が多い地域は降雨量変動などによって食料脆弱性が著しく変動する。</li> <li>高賃金が得られる大農場が多く存在する District は貧困率が低くなる一方、賃金の安い中小農場が多い District は貧困率が高くなる。</li> <li>貧困世帯の収入源として「Ganyu」と呼ばれる労働形態がある。「Ganyu」については、賛否両論が存在する。</li> <li>HDI 数値は GNI を除き、ゆるやかではあるが着実に改善している。</li> <li>国連 MDGs については、マラウイ政府が国連指標値と異なる定義を使用している場合があるため、注意を要する。</li> <li>地方部は高い教育を受けても高収入の雇用機会が得られないため、学校に行かなくなる傾向がある。</li> <li>保健関係の MDG 指標は改善を続けている。</li> <li>マラウイでは、脆弱性を有する集団として高齢者、慢性疾病者、孤児、障害者、寡婦世帯、等があげられている。都市部高齢者は若年層と比べて貧困率が高く、地方部高齢者は 40 代後半をピークに逆に貧困率が低くなっている。喘息などの慢性疾病患者の報告者数は、貧困層の方が低いものの、マラリアなど感染症の報告者数は貧困層の方が多い特徴がある。15 歳以下の子どもうちの 10%が両親または片親を失っているが、父親を亡くした場合が 7 割を占め、寡婦が多い。この寡婦が世帯主である場合の世帯は低所得である割合が高い。障害者は、生活社会環境の未整備や差別などの問題に直面しており、就学や就労に支障をきたすことから社会的被排除グループとしての対策が課題となっている。</li> <li>都市部と地方部の双方ともに、世帯主の最終学歴として初等・中等・高等教育の各順に貧困の発現率は低下しており、教育水準と貧困は高い相関関係にある。</li> <li>児童労働に従事する母親の過半数以上が初等教育のみ、または全く教育を受けていない。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内外の人口移動については、国内の地方から都市部へ移住するパターンが最も多く、そのうちの 70%は低所得層に属する。</li> <li>• 国外からの難民も積極的に受け入れているマラウイでは、ホスト・コミュニティの森林伐採が進むなど経済的脆弱性が指摘されている。</li> <li>• 85%が農業に従事するマラウイでは、干ばつの影響は大きく、特に南部州では食料危機を招いている。</li> </ul>
VII 章	JICA の重要課題と貧困との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小規模農家世帯の農業生産財へのアクセスは限られており、持続的な農業生産にかかる土地管理技術、灌漑技術の普及が課題となっている。</li> <li>• 国内約 90%の世帯が薪燃料を使用しており、薪炭材の供給源である森林の面積が特に人口密度の高い都市部近郊において著しく減少している。</li> <li>• 鉱山部門には、約 5 千人の正規労働者に対して 4 万人程度の非正規鉱山労働者がおり、これらの多くはインフォーマルセクターにおける小規模零細な宝石用原石、碎石の採掘、砂利の採集などに従事している</li> <li>• 幹線道路に次ぐ交通輸送機能を有する第 2 次道路は、その多くが未舗装（総延長 3,215km のうち 2,683km）のうえ、地域によっては依然断続的な状況にあり、第 3 次道路の整備とともに産業振興に向けた課題となる。</li> <li>• 中等教育における生徒の中退率は、初等教育と比較して著しく高く（10 倍超）、教員数は初等教育の約 15%、教室数は約 20%程度にとどまっている。</li> <li>• 低所得者層について、井戸と表流水利用が主たる給水源となっており、表流水を利用する世帯の割合は地方部では都市部の 10 倍超となっている。</li> </ul>

巻頭図表-1(a) 主要指標一覧 (2001 年～2011 年)

2013年11月版

主要指標一覧 【マラウイ】

	指標項目	2001年	2009年	2010年	2011年	2011年の 地域平均値
社 会 指 標 等	地表面積(1000km <sup>2</sup> )	118	118	118	118	n.a.
	人口(百万人)	11.6	14.6	15.0	15.5	887.2
	人口増加率(%)	2.6	3.0	3.0	2.9	2.7
	出生時平均余命(歳)	46	53	53	54	56
	妊産婦死亡率(出生10万人当たり)	n.a.	n.a.	460	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(出生1000人当たり)	96.5	55.4	52.6	49.2	65.9
	栄養不足人口(%)	27.3	23.2	23.2	23.1	24.5
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	2,230	2,318	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	143.7	130.1	136.3	138.5	103.6
	初等教育総就学率(女)(%)	139.2	133.9	141.3	144.1	96.3
	初等教育修了率(%)	65.8	65.9	68.3	71.2	69.2
	中等教育総就学率(男)(%)	37.0	33.9	34.6	35.7	44.8
	中等教育総就学率(女)(%)	28.8	29.7	31.4	32.6	37.1
	高等教育総就学率(%)	0.4	n.a.	0.7	0.8	7.6
	男性成人識字率(15歳以上の男性人口の内:%)	n.a.	n.a.	81.1	n.a.	68.8
	女性成人識字率(15歳以上の女性人口の内:%)	n.a.	n.a.	68.5	n.a.	51.3
	女性の国会議員比率(%)	9.3	20.8	20.8	22.3	20.5
	絶対的貧困水準(1日1.25 \$ 以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	61.6	n.a.	n.a.
	失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	軍事費(対GDP比:%)	0.7	1.2	n.a.	0.8	1.5
携帯電話契約者数(100人当たり)	0.5	17.2	20.9	25.7	53.3	
人間開発指数*2(2011年ランキング:171位/187カ国)	0.387	n.a.	0.413	0.415	0.472	
経 済 指 標	GDP(百万USDドル)	1,717	5,031	5,399	5,621	1,278,135
	一人当たりGNI(USDドル)	140	320	340	360	1,256
	実質GDP成長率(%)	-5.0	9.0	6.5	4.3	4.5
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	38.8	32.1	30.1	30.2	11.6
	工業	16.7	18.5	19.9	19.3	29.7
	サービス業	44.5	49.4	49.9	50.5	58.6
	産業別成長率(%)					
	農業	-6.0	13.1	2.0	6.9	n.a.
	工業	-10.7	5.4	11.1	0.4	n.a.
	サービス業	0.3	8.1	6.9	3.6	5.3
	総資本形成率(対GDP比:%)	14.9	25.6	26.0	15.5	21.7
	貯蓄率(対GDP比:%)	3.8	11.3	10.4	5.6	17.7
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	22.7	8.4	7.4	7.6	5.9
	財政収支(対GDP比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	-11.1	-14.3	-15.6	-9.9	-2.7
	経常収支(対GDP比:%)	n.a.	-11.0	-16.8	-13.6	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	19	49	97	92	42,180
	対外債務残高(対GNI比:%)	154.3	24.6	21.1	22.3	n.a.
DSR(対外債務返済比率:%)	9.5	2.9	1.7	1.3	n.a.	
総外貨準備高(百万ドル)	206	163	325	217	n.a.	
(輸入支払い可能月数)	n.a.	0.8	1.5	0.9	4.9	
名目対ドル為替レート*3 (Kwacha per US Dollar: Period Average)	72.20	141.17	150.49	156.52	n.a.	
政 治 指 標	*4 政治体制:共和制。大統領が最高権力者 憲法:1995年5月18日新憲法公布 元首:大統領。ジョイス・バンダ(Joyce BANDA)。直接選挙制。任期5年。2012年4月7日就任 議会:一院制。193議席。直接選挙制。任期5年 内閣:大統領が任免。首相なし。2012年4月26日発足					

出典 World Development Indicators Online (September 2013) World Bank

\*1 FAO Food Balance Sheets (June 2012) FAOSTAT Homepage

\*2 Human Development Report (2003)(2011) UNDP

\*3 International Financial Statistics Online (October 2013) IMF

\*4 世界年鑑 2013 共同通信社

注 ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高(百万ドル)」の「2011年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

(出典) JICA 研究所 (2013 年 11 月版)

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Malawi.pdf> (2013/12/24 アクセス)

巻頭図表-1(b) 主要指標一覧 (2001 年～2011 年)

中央政府歳入・歳出【マラウイ】

	2009/10年 (百万クワ)	2010/11年 (百万クワ)	2011/12年Proj. (百万クワ)	2011/12年 (百万US\$)*	2011/12年 対GDP比	
歳入	257,499	271,900	260,203	1,662	27.0%	対ドルレート 156.52
租税収入	141,755	175,695	180,906	1,156	18.8%	
贈与受取	78,448	64,329	52,678	337	5.5%	
その他	37,296	31,877	26,619	170	2.8%	
総支出	255,947	295,195	328,105	2,096	34.0%	GDP(現地通貨) 964,500
歳出	195,861	230,225	250,686	1,602	26.0%	
人件費	44,792	58,092	69,916	447	7.2%	
財・サービス	84,120	95,054	102,906	657	10.7%	
利払い	21,498	22,819	20,243	129	2.1%	
補助金	34,682	36,994	41,400	265	4.3%	
贈与支払	4,394	5,225	4,358	28	0.5%	
社会保障	6,376	12,042	11,863	76	1.2%	
その他	0	0	0	0	0.0%	
非金融資産の純増	60,086	64,971	77,419	495	8.0%	
財政収支	1,552	-23,295	-67,901	-434	-7.0%	

歳出内訳 (目的別分類)【マラウイ】

	2009/10年 (百万クワ)	2010/11年 (百万クワ)	2011/12年Proj. (百万クワ)	2011/12年 内訳	2011/12年 (百万US\$)*	2011/12年 対GDP比
歳出	195,861	230,225	250,686	100.0%	1,602	26.0%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

会計年度は7月～6月

\*: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average (出典)IMF, International Financial Statistics (Online), October 2013  
出典 IMF, Country Report No.12/221, August 2012

対マラウイ J I C A 事業実績

(単位: 億円)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	累計
円借款(承諾額)	-	-	-	-	-	331.49
(実行額)	-	-	-	-	-	-
無償資金協力	-	15.43	33.36	11.96	5.63	-
技術協力	14.88	17.52	14.22	19.61	13.26	378.14
(うち機材供与)	0.54	0.20	0.03	1.15	0.07	24.81

対マラウイ J I C A 技術協力人数実績

(単位: 人)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	累計
研修員受入	132	168	147	178	174	2,465
専門家派遣	41	46	38	56	46	506
調査団派遣	27	68	76	45	45	1,231
協力隊派遣	24	37	47	46	40	1,597
その他ボランティア	5	8	1	0	1	35

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)。無償は当年度供与限度額(JICA実施監理事件)  
出典: JICA事業実績

対マラウイ O D A 実績

《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2007年	-181.52	209.35	12.47	40.29
2008年	-	16.71	14.08	30.79
2009年	-	18.98	16.82	35.80
2010年	-	49.59	19.86	69.46
2011年	-	11.37	17.27	28.64
累計	-35.38	721.97	306.40	992.95

《D A C 諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2009年	英国 111.70	米国 111.41	ルウェー 63.63	日本 35.80	ドイツ 30.20	35.80	435.16
2010年	英国 148.03	米国 126.29	日本 69.46	ルウェー 64.71	ドイツ 41.93	69.46	517.15
2011年	米国 154.55	英国 104.06	ルウェー 66.85	日本 28.64	ドイツ 26.31	28.64	447.83

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2009年	EU Ins. 84.10	IDA 82.19	GFATM 66.87	AfDF 48.18	UNDP 11.78	39.30	332.42
2010年	EU Ins. 208.33	IDA 131.83	GFATM 49.82	AfDF 41.42	IMF 21.18	51.08	503.66
2011年	GFATM 118.62	EU Ins. 72.32	IDA 70.01	GAVI 24.13	AfDF 22.98	40.81	348.87

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。国際機関の略語は別添参照  
出典: OECD/DAC

(出典) JICA 研究所 (2013 年 11 月版)

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Malawi.pdf> (2013/12/24 アクセス)

巻頭図表-2 我が国の対マラウイ援助実績 (2007 年～2011 年)

表-4 我が国の対マラウイ援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年 度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2007 年度	-	23.50	13.06 (12.89)
2008 年度	-	20.03 (6.78)	15.01 (14.88)
2009 年度	-	33.22	17.59 (17.52)
2010 年度	-	40.68	14.41 (14.22)
2011 年度	-	13.26	19.61
累 計	331.49	613.05 (6.78)	364.87

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。  
 2. 金額は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与 (2008年度実績より、括弧内に全体の内数として計上) については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。  
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。  
 4. 2007～2010年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2007～2010年度の ( ) 内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2011年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。  
 5. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

表-5 我が国の対マラウイ援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位: 百万ドル)

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2007 年	-181.52	209.35 (2.34)	12.47	40.29
2008 年	-	16.71 (4.06)	14.08	30.79
2009 年	-	18.98 (6.00)	16.82	35.80
2010 年	-	49.59	19.86	69.46
2011 年	-	11.37	17.27	28.64
累 計	-35.38	721.98 (12.40)	306.40	992.94

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、抛出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力で計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。( ) 内は、国際機関を通じた贈与の実績 (内数)。  
 2. 政府貸付等及び無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額 (政府貸付等については、マラウイ側の返済金額を差し引いた金額)。  
 3. 政府貸付等の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。  
 4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。  
 5. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

(出典) 日本国外務省(2012) 「政府開発援助 (ODA) 国別データブック 2012」 P.631

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni/12\\_databook/pdfs/05-40.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni/12_databook/pdfs/05-40.pdf)

(2013/12/24 アクセス)

巻頭図表-3 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困ギャップ率・ジニ係数 地域別  
(2010 年)

Background characteristics	IHS3 (2010)						Gini
	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	
<b>Malawi</b>	<b>50.7</b>	<b>18.9</b>	<b>9.3</b>	<b>24.5</b>	<b>7.0</b>	<b>2.8</b>	<b>0.452</b>
<b>Urban</b>	<b>17.3</b>	<b>4.8</b>	<b>2.0</b>	<b>4.3</b>	<b>1.3</b>	<b>0.5</b>	<b>0.491</b>
<b>Rural</b>	<b>56.6</b>	<b>21.4</b>	<b>10.6</b>	<b>28.1</b>	<b>8.0</b>	<b>3.3</b>	<b>0.375</b>
<i>Rural North</i>	59.9	22.2	10.7	29.0	7.9	3.0	0.344
<i>Rural Centre</i>	48.7	17.3	8.3	21.5	6.1	2.4	0.369
<i>Rural South</i>	63.3	25.1	12.8	34.2	10.0	4.1	0.379
Chitipa	75.6	31.2	16.2	43.6	13.0	5.2	0.356
Karonga	61.7	21.6	10.1	26.0	7.0	2.7	0.359
Nkhatabay	44.5	15.1	7.0	17.7	4.8	2.0	0.323
Rumphi	37.3	11.0	4.3	10.8	2.3	0.7	0.335
Mzimba	60.9	23.2	11.3	31.7	8.5	3.2	0.353
Mzuzu City	15.9	3.5	1.1	2.1	0.4	0.1	0.408
Kasungu	33.6	10.3	4.4	10.8	2.8	1.1	0.349
Nkhotakota	32.1	9.5	4.1	11.2	2.5	0.9	0.370
Ntchisi	41.4	10.7	4.0	10.3	1.9	0.6	0.335
Dowa	45.6	14.1	6.3	16.6	4.4	1.7	0.384
Salima	41.1	13.8	6.1	16.5	4.0	1.4	0.343
Lilongwe	56.6	23.8	12.5	31.0	10.2	4.4	0.417
Mchinji	55.5	21.3	10.7	31.9	8.2	3.2	0.407
Dedza	56.8	20.0	9.5	25.1	7.1	2.7	0.354
Ntcheu	45.6	13.3	5.5	14.0	3.2	1.2	0.343
Lilongwe City	22.3	6.2	2.6	4.1	1.6	0.7	0.495
Mangochi	73.2	30.3	15.0	44.4	11.2	3.9	0.329
Machinga	75.0	29.1	14.1	39.2	10.2	3.7	0.320
Zomba	56.6	20.6	10.0	26.4	7.6	3.0	0.384
Chiradzulu	43.3	11.6	4.4	12.5	2.2	0.6	0.377
Blantyre	40.0	11.9	4.8	13.5	2.8	0.9	0.421
Mwanza a/	64.3	24.1	11.5	31.4	8.2	3.0	0.369
Mwanza b/	63.0	24.6	11.7	33.5	8.3	2.8	0.417
Neno b/	65.3	23.8	11.3	29.7	8.2	3.3	0.317
Thyolo	36.8	10.4	4.5	11.2	3.1	1.2	0.317
Mulanje	65.3	26.0	13.6	33.6	10.9	4.9	0.384
Phalombe	64.5	28.4	15.1	41.7	12.5	4.9	0.385
Chikwawa	81.6	40.6	24.3	59.0	21.9	10.9	0.381
Nsanje	81.2	40.4	23.9	56.0	21.2	10.8	0.381
Balaka	67.7	23.9	10.8	33.2	7.3	2.4	0.324
Zomba City	16.3	4.0	1.4	3.0	0.6	0.2	0.459
Blantyre City	7.5	1.9	0.7	2.0	0.5	0.1	0.499

\*Change statistically different at 5 percent level

(出典) National Statistical Office, Malawi (2012)

“Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”Table 13.2~13.9 より作成



巻頭図表-4 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困ギャップ率・ジニ係数 地域別  
(2005 年)

Background characteristics	IHS2 (2005)						Gini
	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	
<b>Malawi</b>	<b>52.4</b>	<b>17.8</b>	<b>8.0</b>	<b>22.3</b>	<b>5.3</b>	<b>1.8</b>	<b>0.390</b>
<b>Urban</b>	<b>25.4</b>	<b>7.1</b>	<b>2.8</b>	<b>7.5</b>	<b>1.6</b>	<b>0.5</b>	<b>0.484</b>
<b>Rural</b>	<b>55.9</b>	<b>19.2</b>	<b>8.6</b>	<b>24.2</b>	<b>5.8</b>	<b>2.0</b>	<b>0.339</b>
<i>Rural North</i>	56.3	19.6	8.8	25.9	5.9	1.9	0.336
<i>Rural Centre</i>	46.7	14.1	5.9	16.1	3.5	1.1	0.322
<i>Rural South</i>	64.4	23.8	11.2	31.5	7.9	2.8	0.345
Chitipa	67.2	22.7	9.7	30.4	5.8	1.7	0.284
Karonga	54.9	20.4	9.6	28.3	7.0	2.3	0.348
Nkhatabay	63.0	23.4	11.6	30.3	9.0	3.5	0.365
Rumphi	61.6	21.2	9.6	24.2	6.3	2.6	0.340
Mzimba	50.6	16.9	7.2	22.7	4.4	1.3	0.327
Mzuzu City	34.0	9.6	3.7	10.1	2.0	0.6	0.379
Kasungu	44.9	12.9	5.2	15.1	2.9	0.8	0.347
Nkhotakota	48.0	12.2	4.4	11.4	2.3	0.6	0.310
Ntchisi	47.3	12.8	5.0	12.2	2.8	0.9	0.316
Dowa	36.6	7.5	2.0	3.3	0.4	0.1	0.246
Salima	57.3	19.7	9.3	25.0	6.6	2.4	0.323
Lilongwe	37.5	10.7	4.3	11.7	2.4	0.8	0.320
Mchinji	59.6	21.6	10.2	30.4	7.2	2.4	0.348
Dedza	54.6	17.5	7.4	20.9	4.2	1.4	0.306
Ntcheu	51.6	17.4	7.5	21.1	4.7	1.5	0.329
Lilongwe City	24.6	7.5	3.2	8.8	2.0	0.7	0.522
Mangochi	60.7	22.3	10.4	29.3	7.3	2.6	0.337
Machinga	73.7	27.8	12.8	38.3	8.8	2.8	0.312
Zomba	70.0	29.3	15.1	41.0	11.9	4.7	0.368
Chiradzulu	63.5	21.4	9.3	27.5	5.7	1.7	0.297
Blantyre	46.5	13.9	5.7	16.0	3.2	1.0	0.362
Mwanza a/	55.6	17.1	7.2	19.7	4.4	1.5	0.324
Mwanza b/	-	-	-	-	-	-	-
Neno b/	-	-	-	-	-	-	-
Thyolo	64.9	24.5	11.4	33.0	7.9	2.6	0.371
Mulanje	68.6	24.7	11.3	30.6	7.6	2.9	0.352
Phalombe	61.9	21.8	9.8	26.9	6.5	2.1	0.343
Chikwawa	65.8	24.2	11.6	31.9	8.6	3.2	0.302
Nsanje	76.0	30.8	15.9	44.3	12.5	5.0	0.324
Balaka	66.8	25.7	12.4	33.5	9.0	3.3	0.325
Zomba City	28.7	9.8	4.6	11.6	3.1	1.2	0.412
Blantyre City	23.6	5.5	1.9	4.8	0.8	0.2	0.428

\*Change statistically different at 5 percent level

(出典) National Statistical Office, Malawi (2012)

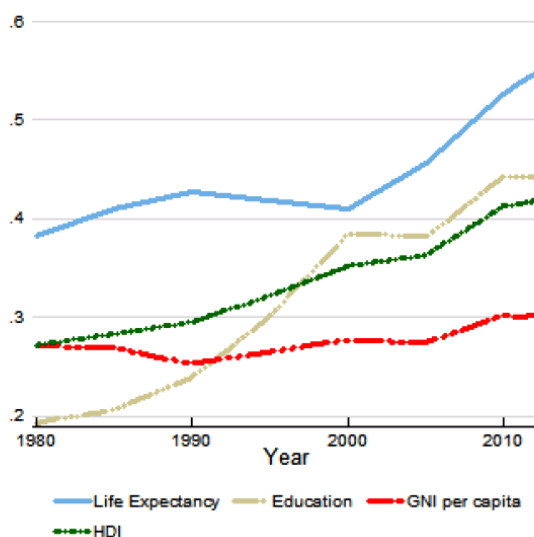
“Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”Table 13.2~13.9 より作成

巻頭図表-5 HDI 指標 (1980~2012 年)

Table A: Malawi's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology

	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Mean years of schooling	GNI per capita (2005 PPP\$)	HDI value
1980	44.4	4.8	1.8	0,628	0.272
1985	46.1	4.6	2.1	0,617	0.283
1990	47.1	5.2	2.5	0,554	0.295
1995	46.7	7.5	2.7	0,602	0.322
2000	46	11	3	0,654	0.352
2005	49	9.7	3.4	0,640	0.363
2010	53.5	10.4	4.2	0,775	0.413
2011	54.2	10.4	4.2	0,763	0.415
2012	54.8	10.4	4.2	0,774	0.418

Figure 1: Trends in Malawi's HDI component indices 1980-2012



(出典) UNDP(2013) "Malawi: Human Development Report 2013" P.2

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/MWI.pdf> (2014/01/06 アクセス)

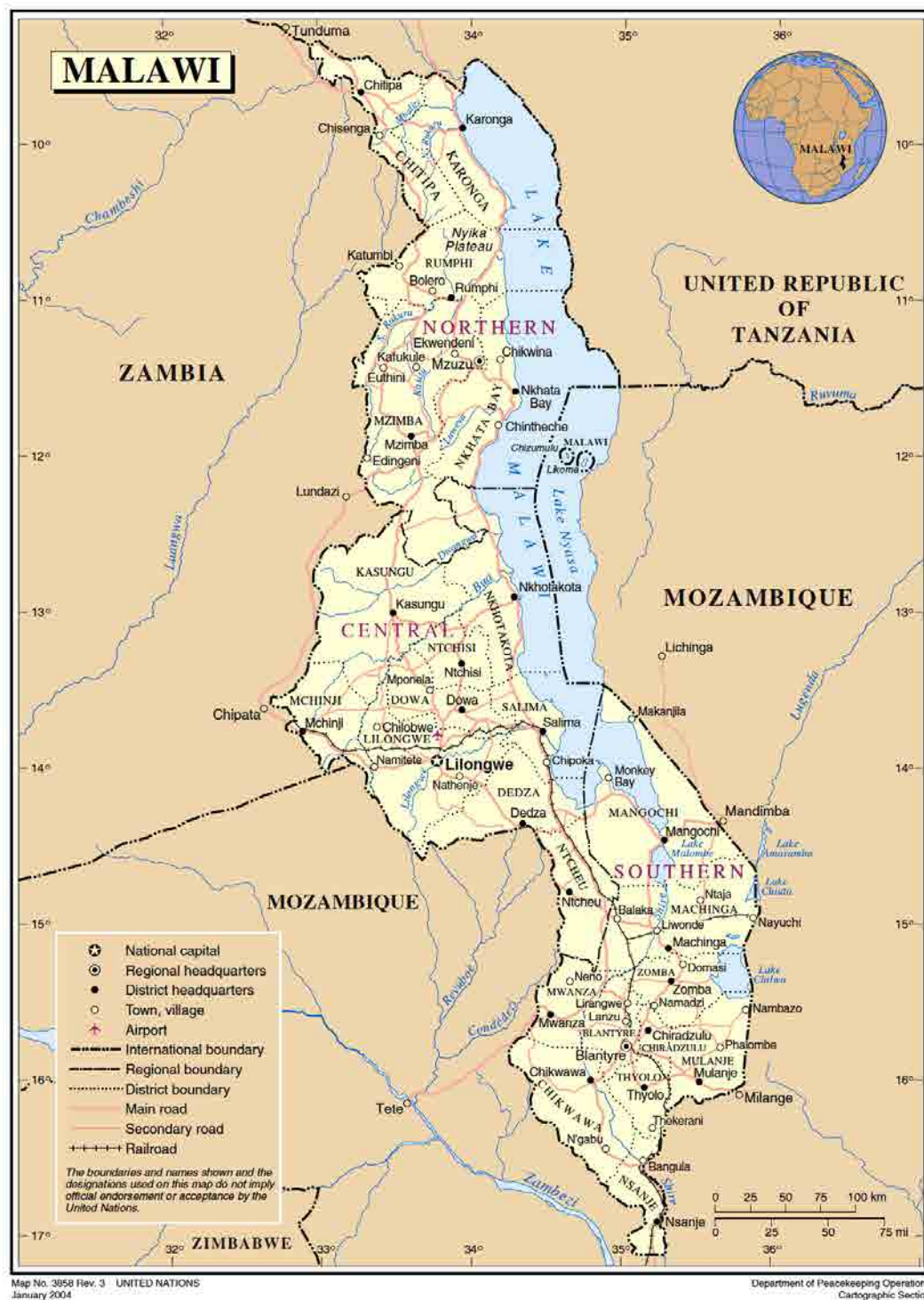
巻頭図表-6 MDGs 達成状況図 (2010 年)

GOAL/TARGET	Indicator	Current Status	2015 Target	Feasibility of achieving the Goal
Eradicate Extreme Poverty and Hunger	Proportion of population living below US\$1.00 per person per day	39 %	27 %	Likely to be met
	Poverty Gap Ratio	17.8 %	8 %	
	Poorest Quintile Share in National Consumption	10.1 %	20 %	
	Prevalence of Underweight Children	17 %	14 %	
	Proportion of population below minimum level of dietary energy consumption	15 %	11.8 %	
Achieve Universal Primary Education	Net Enrolment in Primary	83 %	100 %	Unlikely to be met
	Proportion of Pupils Starting Grade1 Reaching Grade 5	75.7 %	100 %	
	Literacy Rate (15-24yrs)	84 %	100 %	
Promote Gender Equality and Empower Women	Ratio of Girls to Boys in Primary Education	1.03	1	Unlikely to be met
	Ratio of Girls to Boys in Secondary Education	0.79	1	
	Ratio of Literate Women to Men 15-24 Years Old	0.94	1	
	Share of Women in Wage Employment in non-Agriculture Sector	15 %	50 %	
	Proportion of Seats Held by Women in Parliament	22 %	50 %	
Reduce Child Mortality	Under-five mortality rate	122 per 1,000	78 per 1,000	Likely to be met
	Infant Mortality rate	69 per 1,000	44.7 per 1,000	
	Proportion of 1 year children immunized against measles	84 %	100 %	
Improve Maternal Health	Maternal mortality ratio	807 per 100,000	155 per 100,000	Unlikely to be met
	Proportion of births attended to by skilled health personnel	75 %	100 %	
Combat HIV and AIDS, Malaria and other diseases	HIV prevalence among 15-24 year old pregnant women	12 %	0 %	Likely to be met
	Ratio of orphans to non-orphans in school	0.15	-	
	Deaths rates associated with Malaria	3 %	-	
	Access to Malaria Treatment	22 %	-	
	Proportion of Household with at least one ITN	60 %	-	
	Death rates associated with Tuberculosis	8 %	-	
	Proportion of TB Cases under DOTS	86 %	-	
Ensure Environmental Sustainability	Proportion of land covered by forest	36.2 %	50 %	Likely to be met
	Proportion of area protected to maintain biological diversity	0.16 %	0.18 %	
	Proportion of population using solid fuel	98 %	0 %	
	Proportion of population with sustainable access to an improved water source	81 %	74 %	
	Proportion of population with access to improved sanitation	93 %	86.2 %	
	Slum population as percentage of urban population	67.7 %	-	
Develop Global Partnership for Development	Net ODA as a percentage of Real Gross Domestic Product	22 %	-	Likely to be met
	Unemployment of 15-24 year old (urban)	4 %	-	
	Telephone lines subscribers per 100 population	2.3 %	-	
	Cellular subscribers per 100 population	21 %	-	
	Internet users per 1,000 population	10.5 %	-	

Note: '-' means no target set for the indicator

(出典) Ministry of Development Planning and Cooperation, Malawi (2011)  
 “2010 Malawi Millennium Development Goals Report” 巻頭 P.ix~x の表より作成  
<http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Malawi/MalawiMDGs2010Report.pdf>  
 (2013/12/26 アクセス)

巻頭図表-7 マラウイ全土地図 (行政区分)

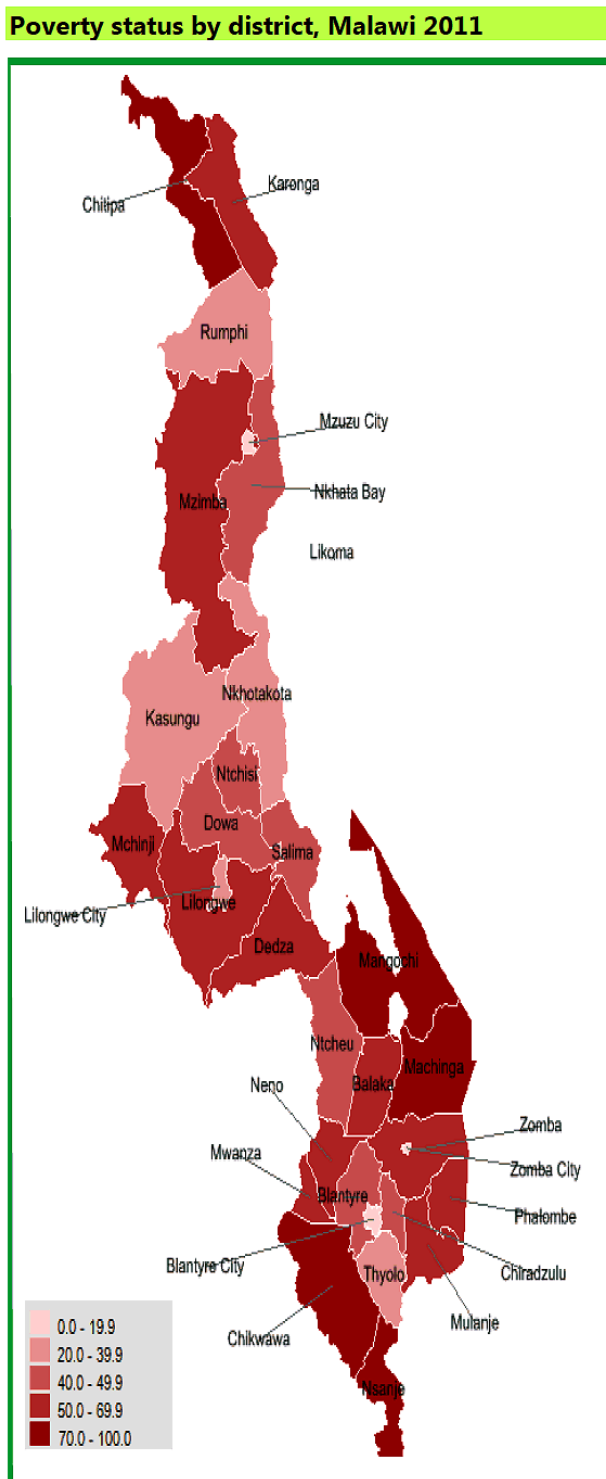


(出典) UN(2004) “Malawi Map”

<http://www.un.org/Depts/Cartographic/map/profile/malawi.pdf>

(2013/12/24 アクセス)

巻頭図表-8 マラウイ貧困地図 (2011 年)



(出典) National Statistical Office, Malawi (2011)

“Integrated Household Survey 2010-2011”

[http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1233781970982/5800988-1271185595871/IHS3\\_Report.pdf](http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1233781970982/5800988-1271185595871/IHS3_Report.pdf)

(2013/12/24 アクセス)



## I. マラウイ国の貧困状況の概観

マラウイは南部アフリカに位置し、ザンビア・タンザニア・モザンビークの3か国に囲まれた内陸国家である。1964年に「マラウイ共和国」としてイギリスから独立した。2010年の1人あたりGNIは330 USDに過ぎず、サブサハラ・アフリカ52か国の中でも4番目の低所得国<sup>1</sup>であり、後発開発途上国(LDCs)となっている。マラウイは独立当初、南部のZombaに首都を置いていたが、1975年に中部のLilongweに遷都した。その後、同国中部の都市人口は急速に増加しており、Lilongweの人口は2008年に674,448人となり、かつてマラウイ最大の人口を抱えていた南部のBlantyre(661,444人)を抜いて、マラウイ最大の都市となっている<sup>2</sup>。

マラウイは独立以降、内戦やクーデターなどの深刻な政治的混乱は長く発生しなかった。ムタリカ前政権下では2008～2010年にかけて年6～9%という高い経済成長を示したが、政権末期(2011年)に独裁色を強めたため、西側ドナー国との確執が発生し、一般財政支援が一時停止された。また、葉たばこの供給過剰による価格暴落などで経済が混乱し、死傷者を伴う反政府デモが発生した。ムタリカ前大統領が2012年4月に死去したことに伴い、バンダ副大統領(女性)が大統領に就任した。バンダ政権はドナー各国と関係改善を図り、現時点では混乱は収束している<sup>3</sup>。

Figure 3: Map of Malawi showing Population Density by district, 2008

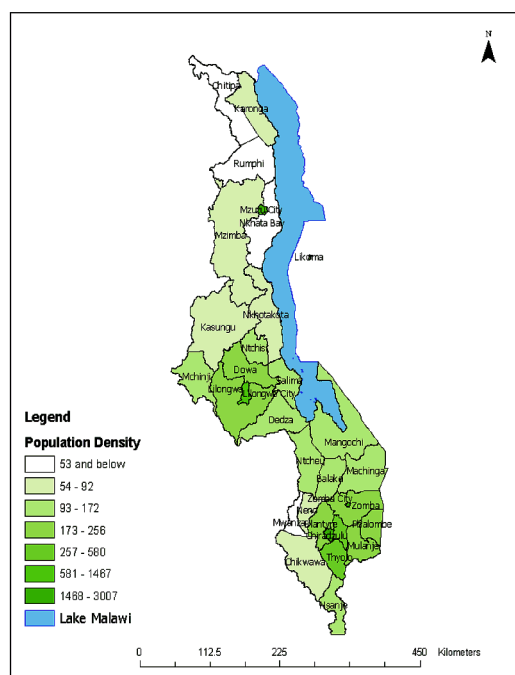


図 I-1 マラウイの人口密度 (2008 年)<sup>4</sup>

注：マラウイにおける会計年度は7月～翌年6月であるが、本稿における「年度」という用語は、会計年度だけではなく、該当の調査が複数年にまたがっていることを指す場合がある。

<sup>1</sup> JICA (2012) 「マラウイ国JICA 国別分析ペーパー」 P.9

※サブサハラ・アフリカ諸国は54か国だが、統計が存在しない2か国(ソマリア・南スーダン)を除いてある。

<sup>2</sup> JICA (2012) 「マラウイ国JICA 国別分析ペーパー」 P.4

<sup>3</sup> 外務省 (2012) 「政府開発援助 国別データブック 2012 (マラウイ)」 P.627

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryu/kuni/12\\_databook/pdfs/05-40.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryu/kuni/12_databook/pdfs/05-40.pdf) (2013/12/13 アクセス)

<sup>4</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “2008 Population and Housing Census Preliminary Report” P.12

[http://unstats.un.org/unsd/demographic/sources/census/2010\\_phc/Malawi/Malawi\\_Report.pdf](http://unstats.un.org/unsd/demographic/sources/census/2010_phc/Malawi/Malawi_Report.pdf) (2013/12/13 アクセス)

マラウイは周辺諸国と異なり、鉱物資源の開発が進まなかったため<sup>5</sup>、農業部門が商品輸出の 8 割近くを占め<sup>6</sup>、さらにその 6 割以上が葉たばこの輸出である<sup>7</sup> (図 I-2)。タバコは健康問題で今後の市場拡大が見込めないことから、マラウイ政府では UNDP などと共同で、代替輸出品の開発を試みている<sup>8</sup>が、当面の間はこの経済構造は変わらないとみられる。そのため、タバコの国際価格や生産量の変動によって、マラウイの国内経済が著しく影響を受ける構造となっている (図 I-3)。

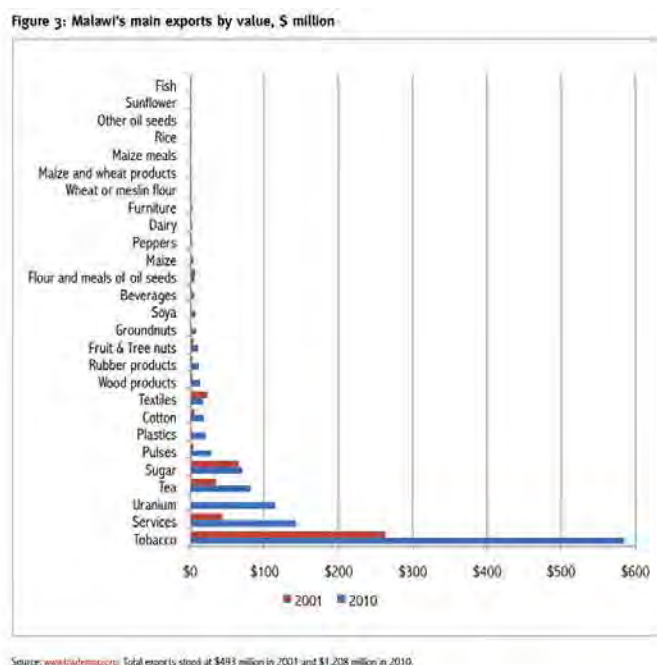


図 I-2 マラウイにおける品目別輸出額 (2001 年/2010 年)<sup>9</sup>

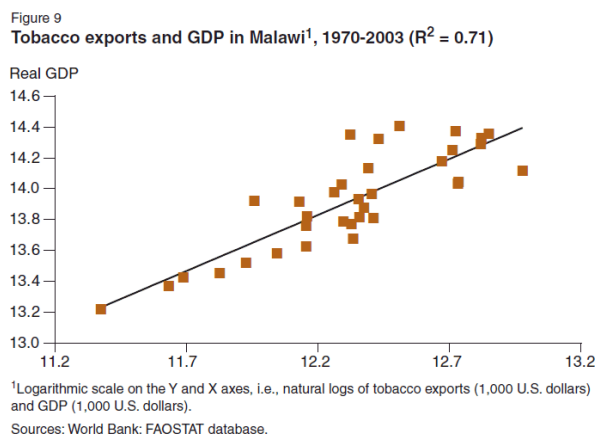


図 I-3 マラウイにおけるタバコ輸出と GDP の関連 (1970 年～2003 年)<sup>10</sup>

<sup>5</sup> 鉱物探査技術の進歩により、近年ようやくマラウイの北部でウラン鉱山の操業が始まった。また、レアメタル・レアアースなどの鉱脈の存在が確認されている。

<sup>6</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P.9

<sup>7</sup> USDA (2009) “Trade and Development When Exports Lack Diversification - A Case Study from Malawi” P.2  
[http://www.ers.usda.gov/ersDownloadHandler.ashx?file=/media/155326/err77\\_1\\_.pdf](http://www.ers.usda.gov/ersDownloadHandler.ashx?file=/media/155326/err77_1_.pdf) (2013/12/13 アクセス)

<sup>8</sup> Ministry of Industry and Trade, Malawi (2013) “Malawi National Export Strategy 2013-2018 Volume I” P.6  
[http://www.undp.org.mw/documents/NES%20volume%201\\_lighter%20version%20FINAL.pdf](http://www.undp.org.mw/documents/NES%20volume%201_lighter%20version%20FINAL.pdf) (2013/12/17 アクセス)

<sup>9</sup> Ministry of Industry and Trade, Malawi (2013) “Malawi National Export Strategy 2013-2018 Volume I” P.15

<sup>10</sup> USDA (2009) “Trade and Development When Exports Lack Diversification - A Case Study from Malawi” P.12



このことから、現在のマラウイ全国における主な収入は、ほぼ農産物の輸出収入に頼る状態となっている。また、マラウイは全国的に貧困率が高いが、貧困状況と食糧脆弱性の分布には明らかな相違が存在する (図 I-4)。この点については、III～IV 章にて詳述する。

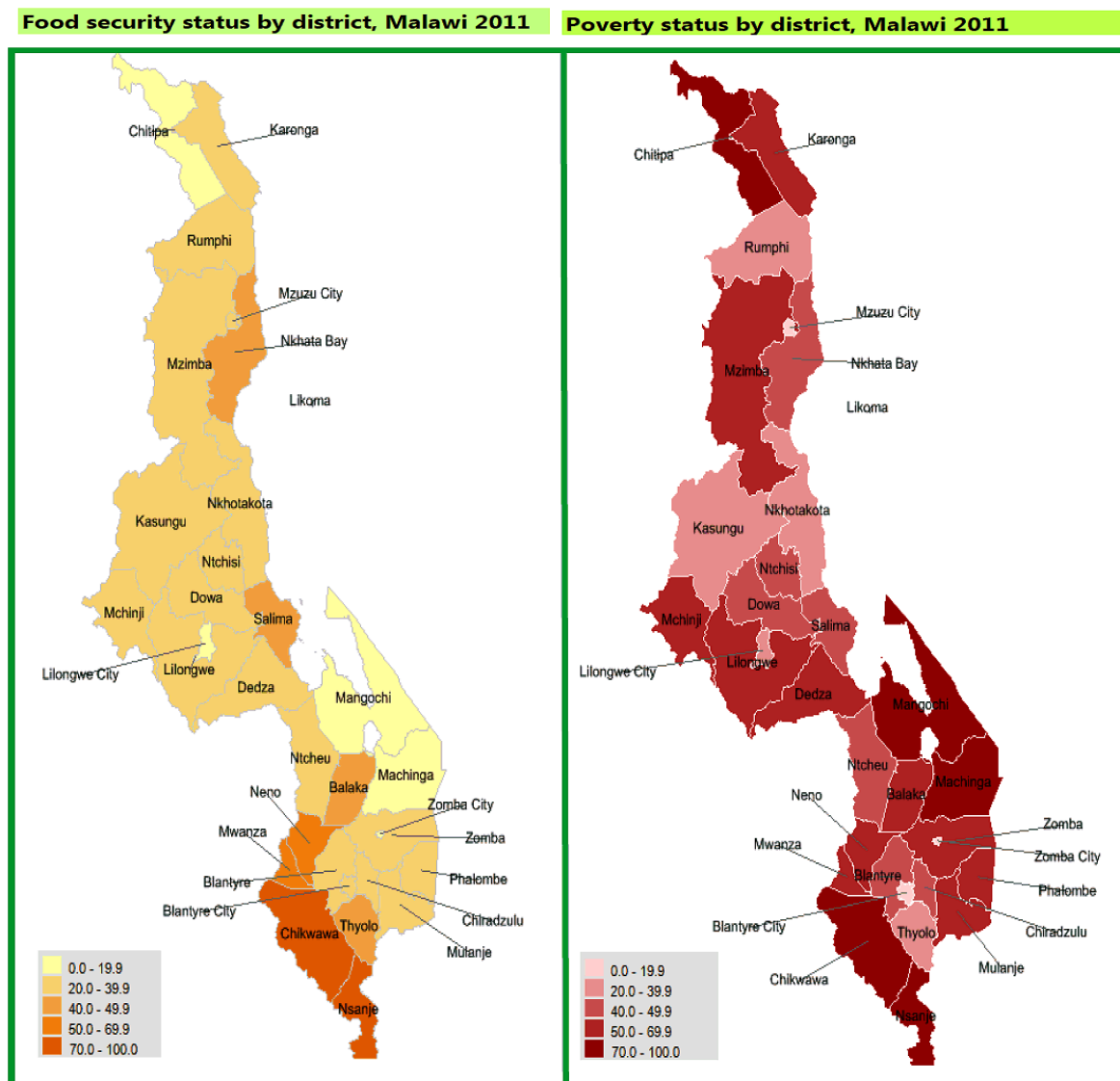
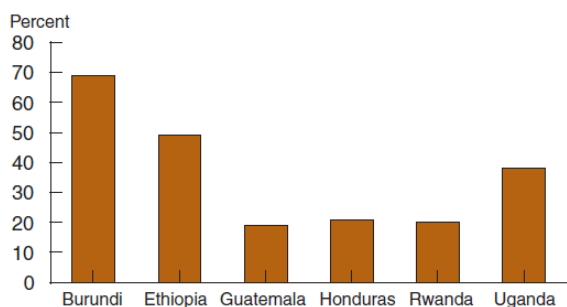


図 I-4 マラウイの食糧脆弱性地図と貧困分布地図<sup>11</sup>

<sup>11</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” 巻頭 P.2  
[http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data\\_on\\_line/economics/ihs/IHS3/IHS3\\_Report.pdf](http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data_on_line/economics/ihs/IHS3/IHS3_Report.pdf) (2013/12/19 アクセス)

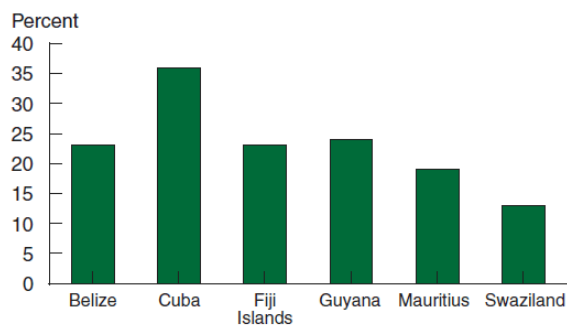
マラウイの基幹輸出作物（葉たばこ）への依存率は、他のモノカルチャー経済国と比較しても著しく高い（図 I-5）。この背景には、植民地時代から継続する固有の経済構造が存在する。

Figure 1  
Coffee exports as share of total merchandise exports, 1994-2004 average



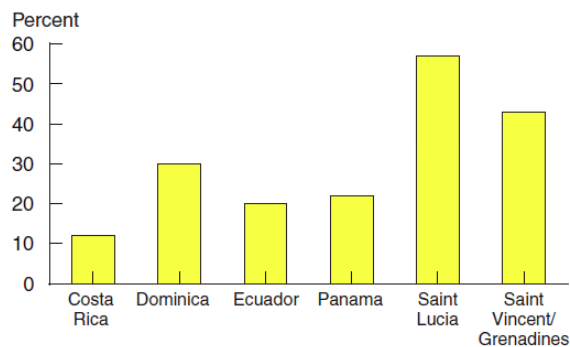
Source: FAOSTAT database.

Figure 2  
Sugar exports as share of total merchandise exports, 1994-2004 average



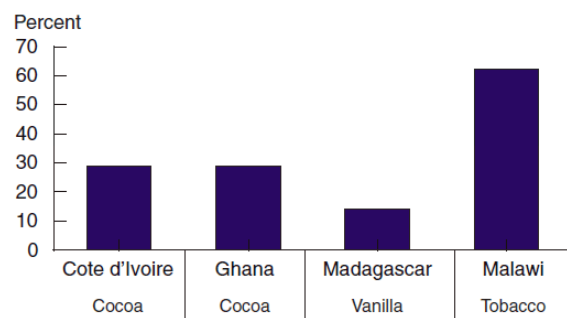
Source: FAOSTAT database.

Figure 3  
Banana exports as share of total merchandise exports, 1994-2004 average



Source: FAOSTAT database.

Figure 4  
Key agricultural exports as share of total merchandise exports, 1994-2004 average



Source: FAOSTAT database.

2

Trade and Development When Exports Lack Diversification: A Case Study from Malawi / ERR-77  
Economic Research Service/USDA

図 I-5 モノカルチャー諸国の輸出総額に占める割合<sup>12</sup>

<sup>12</sup> USDA (2009) "Trade and Development When Exports Lack Diversification - A Case Study from Malawi" P.2

現在のマラウイに相当する地域は、1891年に「ニヤサランド英国保護領 (Nyasaland and District Protectable)」としてイギリスの統治下に置かれた。宗主国のイギリスは1953年に、現地議会や英国内のリベラル派の反対を押し切って「ニヤサランド=南北ローデシア連邦<sup>13</sup>」を設立した<sup>14</sup>。当時の鉱物探査技術ではニヤサランドに有力な鉱物資源を発見できなかったため、ニヤサランドの開発は農業分野に限られており、現在のマラウイに相当する地域は1930年代から、「ニヤサランド=南北ローデシア連邦」において主要な輸輸出タバコの生産地となっていた (図 I-6)。

かつては、海外からの送金もマラウイにおける主要な現金収入源であった。イギリスはニヤサランドを南北ローデシアなどの鉱山における労働力の供給源と考えており、1957年当時、15万人のニヤサ人労働者が南アフリカ、南北ローデシアの鉱山などで働いていた<sup>15</sup>。1955年のニヤサランドの人口は約250万人<sup>16</sup>であり、国民の6%が海外で出稼ぎを行っていたことになる。

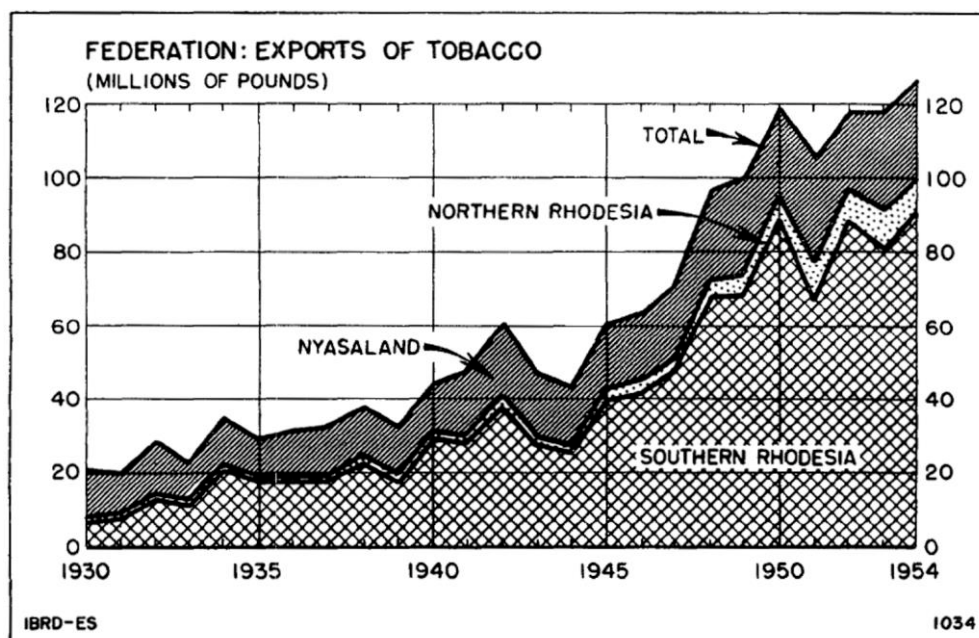


図 I-6 マラウイ独立前のタバコ輸出 (金額・数量) データ (1930年~1954年)<sup>17</sup>

<sup>13</sup> 北ローデシアは1964年に「ザンビア共和国」、南ローデシアは1980年に「ジンバブエ共和国」として独立。

<sup>14</sup> BBC (2013) “Malawi Profile” <http://www.bbc.co.uk/news/world-africa-13881367> (2013/12/13 アクセス)

<sup>15</sup> World Bank (IBRD) (1957) “Economic position and prospects of the federation of Rhodesia and Nyasaland” P.5 [http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2000/04/19/000178830\\_98101902075361/Rendered/PDF/multi\\_page.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2000/04/19/000178830_98101902075361/Rendered/PDF/multi_page.pdf) (2013/12/13 アクセス)

<sup>16</sup> World Bank (IBRD) (1956) “The economy of the federation of Rhodesia and Nyasaland” P.10 [http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2000/04/19/000178830\\_98101902074643/Rendered/PDF/multi\\_page.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2000/04/19/000178830_98101902074643/Rendered/PDF/multi_page.pdf) (2013/12/19 アクセス)

<sup>17</sup> World Bank (IBRD) (1955) “Economic report of the federation of Rhodesia and Nyasaland” P.5 [http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2002/07/03/000178830\\_98101902074336/Rendered/PDF/multi0page.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2002/07/03/000178830_98101902074336/Rendered/PDF/multi0page.pdf) (2013/12/13 アクセス)

マラウイでは独立以前からタバコ輸出と海外への出稼ぎに依存する経済構造が形成されていたが、この構造が徐々に変化する。1970年代からマラウイ中南部でエステート農業の開発が進み、国内における農園の雇用が増加した<sup>18</sup>。このことにより、マラウイ国内における賃金雇用機会の相違が生じることになった<sup>19</sup>。農民の所得のうち、自営農業所得を除く農外所得については、農村によって雇用機会の著しい相違が存在することが、高根 (2007)<sup>20</sup>の調査で判明している (この点は、「III. 所得貧困」の項目にて詳述)。さらに、1995年に南アフリカ政府が鉱山労働者の雇用政策を変更し、南ア国籍を有する労働者を優先して雇用するようになった。そのため、南アの鉱山で働いていたマラウイ人労働者の解雇が始まり、海外からの送金が激減した (図 I-7)。

2010年におけるマラウイの海外送金元と金額は、1位：英国 (30万 USD)、2位：ジンバブエ (20万 USD)、3位：南ア (10万 USD) となっている<sup>21</sup>。2010年のマラウイの国内 GDP は 42.64 億 USD であることから、海外送金がマラウイ経済に占める割合は著しく縮小している。また、現在のバンダ政権は、マラウイの学卒者の雇用対策として、韓国、ドバイ (アラブ首長国連邦)、クウェートに 10 万人の労働者を送り出すことを検討しているとの報道が存在する<sup>22</sup>。

Figure 2: External Remittances as Percentage of GDP, Imports and Exports

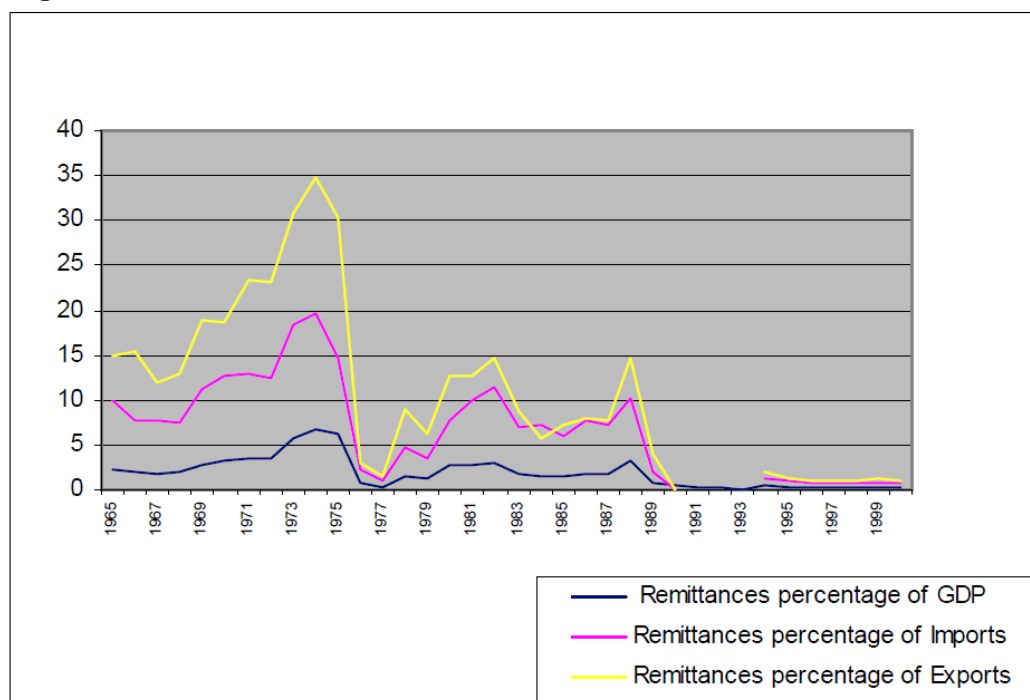


図 I-7 マラウイにおける海外送金と GDP、輸出入の関係<sup>23</sup>

<sup>18</sup> 小倉充夫 (1991) 「最近のマラウイにおける労働移動」 JETRO アジア研アフリカレポート No.12 [http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Periodicals/Africa/pdf/1991\\_03\\_11.pdf](http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Periodicals/Africa/pdf/1991_03_11.pdf) (2013/12/18 アクセス)

<sup>19</sup> 小倉充夫 (1991) 「最近のマラウイにおける労働移動」 JETRO アジア研アフリカレポート No.12

<sup>20</sup> 高根 務 (2007) 「アジア経済研究所研究双書 No.561 マラウイの小農」 P.142

<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Sousho/561.html> (2013/12/18 アクセス)

<sup>21</sup> UNCTAD (2012) “The Least Developed Countries Report 2012” P.56

[http://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ldc2012\\_en.pdf](http://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ldc2012_en.pdf) (2013/12/18 アクセス)

<sup>22</sup> AFP 通信 (2013) “Malawi offers South Korea 100,000 workers” (2013/6/11 配信)

<http://www.bdlive.co.za/africa/africanews/2013/06/11/malawi-offers-south-korea-100000-workers> (2013/12/18 アクセス)

<sup>23</sup> C. Chipeta (2005) “Role of Migrants’ Remittances in an Unstable Low-Income Economy” P.11

<http://www.eldis.org/vfile/upload/1/document/1105/Role%20of%20Migrants%E2%80%99%20Remittance%20in%20an%20Unstable%20Low-Income%20Economy%20-%20Study%20of%20Malawi.pdf> (2013/12/13 アクセス)

マラウイにおけるインフラの整備状況を見る。マラウイ湖に沿って南北方向に 2 本の幹線道路が通っており、北方はタンザニア Mbeya 州、南方はモザンビーク Zambezia 州とつながっている。中部では東西方向の幹線道路が整備されており、ザンビア Eastern 州、モザンビーク Tete 州とつながっている。ただし、南北を結ぶ幹線道路のうち、北部地域～中部地域間、モザンビークとの南部国境周辺の道路状況は良くない。また、幹線道路を外れると道路状況が著しく悪化する上、交通量も激減する。

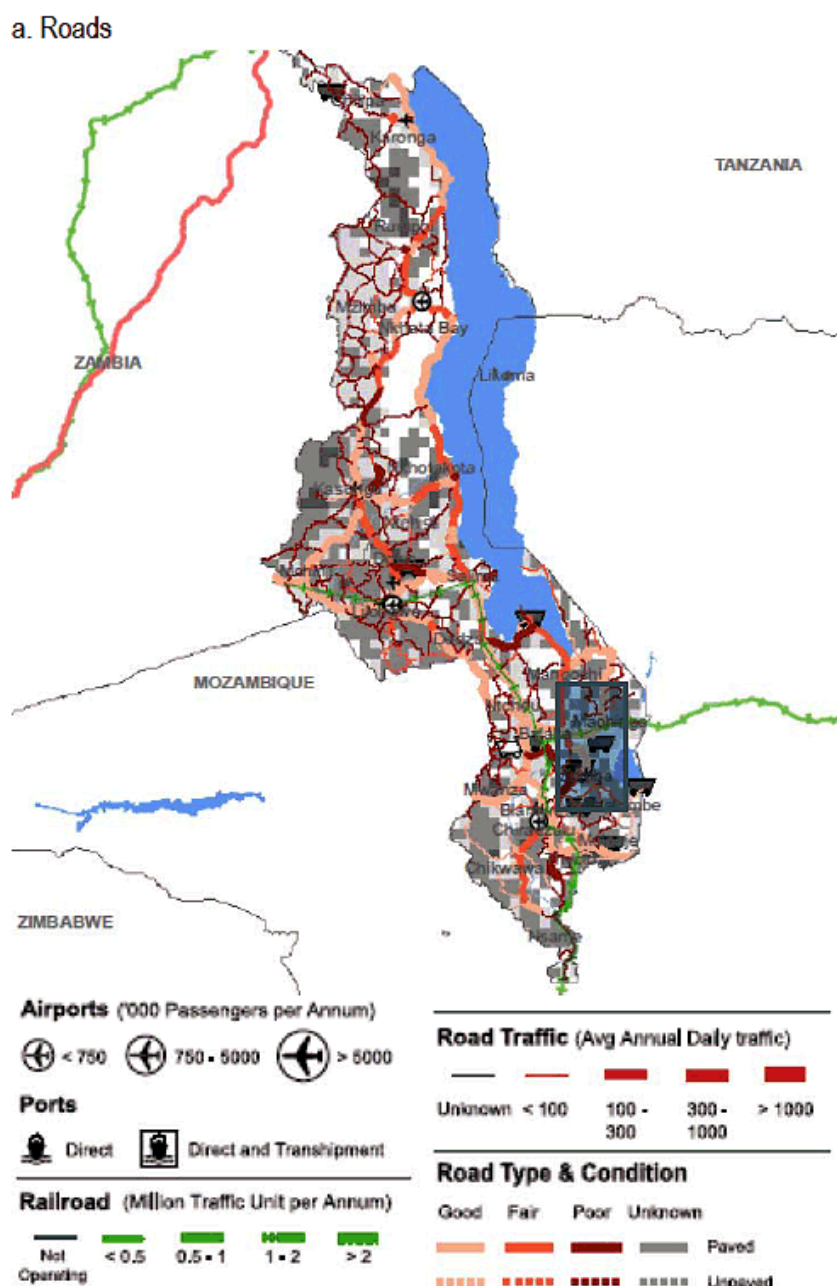


図 I-8 マラウイの道路状況 (2010 年)<sup>24</sup>

<sup>24</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.5  
<http://infrastructureafrica.org/system/files/library/2010/04/CR%20Malawi.pdf> (2013/12/18 アクセス)

マラウイの鉄道は南部地域のみが存在している。かつてはモザンビークの Beira 港を起点とし、鉄道・道路・水運から構成される「セナ回廊」が存在しており、セナ鉄道 (Sena Railway) はマラウイの農産品やセメント輸送などを担う重要幹線として、マラウイ経済に強い影響を与えていた。しかし、セナ鉄道は 1983 年のモザンビーク内戦により物理的被害を受け、さらに 1997 年の大洪水により、南部の Shire 川にかかる Chiromo 橋が流されたため、国際路線として利用することが不可能になった。このことは、特にマラウイ南部地域での交通アクセスの低下を招き、同地域の貧困度を高めている要因の一つとなっている<sup>25</sup>。

現在は、マラウイの物流輸送の大部分をモザンビークの Tete 橋を通過し Beira 港に至る「テテ回廊」に依存している。しかし、Tete 橋は、補修工事で通行規制をしており、物流に障害が出ている。大統領の強力なイニシアティブによって、安全保障の観点による複数の回廊整備や、貧困削減を目的とした南部地域開発が進められている<sup>26</sup>。



図 I-9 マラウイの鉄道網 (2010 年)<sup>27</sup>

<sup>25</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P.29～30

<sup>26</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P.29～30

<sup>27</sup> WFP/Logistics Cluster (2010) “Malawi Railway Network”

<http://dlca.logcluster.org/display/public/DLCA/2.4+Malawi+Railway+Assessment> (2014/02/25 アクセス)

マラウイで電力を利用可能な人口はわずか 9%に過ぎず、約 1390 万人が電力にアクセスできない状況である (2009 年)<sup>28</sup>。マラウイにおける発電の大部分は、マラウイ湖から南方に流れ出る Shire 川を活用した水力発電に依存しており、送電網は南北方向に整備されている。

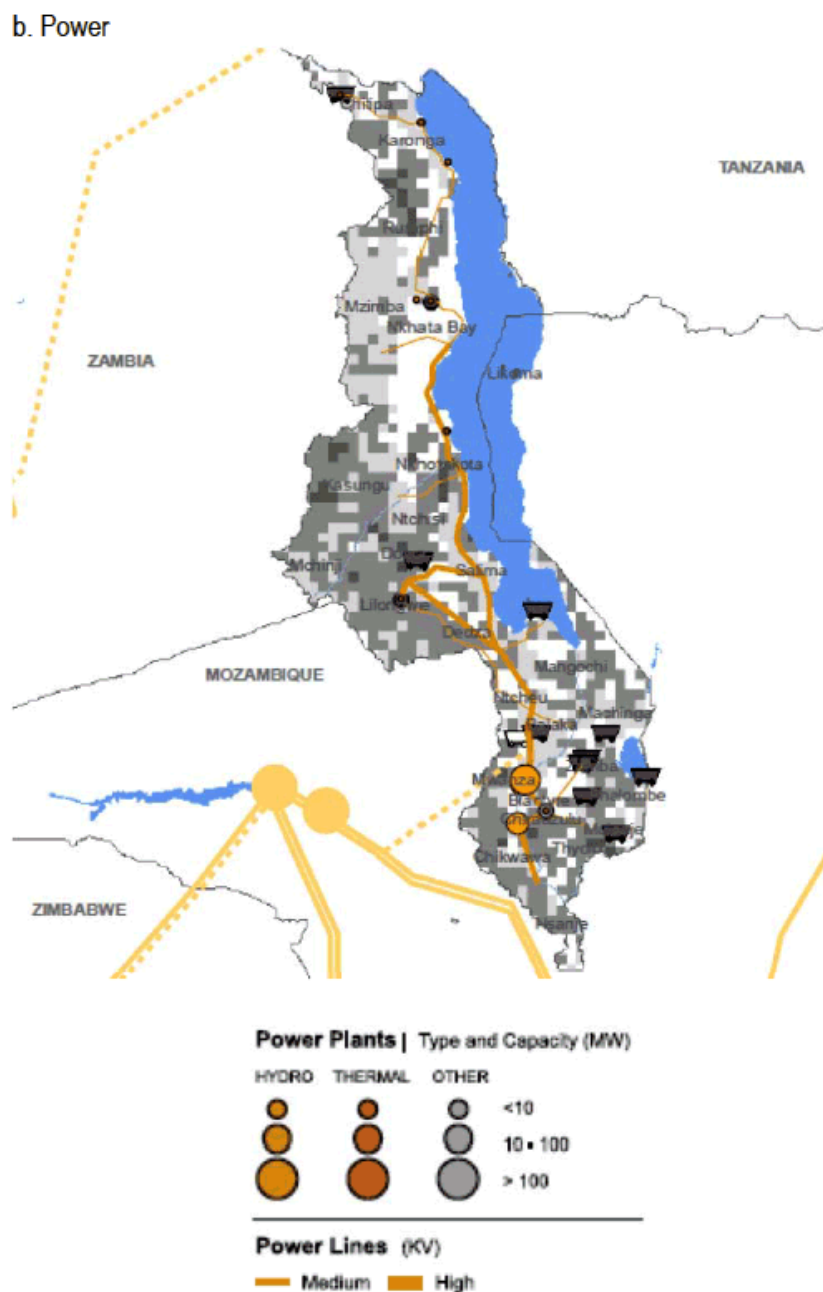


図 I-10 マラウイの幹線送電線の経路図 (2010 年)<sup>29</sup>

<sup>28</sup> UNESCO(2009) “Electricity access in 2009 - Regional aggregates”  
[http://www.unesco.org/new/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/SC/temp/wwap\\_pdf/Table\\_Access\\_to\\_electricity.pdf](http://www.unesco.org/new/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/SC/temp/wwap_pdf/Table_Access_to_electricity.pdf)  
(2014/02/25 アクセス)

<sup>29</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.5

電力グリッドは、132 kV の送電線幹線網、66 kV・33 kV の支線網によってほぼマラウイ全土をカバーしているが、電力需要の増加に供給が追いついていないという問題が存在しており<sup>30</sup>、マラウイ政府では電力の供給能力の強化を検討している<sup>31</sup>。

Annex 2: Map of Malawi Showing Existing ESCOM Grid

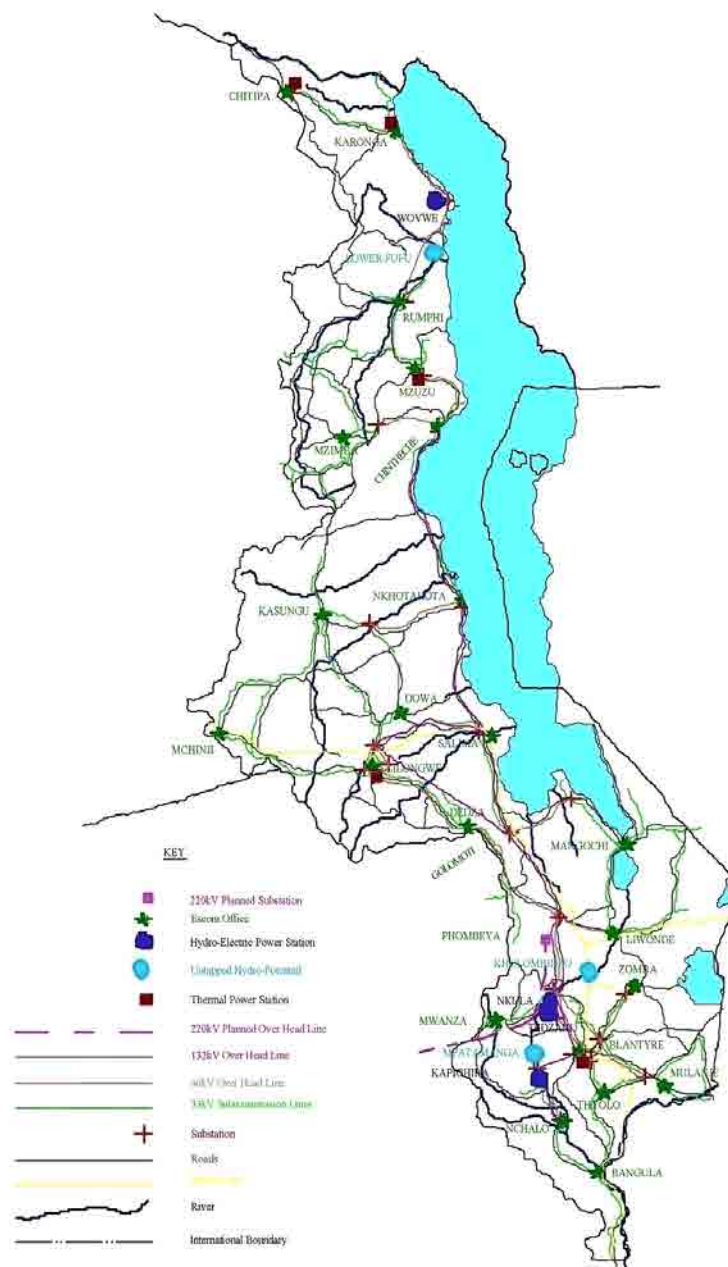


図 I-11 マラウイ全土の電力グリッド網 (2009 年)<sup>32</sup>

<sup>30</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P. 30

<sup>31</sup> Malawi Country Office Secretariat (2009)

“Compact Program for the Government of the Republic of Malawi(2011-2016) Concept Paper for the Energy Sector”  
[http://www.mca-m.gov.mw/documents/final\\_submission/MCA\\_Energy\\_Concept\\_Paper\\_29042009.pdf](http://www.mca-m.gov.mw/documents/final_submission/MCA_Energy_Concept_Paper_29042009.pdf) (2014/02/25 アクセス)

<sup>32</sup> Malawi Country Office Secretariat (2009)

“Compact Program for the Government of the Republic of Malawi(2011-2016) Concept Paper for the Energy Sector”



携帯電話 (GSM) のネットワークはよく整備されており、2010 年の時点で GSM ネットワークのカバレッジが、マラウイのほぼ全土をカバーしている。近年、貧困層が農産物価格などを入手するための有力な通信手段として携帯電話を活用するケースが世界的に多くみられ、貧困層の生活向上と携帯電話の利用が密接に関連している。携帯電話の GSM カバレッジがマラウイ全土に整備されていることは、貧困層の生活を考慮する上できわめて重要である。

c. ICT

- ICT - International Gateways
- Fixed Transmission Network
- ▨ ICT - GSM Coverage

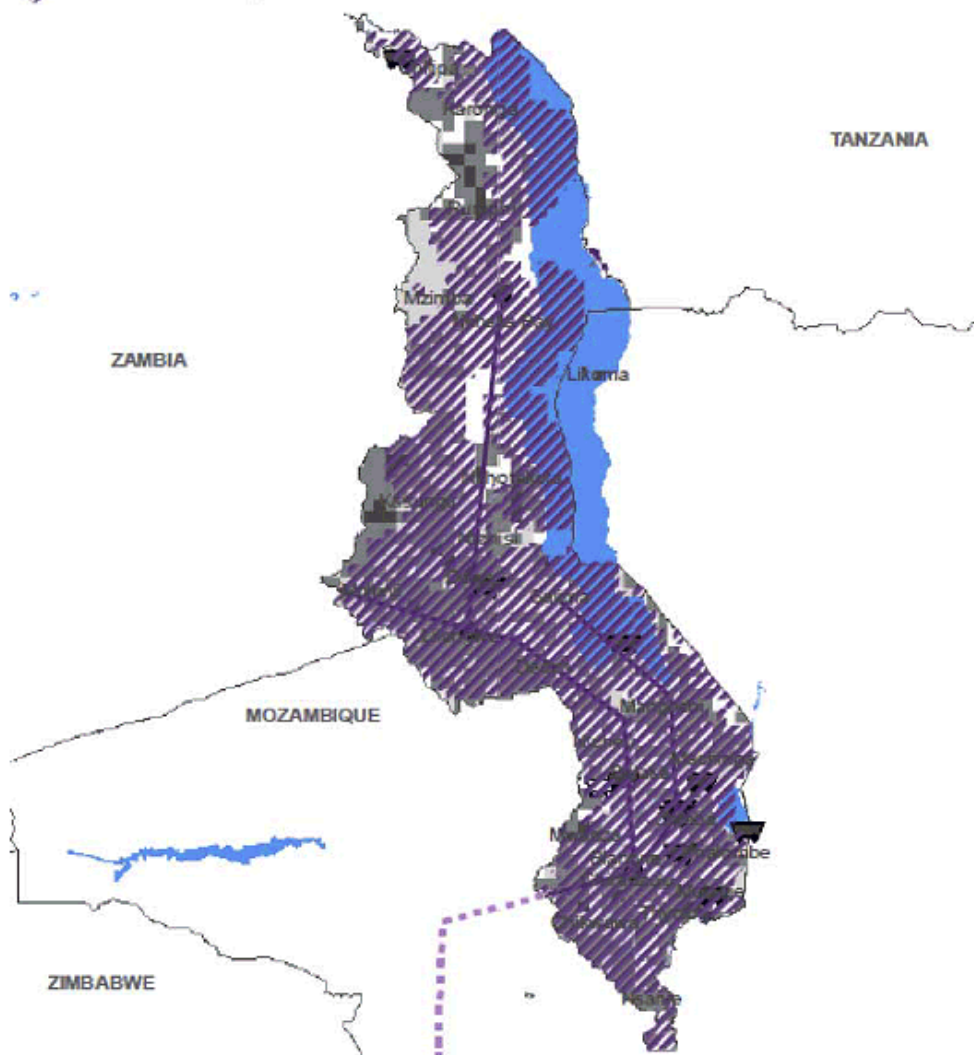


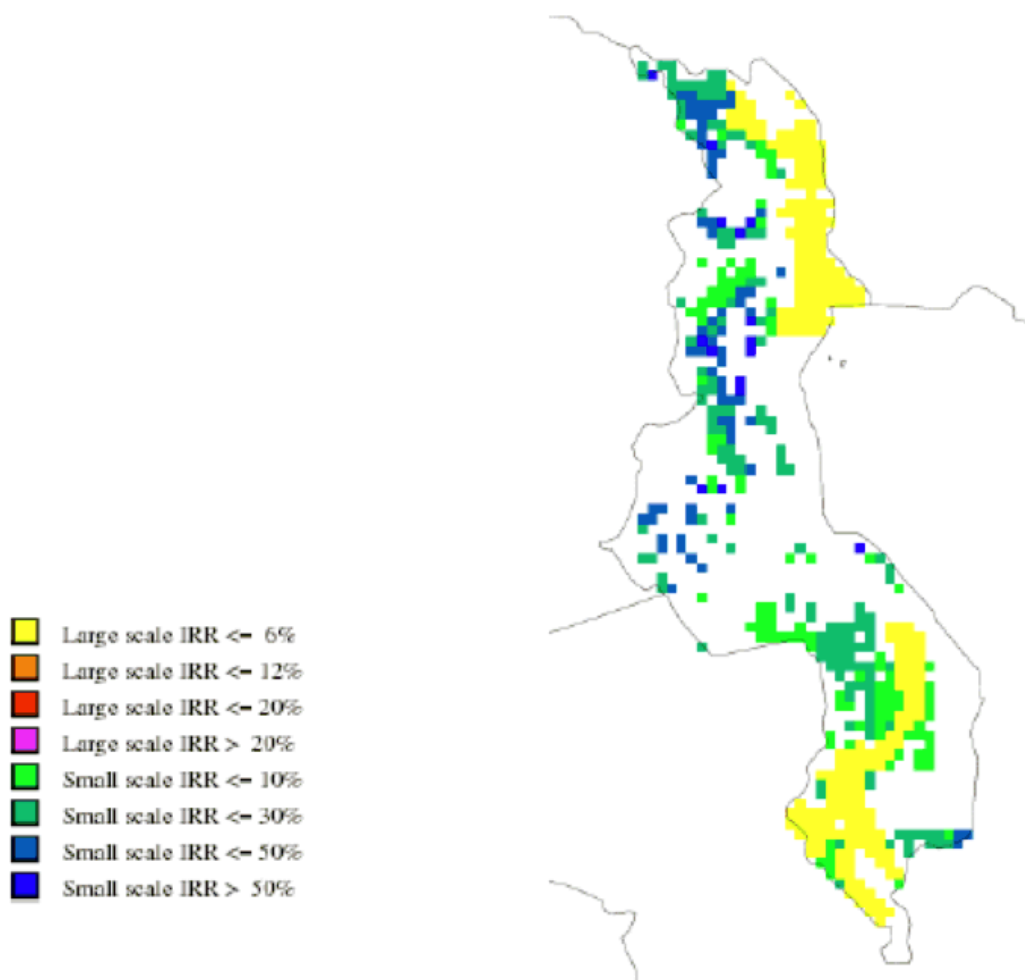
図 I-12 マラウイの携帯電話 GSM カバレッジ (2010 年) <sup>33</sup>

<sup>33</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.6

マラウイは灌漑に適した地域が比較的多く、162,000 ha が小規模灌漑により採算が取れると試算されている<sup>34</sup>。

Figure 11. Irrigation schemes could be viable in many new locations

Areas viable for irrigation



Source: You and others 2009.

図 I-13 マラウイの灌漑可能地域 (2010 年)<sup>35</sup>

<sup>34</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.16

<sup>35</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.17

しかし、実際の灌漑率はきわめて低く、南部の Mbewa 灌漑地域 (Mulanje 地方)、北部の Lweya 灌漑地域 (Nkhata 地方) など、ごく一部に灌漑施設が存在するにすぎず、その他は、ほぼ全て天水農業に頼っている状態である。1973 年から 2003 年にかけて灌漑プロジェクトが進捗したものの、その後の灌漑開発は停滞状況にある<sup>36</sup>。

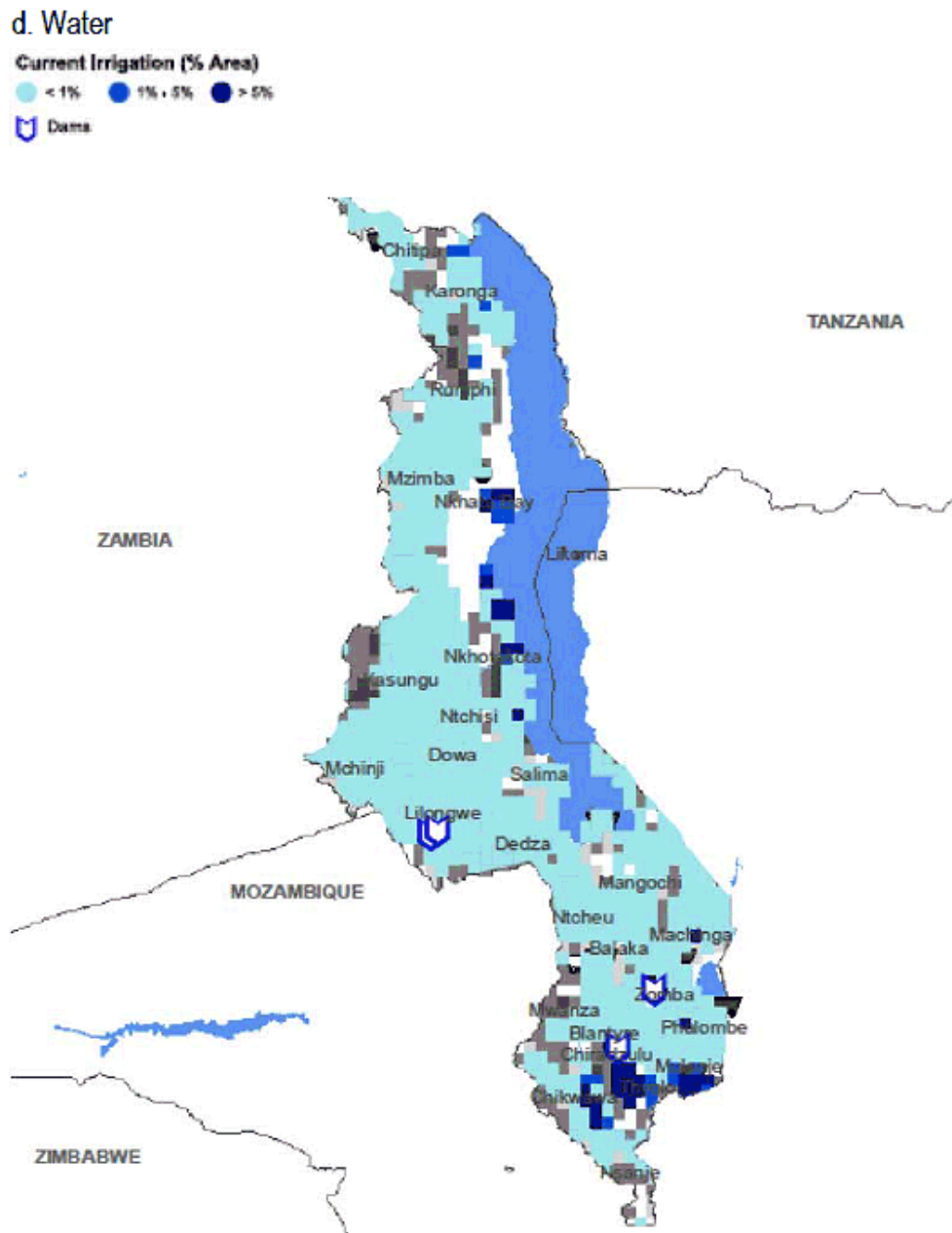


図 I-14 マラウイの灌漑整備状況 (2010 年)<sup>37</sup>

<sup>36</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.16

<sup>37</sup> World Bank (2010) “Malawi’s Infrastructure: A Continental Perspective” P.6

## II. 貧困削減のための政策枠組み

### 1. 国家開発計画・戦略の概要と貧困削減の位置付け

マラウイでは独立以降、短・中期の国家計画として「10 か年開発政策」を実施してきた。その後、長期的ビジョンとして 2000 年に長期国家開発計画「*Vision 2020*」を定めた。貧困削減戦略としては、2002 年に「*Malawi Poverty Reduction Strategy*」を作成したが、2005 年のレビューの結果、貧困削減について前進が見られず、マラウイの経済を強化する必要があるとの結論に至り<sup>38</sup>、PRSP として貧困削減戦略と経済開発戦略を統合した中期計画を策定することになった。

#### (1) PRSP の概要とその他の国家計画戦略との関係性

マラウイ政府は 2005 年に、「*Malawi Growth and Development Strategy -From Poverty to Prosperity 2006-2011 (MGDS)*」を策定した<sup>39</sup>。「MGDS」は「*Vision 2020*」の下位に存在する中期計画として位置付けられている。2012 年に「*MGDS 2006-2011*」の後継計画として、「*Malawi Growth and Development Strategy II 2011-2016 (MGDS II)*」が策定された。「MGDS II」では以下のように、経済開発と貧困削減を結びつけることが示されている。

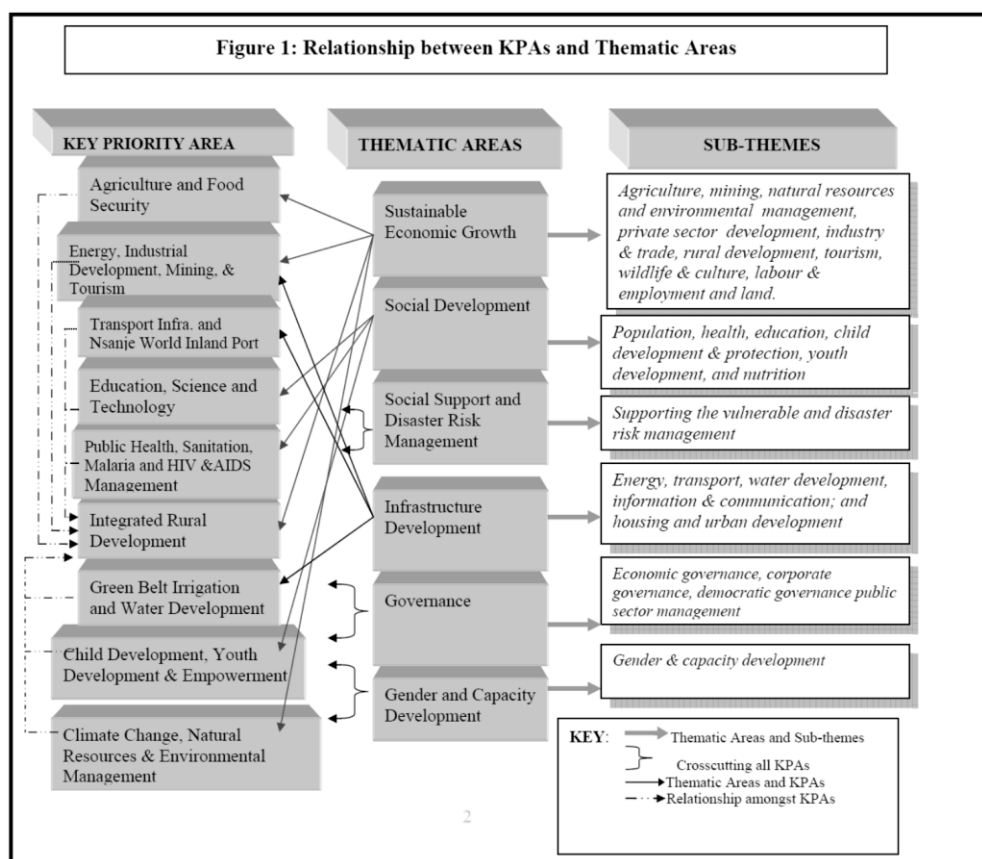


図 II-1 「MGDS II」の概念図<sup>40</sup>

<sup>38</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P.40～43

<sup>39</sup> JICA (2012) 「マラウイ国 JICA 国別分析ペーパー」 P.40～43

<sup>40</sup> Government of Malawi (2012) “*Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016*” P.2  
<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2012/cr12222.pdf> (2013/12/18 アクセス)

マラウイでは国家戦略の中に貧困削減戦略が組み込まれた形となっている。また、「MGDS I 2006-2011」では各指標に対する数値目標・担当官庁・指標データのモニタリング期間が示されており、後継の「MGDS II 2011-2016」においてもその方針は継続されている。「MGDS II 2011-2016」では数値目標の指標の多くが、国連 MDGs に準拠したものとなっている。以下に、「MGDS II」における各指標を示す。

ANNEX 4: MGDS II MONITORING AND EVALUATION MATRIX					
IMPACT AND OUTCOME BASED INDICATORS CLASSIFIED BY THEMATIC AND SUB-THEMATIC AREAS					
	KEY INDICATORS	Baseline 2010	Target 2016	Main Responsible party	Frequency of data collection
<b>IMPACT INDICATORS</b>					
<b>Poverty Impact Indicators</b>					
1	Poverty headcount measured by consumption based on poverty line (%)	39	27	NSO	Annual
2	Extreme Poverty headcount measured by consumption based on poverty line (%)	15	11	NSO	Annual
<b>Education Impact Indicators</b>					
3	Adult literacy rate (%)	64	91	NSO	Annual
4	Female literacy rate (%)	59	89	NSO	Annual
5	Youth literacy rate (Age 15 to 19) (%)	86	95	NSO	Annual
6	Ratio of Literate Women to Men 15-19 years	1:0.98	1:1	NSO	Annual
<b>Health Impact Indicators</b>					
7	Life Expectancy at birth (years)			NSO	Every five
	Female (F)	48.3	55		
	Male (M)	51.4	50		
<b>Theme I: Sustainable Economic Growth</b>					
<b>1.1 Agriculture</b>					
8	Percentage of Food Secure household (%)	99	100	MoAFS	Annually
9	Agricultural exports as percentage of GDP (%)	40	30	MoAFS	Annually
10	Average per capita meat availability (Kgs)	13	16	MoAFS	Annually
11	Per capita cereal availability (Kgs)	270	270	MoAFS	Annually
12	Quantity of fish landed/ captured per year from the lakes and rivers in metric tonnes (MT)	72,000	90,000	MoAFS	Annually
13	Number of fingerlings produced	250,000	2,000,000	MoAFS	Annually
<b>1.2 Environmental Management</b>					
14	Percentage of districts practicing adaptation and mitigation measures (%)	25	75	MoLGRD/EAD/MEPD	Annually
15	Proportion of land area covered by forest (%)	35.2	50	DoF	
16	Percent contribution of forest products and services to GDP (%)	1.3	-	MNREE-Forestry	Annually
<b>1.3 Trade, Industry and Private Sector Development</b>					
17	FDI as percentage of GDP (%)	-	-	MIPA/MoIT	Quarterly
18	Percentage increase in quality manufactured products (%)	55	70	MIPA/MoIT	Quarterly
19	Percentage change in real value of exports (%)	10	15	MIPA/MoIT	Quarterly
<b>1.4 Mining</b>					
20	Percentage of Mining to GDP	10	21	MoF/MEPD	Annually
<b>1.5 Integrated Rural Development</b>					
22	Number of Rural Growth Centers and Satellite Villages developed	7	28	MoLGRD	Annually
23	Proportion of the population at district level participating in development process (%)	45	70	MoLGRD	Annually
<b>1.6 Tourism, Wildlife and Culture</b>					
24	Percentage contribution of tourism to GDP (%)	2	-	MoT	Annually
<b>1.7 Employment and Labor</b>					
28	Unemployment rate (%)	3	1	NSO	Annually
29	Child labour prevalence rate (%)	38	5	NSO/MoL	5 years, Annual
<b>1.8 Land</b>					
30	Number of households owning at least 2hectares of land in rural areas	15,144	26,600	Min. of Lands	Once in a year
31	Percentage of investors accessing land	10	50	Min. of Lands	Once in a year
32	Number of institutions using geospatial information	30	64	Min. of Lands	Quarterly

図 II-2 「MGDS II」の指標と目標値 (1)<sup>41</sup>

<sup>41</sup> Government of Malawi (2012) “Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016” 巻末の表を再作成。番号に一部欠けが見られるのは原図に基づくものである。

	KEY INDICATORS	Baseline 2010	Target 2016	Main Responsible party	Frequency of data collection
<b>2.0 SOCIAL DEVELOPMENT</b>					
<b>2.1 Population</b>					
33	Total Fertility Rate (TFR)	5.9	3.5	MEPD/NSO/ MoH	Annually
34	Proportion of eligible women taking contraceptives (%)	46	65	MoH	Annually
<b>2.2 Health</b>					
35	Maternal Mortality Rate (per 100,000)	675	155	MOH/NSO	Annually
36	Neonatal Mortality Rate (per 1000)	31	12	MOH/NSO	Annually
37	Under Five Mortality Rate (per 1000)	112	78	MOH/NSO	Annually
38	Infant Mortality Rate (per 1000)	66	45	MOH/NSO	Annually
39	Malaria In-Patient Case Fatality rate (%)	3.2	2	MOH/NSO	Annually
40	TB cure rate (%)	88	93	MOH/NSO	Annually
41	Proportion of population residing within 8 km of a health facility (%)	81	100	MOH/NSO	Annually
42	Essential Health Package (EHP) coverage (% Facilities able to deliver (Out Patient Department) OPD, Immunization, Family Planning (FP) & maternal services(%))	74	85	MOH/NSO	Annually
<b>2.3 Education</b>					
43	Girls to Boys Ratio (Primary)	1.01	1	MoEST	Annually
44	Pupil to classroom ratio;			MoEST	Annually
	(i) Primary	101	76		
	(ii) Secondary	57.4	40		
45	Passing rate by level:			MoEST/ MANEB	Annually
	(i) PSLCE	62.3	80		
	(ii) JCE	60.5	68.5		
	(iii) MSC	53	55.5		
46	Pupil teacher ratio	88	55	MoEST/NSO	Annually
47	Pupil qualified teacher ratio	91	65	MoEST	Annually
48	Pupil to Textbook ratio	1:0.630	1:1	MoEST	Annually
49	Dropout rate (%)	10.67	0	MoEST	Annually
50	Net Enrolment Rate (%) Primary	80.2	97	MoEST	Annually
51	Repetition rate (%)	18.78	2.8	MoEST	Annually
<b>2.4 Child Development and Protection</b>					
52	Proportion of children (0–8) years old accessing ECD services (%)	30	70	MoGCCD	Annually
53	Proportion of beneficiaries of Social Cash Transfer who are children (%)	60	80	MoGCCD/ UNICEF	Annually
<b>2.5 Youth Development</b>					
54	Percentage of youths economically empowered (%)			MoYDS	Annually
55	Proportion of literate out of school youths (%)	35	80	MoYDS	Annually
56	Proportion of youths in decision making positions (%)	-	40	MoYDS	Annually
<b>2.6 NUTRITION AND HIV-AIDS MANAGEMENT</b>					
<b>2.6.1 HIV-AIDS Management</b>					
57	HIV Prevalence Rate (%)	12	9.6	NSO/ CHSU / MoH / NAC	4 years
58	HIV prevalence among 15-49 age group (%)	12.3	9.6	NSO/NAC/ MoH	2 years
59	HIV incidence rate 15-49 years (%)	1.6	1	NAC/MoH/ NSO	Every 2 years
60	HIV prevalence among pregnant women (15-24 yrs) attending ANC (%)	12.3	9.6	MoH, NAC	Every 2 years
<b>2.6.2 Nutrition</b>					
61	Prevalence rates of under five child nutrition(%):			DNHA/NSO/ MoH/ MoAFS	
	(i) stunting	47	23		4 years
	(ii) Wasting	4	2		2 years
	(iii) underweight	12.8	6		2 years
62	Prevalence rate of vitamin: A deficiency amongst (%):			DNHA/NSO/ MoH/ MoAFS	
	(i) Under five children	53.9	27		4 years
	(ii) School going children	38.3	19		2 years
	(iii) Women (of reproductive age)	57.4	28		2 years
63	Prevalence rate of iron Deficiency (%)			DNHA/NSO/ MoH/ MoAFS	
	(i) Under-five	48.1	24		4 years
	(ii) School aged children	22.3	11		2 years
	(iii) Women	27	13		2 years
64	Body Mass Index (Prevalence of chronic energy deficiency (CED-BMI<18.5) (%)	9.2% (2004)	4.5	DNHA/NSO/ MoH/ MoAFS	Every 2 years

図 II-3 「MGDS II」の指標と目標値 (2)<sup>42</sup>

<sup>42</sup> Government of Malawi (2012) “Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016”  
巻末の表を再作成

	KEY INDICATORS	Baseline 2010	Target 2016	Main Responsible party	Frequency of data collection
<b>THEME 3: SOCIAL SUPPORT AND DISASTER RISK MANAGEMENT</b>					
<b>3.1 Supporting the Vulnerable</b>					
65	Proportion of the poor graduating from ultra poverty line (%)	15	10	NSO	Annually
66	Number of beneficiaries accessing micro-credit	400,000	1,100,000	MEPD/NSO	Annually
67	Number of households being reached with social cash transfer	30,452	215,000	MEPD/NSO	Annually
<b>3.2 Disaster Risk Management</b>					
68	Number of households affected by disasters	155,227	62,091	DoDMA	Annually
<b>THEME 4.0 INFRASTRUCTURE DEVELOPMENT</b>					
<b>4.1 Energy</b>					
69	Rate of power outage (hrs/day)	2	0	Energy Affairs/ESCO	Annually
70	Proportion of households with access to electricity (%)	9	15	Energy Affairs/ESCO	Annually
<b>4.2 Transport</b>					
71	Percent of road and rail network in good condition (%): (i) Road (ii) Rail	54 31	60 48.9	Ministry of Transport	Annually
72	Percent increase in passenger and cargo/tonnage using water transportation (%): (i) Passenger (ii) Cargo	9,935 56,457	630,000 160,600	Ministry of Transport	Annually
<b>4.3.1 Water Development</b>					
73	Proportion of population with access to potable water (%)	81	86	MoIWD/NSO	Annual
74	Proportion of population with access to improved sanitation (%)	46	75	NSO MoIWD	Annual
<b>4.3.2 Irrigation</b>					
75	Output from irrigation agriculture (tonnes)	482,555	1,292,555	MoA&FS/ MoIWD	Annual
<b>4.4 Information Communication and Technology</b>					
76	Proportion of population accessing ICT facilities (%) i) Telephone lines subscribers per 100 population ii) Cellular lines subscribers per 100 population iii) Internet users per 1,000 population	2.3 21 1.2	20 50 5	MACRA	Annually
<b>4.5 Housing and Urban Development</b>					
77	Proportion of urban population accessing adequate housing (5)	21%	40%	Director of Housing	Quarterly and annually

図 II-4 「MGDS II」の指標と目標値 (3)<sup>43</sup>

<sup>43</sup> Government of Malawi (2012) “Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016”  
巻末の表を再作成

	KEY INDICATORS	Baseline 2010	Target 2016	Main Responsible party	Frequency of data collection
<b>THEME 5: GOVERNANCE</b>					
<b>5.1 Economic Governance</b>					
78	GDP Annual Growth Rate (%)	6.9	7.3	MEPD/MoF/ NSO	Annually
79	Income per capita (US\$)	380.1	726.6	MEPD/MoF	Annually
80	Inflation Rate (%)	8.7	5.9	MEPD/MoF	Annually
81	Domestic debt as percentage of GDP (%)	21.9	20.1	MEPD/MoF	Annually
82	Fiscal deficit as percentage of GDP (%)	1.6	0.2	MEPD/MoF	Annually
83	Bank Lending Rate (%)	13	10	RBM/MoF/ MEPD	Annually
<b>5.2 Corporate Governance</b>					
84	Corruption Perception Index [CPI] (Ranking )	89	50	ACB	Annually
<b>5.3 Democratic Governance</b>					
<b>5.3.1 Justice and Rule of Law</b>					
85	Percentage of population accessing justice system (%): (i) Informal (ii) Formal	73 27	85 43	MoJ	Quarterly
86	Prosecution rate (%)	49	55	MoJ	Quarterly
<b>5.3.2 Human Rights</b>					
87	Number of Reported Human Rights violation cases effectively resolved	380	500		Annually
<b>5.3.3 Election</b>					
88	Free and fare election	qualitative	qualitative	MEC	Annually
<b>5.3.4 Peace and Security</b>					
89	Crime Rate per 100,000	656	512	Police	Annually
90	Police Population Ratio	1:1,346	1:1,318	Police	Annually
91	Warder Prisoner Ratio	1:11	1:8	Police	Annually
<b>5.3.5 Public Sector Management</b>					
92	Proportion of the population satisfied with public services	40	65	MEJN/MEPD/ MoL&RD	Annually
<b>6.0 CROSS CUTTING ISSUES</b>					
<b>6.1 Gender</b>					
93	Proportion of women in decision making positions in the Civil Service (%)	23	50	MoCGCD	Annually
94	Proportion of women in national Parliament (%)	22	50	MoCGCD	Annually
95	Gender Development Index (GDI)	0.639	1	MoCGCD	Annually
96	Percentage of reported cases of Gender Based Violence (%)	20	70	MoCGCD	Annually
<b>6.2 Capacity Development</b>					
97	Number of public servants trained (Diploma, Bachelors, Masters, PhDs)	50	240	DPSM	Annually
<b>6.3 Research and Development</b>					
98	Share of Govt. Expenditure on Research and Development (GovERD) GDP Ratio	0.33	1	NCST	Annually
99	Technology absorption rate (%)	30	40	NCST	Annually
100	Number of industrial property rights and works registered	297 Rights 24,000 works	1800 rights 55,500 works	NCST	Annually

図 II-5 「MGDS II」の指標と目標値 (4)<sup>44</sup>

<sup>44</sup> Government of Malawi (2012) “Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016”  
巻末の表を再作成



## (2) 特に貧困と関連深い国家戦略・政策の概要と現状

マラウイにおいて貧困対策として実施されている政策の一覧を図 II-6 に示す。

「農業用投入資材補助金プログラム (Farm Input Subsidy Programme: FISP)」、学校給食プログラム「School Feeding Program」、農村地域の送金支援「Social Cash Transfer Scheme」などがある。また、世界銀行の支援を受けた Malawi Social Action Fund(MASAF)による Local Development Fund を通じた Cash for Work のなどが実施されており、いずれの貧困対策プログラムも、国家計画戦略「MGDS」および、各セクターワイドプログラムとの連携が考慮されている。

Table 1: Overview of Malawi Social Protection Programs Outreach, Target Groups

All Social Protection Expenditures	Source of Funds	Districts	Intended Target Group	Targeting Method	# HHs	# persons	Benefit per HH in kind or MK	Cost of Delivery % of Total	GoM Budget Expenditure 2012/13 MKs (000)
Farm Input Subsidy Program	GoM, (MoA), CPs (i.e. DFID)	28	Fertilizer Subsidy coupons to Poor household farming families:	Local Leaders/ MoA Extension Workers. DADO officers brief their EPA staff on who to choose who later brief Extension Workers. Open community forum: Villagers/Chief/Police/Reps, NGOs, attend decide	300,000	1,600,000	500 annually		54,904.50
School Feeding Program	GoM (MoE), WFP, Mary Meals,	13	Primary School going children	Schools based on enrolment, attendance/ drop-out rates, food security situation		630,000	Daily		170
Social Cash Transfer Scheme	GoM (MoGCSW), EU, KfW, Irish Aid, UNICEF	8	Direct Cash transfers to. Ultra poor/labor constrained HHs	Recertifying 10% poorest in each district. community Targeting, IH3, and PMT	28,000	100,000	2700 mthly	10%-19%	100
Income Generating Public Works Program (The program is now referred to as Rural Infrastructure Development Program (RIDP))	The European Union (MLRD)	15	Poor HH /vulnerable persons or with a vulnerable person as a member. PWs that create short term employment.	Community Targeting					GoM to provide
MARDEF/ YEDEF									1,000
MASAF Public Works Program (MASAF is now LDF)	The World Bank, GoM	28	Poor with labor capacity: Labor intensive PWs that create short term employment.	Geographical, Poverty Targeting: MVAC Assessment report to determine # beneficiaries per district	586,000	2,900,000	14,400 annually	8%	13,783.87
Ministry of Gender Children and Social Welfare		28	Poor, sick and vulnerable children, men and women	PMT, IH3, Geographical, Community Targeting.					982.81
Ministry of Disabilities and Elderly.		28	Disabled and Elderly						293.09
Pensions	GoM	Retirees	GoM Retirees						16,000

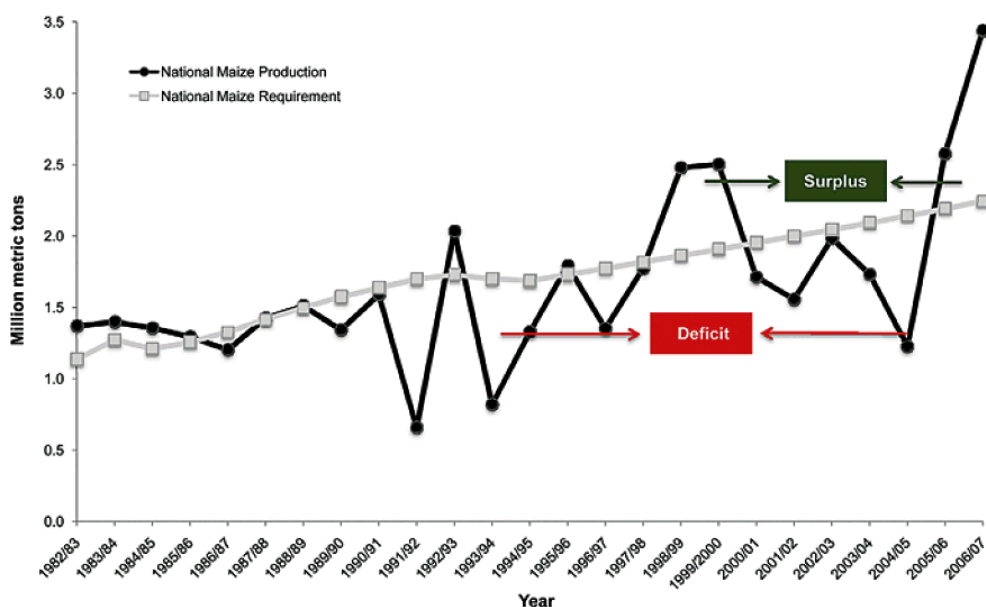
図 II-6 マラウイにおいて弱者対策として実施されている政策<sup>45</sup>

<sup>45</sup> World Bank (2013) “International Development Association Project Appraisal Document on a Proposed Credit in the Amount of SDR 21.4 Million (US\$ 32.80 Million Equivalent) to the Republic of Malawi for a Strengthening Safety Nets Systems Project - Fourth Malawi Social Action Fund (MASAF IV)” P.108  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSCContentServer/WDSP/IB/2013/12/02/000350881\\_20131202103458/Rendered/PDF/826170PAD0P1330sclosed01102801300SD.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSCContentServer/WDSP/IB/2013/12/02/000350881_20131202103458/Rendered/PDF/826170PAD0P1330sclosed01102801300SD.pdf) (2014/02/27 アクセス)

### (3) 過去 10 年程度の成果の分析

農業食料安全保障省は、ドナー（英国、ノルウェー、アイルランドほか）によるプールファンドのもと、2005 年より FISP を実施してきた。これにより、各州の地方農政局により選定された一部の小規模農家世帯は、低価格で化成肥料（NPK）、尿素、メイズのハイブリッド種子、マメ科作物の種子（大豆、落花生を含む 5 種）および防除資材を購入することができる<sup>46</sup>。マラウイ全体で見ると、2005 年以降、FISP の実施によって、国内需要を上回るトウモロコシが生産できるようになり（図 II-7）、2006 年以降はトウモロコシの輸出も行っている。

しかしながら FISP の実施にも関わらず、2011/12 耕作年度に引き続き、2012/13 耕作年度もトウモロコシの不作が続き、150 万人が食料不足に陥るという試算がされており、国際社会の支援により食料援助が実施されている<sup>47</sup>。



doi:10.1371/journal.pbio.1000023.g001

**Figure 1.** National Maize Production and Maize Food Requirement over 25 Years  
Compiled from [9,49]. Unusual dips and spikes in maize requirement are a reflection of inconsistency in methods of national population determination.

### 図 II-7 マラウイにおけるトウモロコシ生産量の推移（1982 年度～2006 年度）<sup>48</sup>

<sup>46</sup> A.Dorward and E.Chirwa (2012) “Evaluation of the 2011/12 Farm Input Subsidy Programme, Malawi: Report on Programme Implementation and Benefit Cost Analysis”

[http://eprints.soas.ac.uk/16739/1/FISP%20Evaluation%20-%202011\\_12%20Implementation%20Report.pdf](http://eprints.soas.ac.uk/16739/1/FISP%20Evaluation%20-%202011_12%20Implementation%20Report.pdf)

(2013/12/27 アクセス) ならびに

A.Dorward et al.(2013) “Evaluation of the 2012/13 Farm Input Subsidy Programme, Malawi Final Report”

[http://eprints.soas.ac.uk/17822/1/FISP%20Evaluation%20-%202012\\_13%20Final%20Report%20NT.pdf](http://eprints.soas.ac.uk/17822/1/FISP%20Evaluation%20-%202012_13%20Final%20Report%20NT.pdf)

(2014/02/27 アクセス)

<sup>47</sup> MVAC(2013) “National Food Security Forecast, April 2013 to March 2014”

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp258725.pdf> (2014/02/27 アクセス)

<sup>48</sup> G.Denning et al. (2009) “Input Subsidies to Improve Smallholder Maize Productivity in Malawi: Toward an African Green Revolution” (PLoS Biology Vo.1.7 Issue 1) P.4

<http://www.plosbiology.org/article/doi/10.1371/journal.pbio.1000023>&representation=PDF (2014/2/21 アクセス)

「MGDS 2006-2011」と、後継の「MGDS II 2011-2016」はいずれも、初年度のベースライン値を基準として5年後の目標値を設定している。両者において共通した指標の比較を以下に示す。2010年のベースラインを見ると、概ね「MGDS」の目標値に達成しているものの、識字率、各種死亡率、児童の成長不良など、未達成の指標が存在する。

KEY INDICATORS	Baseline 2005	Target for 2011	Baseline 2010	Target for 2016
<b>IMPACT INDICATORS</b>				
<b>Poverty Impact Indicators</b>				
Poverty headcount measured by consumption based on poverty line (%)	52.4%	30-35%	39%	27%
Extreme Poverty headcount measured by consumption based on poverty line (%)	22.4%	12-18%	15%	11%
<b>Education Impact Indicators</b>				
Adult literacy rate (%)	63.9%	85%	64%	91%
Female literacy rate (%)	50.5%	85%	59%	89%
Youth literacy rate (Age 15 to 19) (%)	74.9%	95%	86%	95%
<b>Health Impact Indicators</b>				
Life Expectancy at birth (years)	40 years	45 years		
Female (F)			48.3 years	55 years
Male (M)			51.4 years	50 years
<b>Theme I: Sustainable Economic Growth</b>				
<b>1.1 Agriculture</b>				
Percentage of Food Secure household (%)	67%	100%	99%	100%
Quantity of fish landed/ captured per year from the lakes and rivers in metric	55,000 MT	60,000MT	72,000 MT	90,000 MT
<b>1.2 Environmental Management</b>				
Proportion of land area covered by forest (%)	27.2%	30%	35.2%	50%
<b>2.0 SOCIAL DEVELOPMENT</b>				
<b>2.1 Population</b>				
Total Fertility Rate (TFR)	6.0%	5.7%	5.9%	3.5%
<b>2.2 Health</b>				
Maternal Mortality Rate (per 100,000)	984/100,000	560/100,000	675/100,000	155/100,000
Under Five Mortality Rate (per 1000)	133/1,000	76/1,000	112/1,000	78/1,000
Infant Mortality Rate (per 1000)	76/1,000	48/1,000	66/1,000	45/1,000
TB cure rate (%)	74%	80%	88%	93%
Essential Health Package (EHP) coverage (% Facilities able to deliver (Out Patient Department) OPD, Immunization, Family Planning (FP) & maternal services(%))	9%	40%	74%	85%
<b>2.6 NUTRITION AND HIV-AIDS MANAGEMENT</b>				
<b>2.6.1 HIV-AIDS Management</b>				
HIV prevalence among 15-49 age group (%)	14%	14.7%	12.3%	9.6%
HIV prevalence among pregnant women (15-24 yrs) attending ANC (%)	14.3%	12%	12.3%	9.6%
<b>2.6.2 Nutrition</b>				
Prevalence rates of under five child nutrition(%):				
(i) Stunting	48%	34%	47%	23%
(ii) Wasting	5%	4%	4%	2%
(iii) Underweight	22%	15%	12.8%	6%
<b>THEME 4.0 INFRASTRUCTURE DEVELOPMENT</b>				
<b>4.1 Energy</b>				
Proportion of households with access to electricity (%)	7.1 %	10%	9%	15%
<b>4.2 Transport</b>				
Percent of road and rail network in good condition (%):				
(i) Road	29%	71%	54%	60%
<b>4.3.1 Water Development</b>				
Proportion of population with access to potable water (%)	66%	80%	81%	86%
Proportion of population with access to improved sanitation (%)	83%	95%	46%	75%

図 II-8 「MGDS」 「MGDS II」の指標と目標値の比較<sup>49</sup>

<sup>49</sup> “MGDS 2006-2011” “MGDS II 2011-2016”掲載の表より作成

学校給食プログラム「School Feeding Program」では子供に給食とともに虫下しを配布しており、寄生虫予防などの成果が出ている<sup>50</sup>。また、農村地域の送金支援「Social Cash Transfer Scheme」では子供の就学率向上、最貧困からの脱却などの成果が出ている<sup>51</sup>。

#### (4) 今後の改定の予定など

「MGDS II 2011-2016」は 2011 年から実施が開始されたばかりであり、終了直前の 2015 年頃から改定作業が開始されるものと思われる。

## 2. 当該国政府による指定貧困地域・集団など

「MGDS II 2011-2016」は、脆弱性を有する集団として以下のような例を挙げている。

- ・老人 (Elderly)
- ・慢性疾病者 (Chronically sick)
- ・孤児 (Orphans)
- ・その他の脆弱な子供 (Vulnerable children)
- ・障害者 (Persons with disabilities)
- ・貧困世帯 (Destitute families)

また、貧困地域については特に指定されていない。

Table 4.3: Summary of Social Support and Disaster Risk Management Theme

Sub-theme	Goal	Medium Term Expected Outcomes
1. Supporting the Vulnerable	Improve resilience and quality of life for the poor to move out of poverty and vulnerability.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Improved asset base and productive capacity of the poor; and</li> <li>• Improved social security interventions.</li> </ul>
2. Disaster Risk Management	Reduce the social, economic and environmental impact of disasters.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Strengthened capacity for effective preparedness, response and recovery.</li> </ul>

#### Sub-Theme 1: Supporting the Vulnerable

Vulnerability is defined as people's inability to meet their basic needs due to exposure to a hazard and lack of resilience. In Malawi, the most vulnerable include the elderly, the chronically sick, orphans and other vulnerable children, persons with disabilities, and destitute families. These categories of people are vulnerable to risk and lack resilience, which constrains them from engaging in higher economic return activities to enable them move out of chronic poverty and ultimately above the poverty line.

### 図 II-9 「MGDS II」における指定貧困集団<sup>52</sup>

<sup>50</sup> WFP(2009) “School Feeding March 2009”

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/communications/wfp201690.pdf> (2014/02/28 アクセス)

<sup>51</sup> UNICEF(2009) “Malawi: Using Social Cash Transfers to Alleviate Poverty”

[http://www.unicef.org/evaluation/index\\_49364.html](http://www.unicef.org/evaluation/index_49364.html) (2014/02/28 アクセス)

<sup>52</sup> Government of Malawi (2012) “Malawi Growth and Development Strategy II (MGDS II) 2011-2016” P.34

### III. 所得貧困による分析

#### 1. 貧困ラインとデータ

##### (1) 当該国政府設定の貧困線の根拠と妥当性の確認

マラウイでは、政府による全国家計調査 (Integrated Household Survey) が 3 回実施されており、直近の調査は 2010 年に実施された「Third Integrated Household Survey (IHS 3) 2010-2011<sup>53</sup>」である。2005 年に実施された「IHS 2」と、2010 年に実施された「IHS 3」で使用された貧困線は、図 III-1 のように定義されている。マラウイ政府は、1 日あたり 2400 キロカロリーの食料購入するための費用を「食料 (Food) 貧困線」、最小限の生活必需品を購入する費用を「非食料 (Non-Food) 貧困線」と定義しており、1 日の収入が合計 (Total) 貧困線を下回る場合を「貧困 (Poor)」、1 日の収入が食料貧困線を下回る場合を「最貧困 (Ultra-Poor)」と定義している。また、地方部と都市部で同一の貧困線を用いている。2006～2010 年のマラウイにおけるインフレ率は図 III-2 のとおりである。物価は 2005 年から 2010 年にかけて概ね 1.5～1.8 倍程度になっていることから、「IHS 3」における貧困ラインの設定変更は妥当と考えられる。ただし、食料貧困線の算出基準となるフードバスケットの品目については、「IHS 3」に示されていない。

**Table 13. 1 Poverty line in Malawi Kwacha per person per year, Malawi 2011**

	IHS2	IHS3
Food	10,029	22,956
Non-food	6,136	14,045
Total	16,165	37,002

**図 III-1 マラウイ政府の貧困線の定義<sup>54</sup>**

	Overall Inflation	Food Inflation	Non-Food Inflation	Urban	Rural
2006	14.0	15.6	12.2	16.2	12.9
2007	7.9	7.4	8.6	10.4	6.7
2008	8.7	6.9	10.7	11.0	7.5
2009	8.4	7.3	9.6	10.1	7.5
2010	7.4	5.0	9.9	9.0	6.5
2011	7.6	3.1	12.3	9.7	6.4
2012	21.4	19.4	23.4	25.0	19.2
2013	31.6	28.4	34.9		

**図 III-2 マラウイのインフレ率の推移 (2006～2013 年)<sup>55</sup>**

<sup>53</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”  
[http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data\\_on\\_line/economics/ihs/IHS3/IHS3\\_Report.pdf](http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data_on_line/economics/ihs/IHS3/IHS3_Report.pdf) (2013/12/19 アクセス)

<sup>54</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” P.204

<sup>55</sup> Reserve bank of Malawi と National Statistical Office, Malawi のデータより作成。

[http://www.rbm.mw/inflation\\_rates\\_detailed.aspx](http://www.rbm.mw/inflation_rates_detailed.aspx)

<http://www.nsomalawi.mw/index.php/component/content/article/3-reports/65-headline-inflation-rates.html>

※2013 年のインフレ率は 1～8 月の平均値で、都市・地方別は未公表。(いずれも 2014/2/22 アクセス)

## (2) データソースの紹介とその評価

「IHS 3」は、2008 年のセンサス結果に基づき、マラウイ政府（統計局）がマラウイ全土の各 District について 24 か所の EA（Enumerated Area）とサンプルの 384 世帯をサンプル抽出し、インタビュー調査を実施したものである。ただし、設定した世帯が不在などの理由で、688 世帯が変更・除外されているため、最終的には 12,271 世帯が調査対象となっている。

**Table 1.1 Distribution of Sample EAs and Households for IHS-3 by District**

District	Projected Population - 2010 <sup>1</sup>	Sampled	
		EAs	Households
Malawi		768	12,288
Chitipa	189,492	24	384
Karonga	288,433	24	384
Nkhata bay	229,728	24	384
Rumphi	182,110	24	384
Mzimba	773,009	24	384
Mzuzu city	156,791	24	384
Kasungu	680,881	24	384
Nkhotakota	324,517	24	384
Ntchisi	241,590	24	384
Dowa	613,692	24	384
Salima	360,677	24	384
Lilongwe - rural	1,294,496	36	576
Mchinji	494,011	24	384
Dedza	655,979	24	384
Ntcheu	499,936	24	384
Lilongwe city	768,012	36	576
Mangochi	855,663	24	384
Machinga	522,422	24	384
Zomba - rural	603,176	24	384
Chiradzulu	297,529	24	384
Blantyre - rural	356,836	24	384
Mwanza	96,344	24	384
Thyolo	593,992	24	384
Mulanje	536,846	24	384
Phalombe	330,021	24	384
Chikhwawa	461,705	24	384
Nsanje	250,159	24	384
Balaka	338,430	24	384
Neno	118,542	24	384
Zomba city	101,083	24	384
Blantyre city	721,063	24	384

<sup>1</sup> Source: NSO 2008 Population and Housing Census Population Projection Report

### 図 III-3 「IHS 3」における調査地域と対象世帯数<sup>56</sup>

<sup>56</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” P.3

## 2. 貧困の状況—貧困率・貧困 GAP 率・GINI 分析

### (1) 州・県レベルの貧困率・貧困ギャップ率・GINI の表と地図

「IHS 3」に掲載されたマラウイ全土の貧困率地図を、人口密度の地図と合わせて以下に示す。貧困率が 50% を超す地域はマラウイ全土に分布しているが、貧困率と、人口密度・食料脆弱性は地方部で異なる分布をしている。例えば、北部の Chitipa は貧困率が 70% を超えているが、食料脆弱性は 20% 未満であり、人口密度は 42 人/㎢ である。一方、南部の Nsanje も貧困率が 70% を超えているが、食料脆弱性は 70% 以上であり、人口密度は 123 人/㎢ である。

このことから、マラウイにおける貧困率のデータを見る際に、人口密度・食料脆弱性などのデータについても併せて考慮する必要があると考えられる。

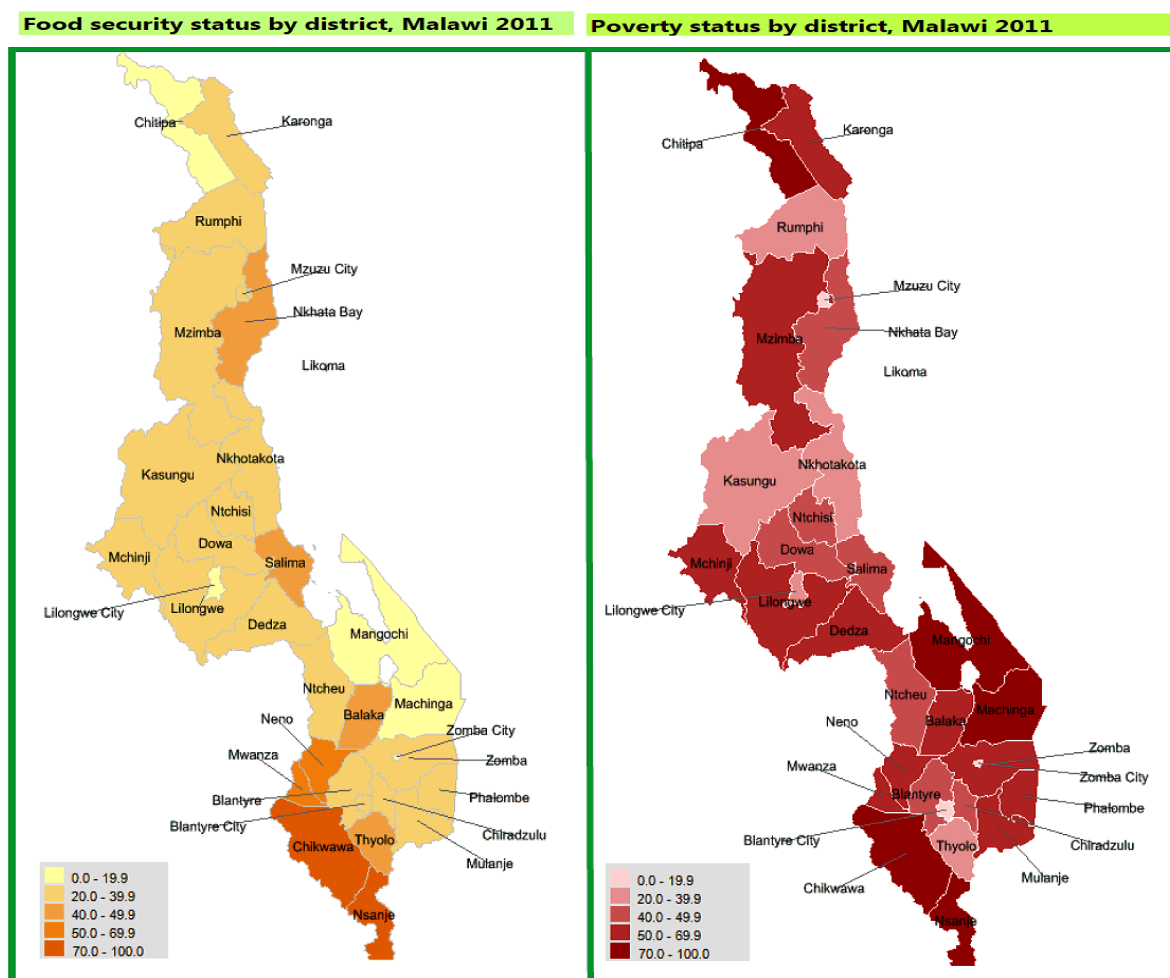


図 III-4 マラウイ全土の食料脆弱性と貧困率（再掲）（2010 年）<sup>57</sup>

<sup>57</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” 巻頭 P.2

Figure 3: Map of Malawi showing Population Density by district, 2008

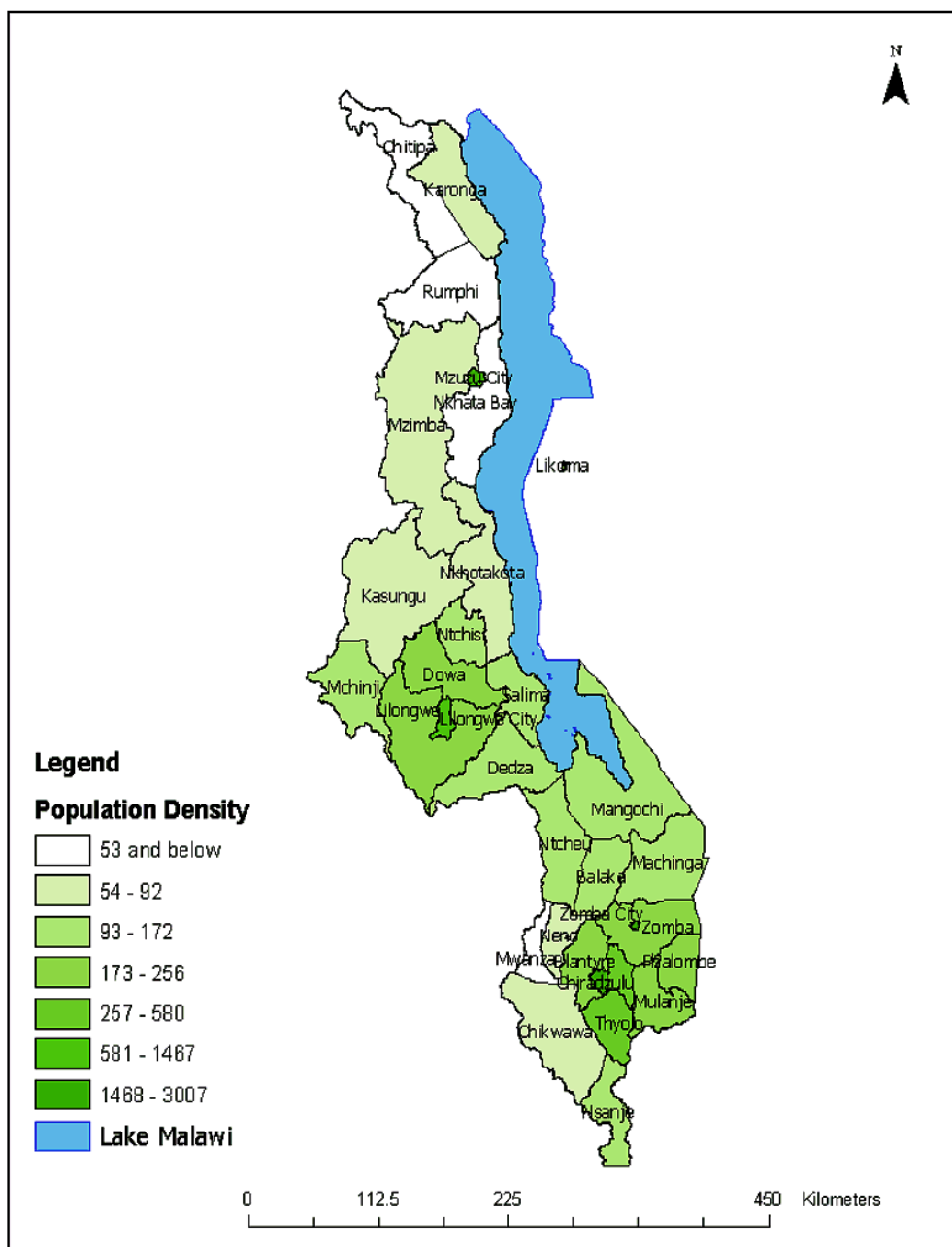


図 III-5 マラウイ全土の人口密度 (再掲) (2008 年)<sup>58</sup>

<sup>58</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) "2008 Population and Housing Census Preliminary Report" P.12



## (2) 過去 10 年程度のトレンドと要因、今後の見通し

「IHS 2」(2005 年)と「IHS 3」(2010 年)の貧困率、貧困ギャップ率、2 乗貧困ギャップ率、ジニ係数のデータを以下に示す。

両者を比較すると、都市部では貧困率が低下しており(25.4%→17.3%)、1日に必要な最低限の食料を購入できない最貧困層も減少している(7.5%→4.3%)。都市部のジニ係数は2005年から2010年にかけて、わずかではあるが改善している(0.484→0.491)。

一方、地方部は貧困率の状況がほとんど改善されておらず(55.9%→56.6%)、最貧困層の数も、増加している(24.2%→28.1%)。ジニ係数も都市部より地方部のほうが悪いものの、2005年から2010年にかけて若干改善している(0.339→0.375)。

2010年の貧困ギャップ率は都市部が4.8%と低い一方、地方部は21.4%に達しており、地方部の貧困状況がきわめて深刻である。また、地方部は、南部の貧困状況が最も深刻である。

Background characteristics	IHS3 (2010)						
	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
<b>Malawi</b>	<b>50.7</b>	<b>18.9</b>	<b>9.3</b>	<b>24.5</b>	<b>7.0</b>	<b>2.8</b>	<b>0.452</b>
<b>Urban</b>	<b>17.3</b>	<b>4.8</b>	<b>2.0</b>	<b>4.3</b>	<b>1.3</b>	<b>0.5</b>	<b>0.491</b>
<b>Rural</b>	<b>56.6</b>	<b>21.4</b>	<b>10.6</b>	<b>28.1</b>	<b>8.0</b>	<b>3.3</b>	<b>0.375</b>
<i>Rural North</i>	59.9	22.2	10.7	29.0	7.9	3.0	0.344
<i>Rural Centre</i>	48.7	17.3	8.3	21.5	6.1	2.4	0.369
<i>Rural South</i>	63.3	25.1	12.8	34.2	10.0	4.1	0.379

Background characteristics	IHS2 (2005)						
	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
<b>Malawi</b>	<b>52.4</b>	<b>17.8</b>	<b>8.0</b>	<b>22.3</b>	<b>5.3</b>	<b>1.8</b>	<b>0.390</b>
<b>Urban</b>	<b>25.4</b>	<b>7.1</b>	<b>2.8</b>	<b>7.5</b>	<b>1.6</b>	<b>0.5</b>	<b>0.484</b>
<b>Rural</b>	<b>55.9</b>	<b>19.2</b>	<b>8.6</b>	<b>24.2</b>	<b>5.8</b>	<b>2.0</b>	<b>0.339</b>
<i>Rural North</i>	56.3	19.6	8.8	25.9	5.9	1.9	0.336
<i>Rural Centre</i>	46.7	14.1	5.9	16.1	3.5	1.1	0.322
<i>Rural South</i>	64.4	23.8	11.2	31.5	7.9	2.8	0.345

図 III-6 マラウイの貧困関連指標 (2005 年/2010 年)<sup>59</sup>

<sup>59</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” Table 13.2~13.9 より作成

### (3) 地理的分布の分析

マラウイ全土で貧困であるとはいえ、収入については都市部と地方部において著しい相違が存在する。さらに、地方部における所得の多くを占める農業所得は、該当地域の農業生産性によって事実上規定されている。よって、マラウイにおける所得を考察する場合は、対立軸として

- ① 「都市部」と「地方部」
- ② 地方部において、北部・中部・南部の各地域のさらに内部にある District

を考慮する必要がある。以下、この点に留意しながら所得状況を見ることにする。

#### (i) 都市部の所得状況

図 III-7 に都市部のデータを示す。都市部の特徴としては、マラウイ全国の状況と比較すると人口密度が圧倒的に多い一方、貧困層が少ないのが特徴である。都市部の平均値で見ると、貧困率 17.3%・最貧困率 4.3%となっており、マラウイ全国平均の貧困率 50.7%・最貧困率 24.5%と比較すると貧困状況は悪くない。

貧困関係指数の値は首都の Lilongwe が最も高く、貧困率 22.3%・最貧困率 4.1%となっている。一方、南部の Blantyre は貧困層が最も少なく、貧困率 7.5%・最貧困率 2%であり、都市部の全国平均と比べても貧困関係指数の値は低い。北部の Mzuzu は、貧困率 15.9%・最貧困率 2.1%、南部の Zomba は貧困率 16.3%・最貧困率 3%となっている。マラウイの都市部では、人口数および人口密度と、貧困状況の間には特に相関関係は見られない。

	2008 Census			IHS3 (2010)						
	Land Area (Sq. Km.)	Population	Density (Pop/Sq.km)	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
Malawi	94,276	13,066,320	139	50.7	18.9	9.3	24.5	7.0	2.8	0.452
Urban	763	1,546,263	2,027	17.3	4.8	2.0	4.3	1.3	0.5	0.491
Rural	93,513	11,520,057	123	56.6	21.4	10.6	28.1	8.0	3.3	0.375
Mzuzu City	48	128,432	2,676	15.9	3.5	1.1	2.1	0.4	0.1	0.408
Lilongwe City	456	669,021	1,467	22.3	6.2	2.6	4.1	1.6	0.7	0.495
Zomba City	39	87,366	2,240	16.3	4.0	1.4	3.0	0.6	0.2	0.459
Blantyre City	220	661,444	3,007	7.5	1.9	0.7	2.0	0.5	0.1	0.499

図 III-7 マラウイ都市部の貧困状況  
(人口：2008年<sup>60</sup>、貧困指数：2010年<sup>61</sup>)

<sup>60</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “2008 Population and Housing Census Preliminary Report” P.3  
Table 1 の数値を使用

[http://unstats.un.org/unsd/demographic/sources/census/2010\\_phc/Malawi/Malawi\\_Report.pdf](http://unstats.un.org/unsd/demographic/sources/census/2010_phc/Malawi/Malawi_Report.pdf) (2013/12/24 アクセス)

<sup>61</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”  
Table 13.2～13.9 より作成

マラウイ政府がほぼ毎年実施している「Welfare Monitoring Survey (WMS)」の最新の調査結果(2011年)によると、都市部の労働者(15歳以上)の職業状況は図 III-8 のようになっている。マラウイ全土では農業が 86.4%と圧倒的に多いが、都市部は傾向が著しく異なる。農業の比率が 29.8%に下がり、サービス業・商業などが増える。都市部のうち、Mzuzu だけが労働者の約半数が農業に従事しているが、その他の 3 都市で農業に従事しているのは概ね 1 割前後である。

都市部の収入の種類は、Mzuzu を除き、給与所得、自営所得、家族収入の順となっている。Mzuzu はここでも傾向が異なり、「Mlimi」と呼ばれる農園の一時雇用が 50%以上を占めている。

Table 5.5: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by main activity according to background characteristics, Malawi 2011.

	Agriculture, Forestry, Fishing	Mining and Quarrying	Manufacturing	Electric, Water, other utilities	Construction	Whole sale, Retail marketing	Hotels	Transport/Communication	Finance and Business	Social and Community services	Total
Malawi	86.4	0.1	0.9	0.3	1.9	3.4	0.4	0.7	1.9	3.9	100
Urban	29.8	0.5	2.0	2.2	4.7	16.4	3.6	5.2	7.7	27.9	100
Rural	88.4	0.1	0.8	0.3	1.8	3.0	0.3	0.6	1.7	3.0	100
Mzuzu City	50.8	0.0	1.1	1.2	3.8	18.7	1.9	4.7	4.5	13.4	100
Lilongwe City	13.4	0.5	1.9	2.2	6.6	26.0	5.4	5.8	3.3	35.0	100
Zomba City	12.3	0.0	1.4	0.7	6.8	11.4	2.8	6.7	13.0	44.8	100
Blantyre City	9.5	0.6	4.4	4.0	4.6	19.7	4.3	7.7	17.3	27.9	100

図 III-8 マラウイ都市部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年) <sup>62</sup>

Table 5.3: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by type of payment in main job according to background characteristics, Malawi 2011.

	Type of payment							Total
	Mlimi (subsistence farming)	Wages, Salary	Payment in kind	Casual (hourly, daily)	Unpaid family business	Self employed	Tenant	
Malawi	80.9	7.6	0.3	2.4	3.0	5.4	0.4	100
Urban	25.5	37.6	1.1	4.1	11.5	20.1	0.0	100
Rural	82.8	6.6	0.3	2.4	2.7	4.9	0.4	100
Mzuzu City	50.3	24.2	0.0	0.9	7.4	17.2	0.0	100
Lilongwe City	7.5	52.5	1.0	5.7	14.1	19.3	0.0	100
Zomba City	10.6	48.4	1.4	5.2	12.4	22.0	0.0	100
Blantyre City	6.1	38.9	1.6	6.2	15.7	31.3	0.2	100

図 III-9 マラウイ都市部 給与収入の種類 (2011 年) <sup>63</sup>

<sup>62</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.70 Table 5.5 より作成  
[http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data\\_on\\_line/agriculture/wms\\_2011/2011%20Welfare%20Monitoring%20Survey\\_Report.pdf](http://www.nsomalawi.mw/images/stories/data_on_line/agriculture/wms_2011/2011%20Welfare%20Monitoring%20Survey_Report.pdf) (2013/12/26 アクセス)

<sup>63</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.68 Table 5.3 より作成

都市部における給与所得者の雇用主を図 III-10 に示すが、Mzuzu のみが農園の雇用 (Mlimi) が多く、それ以外の都市は一般の企業、家族が経営する企業、公的セクター、自営業などが多い。

給与収入に限らず、全ての世帯収入源に関する都市部の調査結果を図 III-11 に示す。一般的な給与収入が多いのは Zomba のみであり、すべての都市において、仕送りに頼る割合が多い。都市部は農業収入が少ないが、Zomba は農作物による収入も 4 割程度を占めている。なお、「Ganyu」とは単純労働のことである (詳細は VI 章 3(2)を参照)。

Table 5.4: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by type of employer according to background characteristics, Malawi 2011.

	Type of employer								
	Private Sector	Family, individual business	Parastatal	Public, government	Missions, NGO	Self employed	Mlimi (Subsistence farming)	Estate	Total
Malawi	3.8	8.5	0.2	2.3	0.5	4.9	78.6	1.2	100
Urban	19.9	23.7	0.9	12.6	4.6	17.7	20.5	0.1	100
Rural	3.1	7.8	0.2	1.8	0.4	4.4	81.0	1.3	100
Mzuzu City	8.2	10.6	1.1	10.9	3.5	14.9	50.6	0.1	100
Lilongwe City	26.1	29.7	1.3	13.4	5.5	17.9	6.2	0.0	100
Zomba City	17.1	16.4	1.2	24.1	3.4	26.3	11.6	0.0	100
Blantyre City	25.8	28.5	0.8	11.1	6.1	22.5	5.3	0.0	100

図 III-10 給与所得者の雇用主の種類 (2011 年) <sup>64</sup>

Table 8.6: Proportion of households by main source of income for the household level in the past 7 days prior to survey, Malawi 2011

	Sale of own staple food crop	Sale of own other food crops	Sale of own cash crops	Sale of own livestock/ fish/milk	Sale of firewood	Ganyu	Income from business work	Income from paid job	Remittances [received from relatives]	Sale of household assets	Other
Malawi	20.2	37.2	26.8	22.1	20.9	17.5	28.8	46.0	47.7	37.2	20.6
Mzuzu City	2.7	1.8	2.2	13.4	1.8	3.1	1.8	16.1	36.6	35.3	6.3
Lilongwe City	0.9	3.5	1.5	0.0	2.1	0.3	1.8	8.6	41.9	56.6	5.0
Zomba City	6.6	44.2	36.3	7.7	14.3	9.3	43.4	44.0	71.0	71.4	14.5
Blantyre City	1.9	0.8	1.9	1.9	0.8	0.6	0.8	6.9	53.6	48.1	6.4

図 III-11 「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (都市部) (2011 年) <sup>65</sup>

注：本調査は複数回答可のため、合計数値が 100%を超える。

<sup>64</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.69 Table 5.4 より作成

<sup>65</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.115～116 Table 8.6 より作成

## (ii) 地方部における所得状況

マラウイは前項で述べた 4 都市を除く地域が、地方部に該当する。マラウイにおける貧困は地方部全てに該当すると言っても過言ではなく、マラウイ全体の貧困は地方部に起因するものである。ただし、北部・中部・南部における傾向の差以外にも、地域内における所得格差が存在する。

これは、マラウイの地方部世帯の 9 割近くが農業に従事していることによる経済構造が存在するためである。

農家の多くは、現金収入源として、自作の農産物を販売して得られる「自営農業所得」と、「農外所得」の 2 種類を有しているが、農村世帯所得に影響を与える要因としては、地理的位置、天候状況、農外就労機会の有無などが複雑に関係している（高根(2007)<sup>66</sup>）。

「自営農業所得」は該当地域の農業生産環境によって事実上規定される。一方、「農外所得」は町に近く、農外就労の機会が多い地域ほど多くなる。

Table 5.5: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by main activity according to background characteristics, Malawi 2011.

	Agriculture, Forestry, Fishing	Mining and Quarrying	Manufacturing	Electric, Water, other utilities	Construction	Whole sale, Retail marketing	Hotels	Transport/Communication	Finance and Business	Social and Community services	Total
<b>Malawi</b>	<b>86.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.9</b>	<b>0.3</b>	<b>1.9</b>	<b>3.4</b>	<b>0.4</b>	<b>0.7</b>	<b>1.9</b>	<b>3.9</b>	<b>100</b>
<b>Rural</b>	<b>88.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.8</b>	<b>0.3</b>	<b>1.8</b>	<b>3.0</b>	<b>0.3</b>	<b>0.6</b>	<b>1.7</b>	<b>3.0</b>	<b>100</b>
<b>Urban</b>	<b>29.8</b>	<b>0.5</b>	<b>2.0</b>	<b>2.2</b>	<b>4.7</b>	<b>16.4</b>	<b>3.6</b>	<b>5.2</b>	<b>7.7</b>	<b>27.9</b>	<b>100</b>
<b>Northern</b>	<b>91.1</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>	<b>0.4</b>	<b>1.1</b>	<b>1.6</b>	<b>0.3</b>	<b>0.6</b>	<b>1.0</b>	<b>3.6</b>	<b>100</b>
<b>Central</b>	<b>88.2</b>	<b>0.2</b>	<b>0.5</b>	<b>0.2</b>	<b>1.7</b>	<b>3.5</b>	<b>0.4</b>	<b>0.5</b>	<b>1.1</b>	<b>3.7</b>	<b>100</b>
<b>Southern</b>	<b>83.4</b>	<b>0.1</b>	<b>1.3</b>	<b>0.4</b>	<b>2.3</b>	<b>4.1</b>	<b>0.5</b>	<b>1.0</b>	<b>2.8</b>	<b>4.1</b>	<b>100</b>

図 III-12 マラウイにおける 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)<sup>67</sup>

<sup>66</sup> 高根 務 (2007) 「マラウイの小農」 P.142

<sup>67</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.70 Table 5.5 より作成

以下に 2009 年度の地域別の主要農産物収穫率を示す。地域によって収穫率に著しい差があり、南部地域は人口密度が高いにもかかわらず、主食となるトウモロコシ、ミレット、コメなどの収穫率が他地域と比べて著しく低い。

このことが、南部において貧困率ならびに最貧困率が高くなっている要因と考えられる。ただし、南部地域であっても茶のプランテーションなどで働く機会のある農民と、そうでない農民の間には現金収入の機会が大きく異なる。

このことから、マラウイの地方部における貧困と収入の関係を知るためには、該当地域の農業生産性ならびに農外所得の獲得機会の有無を District 別に見る必要がある。

	Maize			Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Local	Composite	Hybrid						
<b>North Average</b>	<b>1,330</b>	<b>2,321</b>	<b>3,091</b>	<b>723</b>	<b>1,678</b>	<b>270</b>	<b>22,255</b>	<b>734</b>	<b>962</b>
<b>Central Average</b>	<b>1,216</b>	<b>2,379</b>	<b>3,326</b>	<b>767</b>	<b>1,300</b>	<b>647</b>	<b>19,229</b>	<b>742</b>	<b>1,144</b>
<b>South Average</b>	<b>509</b>	<b>1,216</b>	<b>1,830</b>	<b>498</b>	<b>828</b>	<b>619</b>	<b>14,611</b>	<b>718</b>	<b>523</b>

図 III-13 マラウイの主要農産物収穫率 (地方別、2009 年度) <sup>68</sup>

	2008 Census			IHS3 (2010)						
	Land Area (Sq. Km.)	Population	Density (Pop/Sq.km)	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
<b>Malawi</b>	<b>94,276</b>	<b>13,066,320</b>	<b>139</b>	<b>50.7</b>	<b>18.9</b>	<b>9.3</b>	<b>24.5</b>	<b>7.0</b>	<b>2.8</b>	<b>0.452</b>
Urban	763	1,546,263	2,027	17.3	4.8	2.0	4.3	1.3	0.5	0.491
<b>Rural</b>	<b>93,513</b>	<b>11,520,057</b>	<b>123</b>	<b>56.6</b>	<b>21.4</b>	<b>10.6</b>	<b>28.1</b>	<b>8.0</b>	<b>3.3</b>	<b>0.375</b>
<i>Rural North</i>	<i>26,883</i>	<i>1,570,070</i>	<i>58</i>	<i>59.9</i>	<i>22.2</i>	<i>10.7</i>	<i>29.0</i>	<i>7.9</i>	<i>3.0</i>	<i>0.344</i>
<i>Rural Centre</i>	<i>35,136</i>	<i>4,822,013</i>	<i>137</i>	<i>48.7</i>	<i>17.3</i>	<i>8.3</i>	<i>21.5</i>	<i>6.1</i>	<i>2.4</i>	<i>0.369</i>
<i>Rural South</i>	<i>32,963</i>	<i>5,127,974</i>	<i>156</i>	<i>63.3</i>	<i>25.1</i>	<i>12.8</i>	<i>34.2</i>	<i>10.0</i>	<i>4.1</i>	<i>0.379</i>

図 III-14 マラウイ各地域の貧困状況 (地方部)  
(人口 : 2008 年<sup>69</sup>、貧困指数 : 2010 年<sup>70</sup>)

<sup>68</sup> Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development, Malawi (2012)

“2010/11 Annual Agricultural Statistical Bulletin” P.70~154 Table2.4~2.13 より作成

<sup>69</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “2008 Population and Housing Census Preliminary Report” P.3

Table 1 の数値を使用

<sup>70</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”

Table 13.2~13.9 より作成

アメリカ農務省 (USDA) の Web サイト「*Crop Explorer*<sup>71</sup>」に、「Additional Resource」→「Malawi Food Economy」という項目があり、英国の NGO「*Save the Children UK*」がまとめた「*Malawi Food Economy Zones (Malawi FEZ map)*」が掲載されているので、以下に示す。

「*Malawi FEZ*」によると、マラウイの地方部は農業生産性の違いによって 25 の農業生産経済地域に分類される。地方部の収入を、北部・中部・南部の別と、「*Malawi FEZ map*」の説明に従って見ていくことにする。(各 District 別の詳細な状況については、Annex を参照されたい)

### Malawi Food Economy Zones

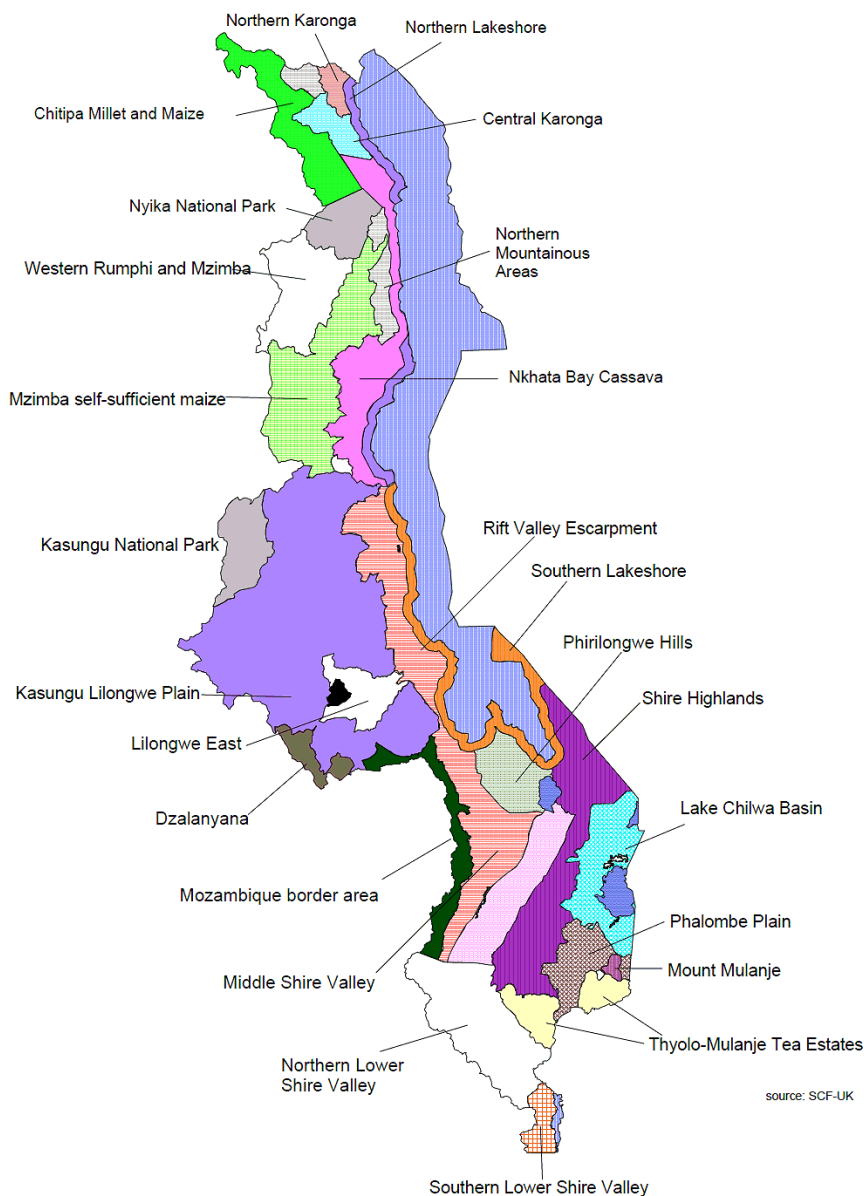


図 III-15 マラウイ 農業生産経済地域地図<sup>72</sup>

<sup>71</sup> <http://www.pecad.fas.usda.gov/cropexplorer/imageview.aspx?regionid=safrika> (2013/12/26 アクセス)

<sup>72</sup> USDA/Save the Children UK “*Malawi Food Economy Zones (Malawi FEZ map)*”  
[http://www.pecad.fas.usda.gov/cropexplorer/al/malawi\\_economy.pdf](http://www.pecad.fas.usda.gov/cropexplorer/al/malawi_economy.pdf) (2013/12/26 アクセス)

### (iii) 北部地方部

北部地域の地方部における貧困率関連の指数と職業種別を以下に示す。

北部地域は、マラウイ全土平均と比べると人口、人口密度共に少ないのが特徴である。北部地域であっても貧困の状況には大きな差があり、貧困率は 37.3～75.6%となっている。また、職業は農業が 8 割以上を占める。

大規模農園が存在する Rumphi District は貧困率が最も低い (37.3%)。一方、中小規模農園が多く、自営農業所得も低い Chitipa Distict は貧困率が最も高い (75.6%)

Background characteristics	2008 Census			IHS3 (2010)						
	Land Area (Sq. Km.)	Population	Density (Pop/Sq.km)	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
Malawi	94,276	13,066,320	139	50.7	18.9	9.3	24.5	7.0	2.8	0.452
Rural	93,513	11,520,057	123	56.6	21.4	10.6	28.1	8.0	3.3	0.375
Rural North	26,883	1,570,070	58	59.9	22.2	10.7	29.0	7.9	3.0	0.344
Chitipa	4,288	179,072	42	75.6	31.2	16.2	43.6	13.0	5.2	0.356
Karonga	3,355	272,789	81	61.7	21.6	10.1	26.0	7.0	2.7	0.359
Nkhatabay*	4,089	224,224	55	44.5	15.1	7.0	17.7	4.8	2.0	0.323
Rumphi	4,769	169,112	35	37.3	11.0	4.3	10.8	2.3	0.7	0.335
Mzimba	10,382	724,873	70	60.9	23.2	11.3	31.7	8.5	3.2	0.353

図 III-16 マラウイ北部地方部の貧困状況 (人口：2008 年<sup>73</sup>、貧困指数：2010 年<sup>74</sup>)

Table 5.5: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by main activity according to background characteristics, Malawi 2011.

	Agriculture, Forestry, Fishing	Mining and Quarrying	Manufacturing	Electric, Water, other utilities	Construction	Whole sale, Retail marketing	Hotels	Transport/Communication	Finance and Business	Social and Community services	Total
Malawi	86.4	0.1	0.9	0.3	1.9	3.4	0.4	0.7	1.9	3.9	100
Rural	88.4	0.1	0.8	0.3	1.8	3.0	0.3	0.6	1.7	3.0	100
Northern	91.1	0.1	0.2	0.4	1.1	1.6	0.3	0.6	1.0	3.6	100
Chitipa	94.9	0.0	0.1	0.0	0.1	1.4	0.3	0.0	0.1	3.0	100
Karonga	88.5	0.2	0.6	0.4	2.8	3.5	0.1	1.2	0.1	2.5	100
Nkhata Bay	87.7	0.1	0.8	0.7	1.5	2.0	0.7	1.0	0.7	4.8	100
Rumphi	85.4	0.0	0.1	0.1	3.1	1.1	1.2	1.3	1.7	5.9	100
Mzimba	93.5	0.0	0.0	0.5	0.3	0.6	0.2	0.3	1.2	3.3	100

図 III-17 マラウイ北部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)<sup>75</sup>

<sup>73</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “2008 Population and Housing Census Preliminary Report” P.3

Table 1 の数値を使用

<sup>74</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)”

Table 13.2～13.9 より作成

<sup>75</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.70 Table 5.5 より作成



北部地域の主な収入源・雇用主のデータを示す。貧困率が最も高い Chitipa District は自営農業所得の占める割合が低く、収入の選択肢が限られている。貧困率が最も低い Rumphu District は大規模農園の収入が雇用収入者の 10.8% 存在しており、北部地域では最も多い。

北部地域では、農業以外の現金収入源として単純労働の「Ganyu」や薪の販売の比率が 3～40% と高いが、Chitipa District は「Ganyu」の比率がきわめて少ない (6.3%)。Chitipa District は現金収入の手段が限られていることも、貧困率を押し上げている要因とみられる。

ただし、北部地域はマラウイの中では牧畜が盛んであり、畜産物による収入が多いことから、他地域と比べて貧困状況がある程度緩和されている (Annex 参照)。

Table 8.6: Proportion of households by main source of income for the household level in the past 7 days prior to survey, Malawi 2011

	Sale of own staple food crop	Sale of own other food crops	Sale of own cash crops	Sale of own livestock/ fish/milk	Sale of firewood	Ganyu	Income from business work	Income from paid job	Remittances [received from relatives]	Sale of household assets	Other
Malawi	20.2	37.2	26.8	22.1	20.9	17.5	28.8	46.0	47.7	37.2	20.6
Northern	35.6	39.5	35.2	37.4	31.3	27.1	33.6	33.6	47.6	34.6	24.2
Chitipa	17.1	23.8	2.0	31.0	13.9	6.3	6.7	15.1	22.2	23.0	11.1
Karonga	39.0	35.6	34.7	53.1	36.8	41.4	33.0	40.2	62.7	45.2	18.2
Nkhata Bay	41.8	33.3	32.8	50.3	32.2	33.9	31.5	41.8	48.4	49.9	23.9
Rumphu	40.9	55.0	45.4	32.4	40.8	31.2	42.7	33.7	49.6	32.6	31.5
Mzimba	39.1	45.1	43.5	35.5	32.9	26.2	40.8	35.3	48.4	28.8	28.3

図 III-18 「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (北部地方部) (2011 年) <sup>76</sup>

Table 5.4: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by type of employer according to background characteristics, Malawi 2011.

	Type of employer								Total
	Private Sector	Family, individual business	Parastatal	Public, government	Missions, NGO	Self employed	Mlimi (Subsistence farming)	Estate	
Malawi	3.8	8.5	0.2	2.3	0.5	4.9	78.6	1.2	100
Rural	3.1	7.8	0.2	1.8	0.4	4.4	81.0	1.3	100
Northern	2.6	4.0	0.1	2.9	0.5	4.4	84.2	1.2	100
Chitipa	0.4	1.5	0.0	3.3	0.1	0.7	93.9	0.0	100
Karonga	1.8	3.8	0.0	1.1	0.5	9.3	83.4	0.0	100
Nkhata Bay	2.1	6.1	0.7	3.6	0.6	3.0	82.2	1.6	100
Rumphu	4.9	1.0	0.0	2.1	0.0	4.5	76.8	10.8	100
Mzimba	4.2	6.1	0.0	3.0	0.5	1.4	84.5	0.3	100

図 III-19 北部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年) <sup>77</sup>

<sup>76</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.115～116 Table 8.6 より作成

<sup>77</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.69 Table 5.4 より作成

北部地域の自給作物の生産量・生産率を示す。北部地域は全般的に農業生産の収穫率が高い。また、降水量の変動の影響を受けにくいキャッサバや豆類の栽培が盛んである。トウモロコシはハイブリッド種 28.9 万 t、ローカル種 5.4 万 t、複合種 17.8 万 t である。Karonga District は Songwe 川付近でコメ栽培が盛んであるが、マラウイは北部地域と中・南部地域を結ぶ交通インフラの状況が良くないため、コメは主にタンザニアに向けて出荷される<sup>78</sup>。

Production 2009/10 (MT)

	Maize				Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Total	Local	Composite	Hybrid						
Malawi	3,291,695	472,329	1,082,910	1,736,456	32,232	111,108	53,934	4,589,382	455,322	282,114
Rural North	523,180	54,565	178,707	289,908	14,446	45,236	54	2,032,426	44,271	37,698
Chitipa	75,788	12,599	26,589	36,600	6,760	707	28	81,555	11,593	4,027
Karonga	59,460	4,991	21,441	33,028	212	28,559	26	289,360	1,310	3,436
Nkhata Bay*	45,133	2,591	14,841	27,701	527	7,901	0	640,923	2,757	2,296
Rumphi	41,979	4,023	12,640	25,316	229	130	0	71,675	4,051	2,018
Mzimba	255,687	27,770	88,355	139,562	6,191	38	0	307,990	21,803	23,625

Yield 2009/10 (MT/ha)

	Maize			Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Local	Composite	Hybrid						
North Average	1,330	2,321	3,091	723	1,678	270	22,255	734	962
Chitipa	1,664	2,754	3,849	1,054	1,209	781	21,211	822	922
Karonga	1,067	2,217	2,872	767	2,736	839	22,612	720	779
Nkhata Bay*	1,571	2,565	3,330	1,082	2,583	0	28,748	960	912
Likoma	1,364	2,000	2,271	0	1,333	0	20,618	542	0
Rumphi	1,386	2,386	3,408	709	1,340	0	19,833	807	1,138
Mzimba	928	2,004	2,816	725	864	0	20,505	550	1,058

図 III-20 北部地域の主要農産物収穫率・生産量（地方別、2009 年度）<sup>79</sup>

<sup>78</sup> USDA/Save the Children UK “Malawi Food Economy Zones (Malawi FEZ map)”

<sup>79</sup> Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development, Malawi (2012)

“2010/11 Annual Agricultural Statistical Bulletin” P.70~154 Table2.4~2.13 より作成

#### (iv) 中部地域

中部地域の地方部における貧困率関連の指数・職業を、以下に示す。中部地域の人口・人口密度は概ねマラウイ・マラウイ地方部の平均値に近い。貧困の状況にはある程度の幅があり、貧困率は 32.1～56.8%となっている。職業は農業が約 9 割を占めている。

南アフリカの製糖会社「Illovo Sugar」がサトウキビの大規模農園を運営している Nkhotakota District が貧困率が最も低く、32.1%である。中部地域では Lilongwe District (地方部) と Dedza District の貧困率が最も高く、56%台に達している。

	2008 Census			IHS3 (2010)						
	Land Area (Sq. Km.)	Population	Density (Pop/Sq.km)	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
Malawi	94,276	13,066,320	139	50.7	18.9	9.3	24.5	7.0	2.8	0.452
Rural	93,513	11,520,057	123	56.6	21.4	10.6	28.1	8.0	3.3	0.375
Rural Centre	35,136	4,822,013	137	48.7	17.3	8.3	21.5	6.1	2.4	0.369
Kasungu	7,878	616,085	78	33.6	10.3	4.4	10.8	2.8	1.1	0.349
Nkhotakota	4,259	301,868	71	32.1	9.5	4.1	11.2	2.5	0.9	0.370
Ntchisi	1,655	224,098	135	41.4	10.7	4.0	10.3	1.9	0.6	0.335
Dowa	3,041	556,678	183	45.6	14.1	6.3	16.6	4.4	1.7	0.384
Salima	2,196	340,327	155	41.1	13.8	6.1	16.5	4.0	1.4	0.343
Lilongwe	5,703	1,228,146	215	56.6	23.8	12.5	31.0	10.2	4.4	0.417
Mchinji	3,356	456,558	136	55.5	21.3	10.7	31.9	8.2	3.2	0.407
Dedza	3,624	623,789	172	56.8	20.0	9.5	25.1	7.1	2.7	0.354
Ntcheu	3,424	474,464	139	45.6	13.3	5.5	14.0	3.2	1.2	0.343

図 III-21 マラウイ中部地方部の貧困状況 (人口：2008 年<sup>80</sup>、貧困指数：2010 年<sup>81</sup>)

Table 5.5: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by main activity according to background characteristics, Malawi 2011.

	Agriculture, Forestry, Fishing	Mining and Quarrying	Manufacturing	Electric, Water, other utilities	Construction	Whole sale, Retail marketing	Hotels	Transport/Communication	Finance and Business	Social and Community services	Total
Malawi	86.4	0.1	0.9	0.3	1.9	3.4	0.4	0.7	1.9	3.9	100
Rural	88.4	0.1	0.8	0.3	1.8	3.0	0.3	0.6	1.7	3.0	100
Central	88.2	0.2	0.5	0.2	1.7	3.5	0.4	0.5	1.1	3.7	100
Kasungu	88.0	0.4	0.8	0.2	1.0	1.6	0.3	0.5	3.1	4.2	100
Nkhotakota	91.6	0.0	2.5	0.0	0.3	0.8	0.1	0.0	0.5	4.2	100
Ntchisi	91.1	0.6	0.0	0.0	0.3	1.1	0.5	0.2	0.7	5.5	100
Dowa	93.7	0.2	0.4	0.1	0.4	3.6	0.0	0.0	0.1	1.5	100
Salima	85.6	0.0	0.4	0.3	2.0	4.5	0.5	1.8	1.8	3.1	100
Lilongwe Rural	89.6	0.2	0.5	0.2	3.0	2.6	0.2	0.2	0.7	2.9	100
Mchinji	91.5	0.0	0.5	0.0	0.7	4.7	0.2	0.0	0.7	1.7	100
Dedza	92.8	0.0	0.0	0.0	0.5	1.7	0.1	0.0	1.9	3.0	100
Ntcheu	91.0	0.4	0.6	0.2	1.9	1.4	0.2	0.3	1.4	2.7	100

図 III-22 マラウイ中部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)<sup>82</sup>

<sup>80</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “2008 Population and Housing Census Preliminary Report” P.3 Table 1 の数値を使用

<sup>81</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)” Table 13.2～13.9 より作成

<sup>82</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.70 Table 5.5 より作成

中部地方部の主な世帯収入源・給与所得の雇用主を示す。サトウキビの大規模農園がある Nkhotakota District では給与所得者の 9.1%が大規模農園から収入を得ている。中小規模の農園からの収入も比較的多い。Nkhotakota District と Ntchisi District を除き、自営農業所得が収入の多くを占める。単純労働「Ganyu」は貧困率の高い Dedza District では 38.8%であるが、その他の地域では 20%以下である。

Table 8.6: Proportion of households by main source of income for the household level in the past 7 days prior to survey, Malawi 2011

	Sale of own staple food crop	Sale of own other food crops	Sale of own cash crops	Sale of own livestock/ fish/milk	Sale of firewood	Ganyu	Income from business work	Income from paid job	Remittances [received from relatives]	Sale of household assets	Other
Malawi	20.2	37.2	26.8	22.1	20.9	17.5	28.8	46.0	47.7	37.2	20.6
Central	21.1	38.0	27.9	20.6	19.7	16.2	28.1	49.1	44.9	38.5	18.9
Kasungu	30.2	31.4	31.9	27.0	27.7	22.5	28.6	41.0	46.3	31.2	17.1
Nkhotakota	1.1	3.1	6.9	3.8	1.9	10.7	1.9	49.0	26.1	21.1	11.9
Ntchisi	6.8	8.0	7.6	7.6	6.0	0.8	5.2	58.2	14.3	15.9	8.0
Dowa	26.8	22.7	21.6	22.7	17.1	13.4	22.7	49.1	36.6	29.2	14.7
Salima	29.3	42.5	35.7	24.5	23.5	22.4	37.9	56.9	57.5	41.4	25.9
Lilongwe Rural	17.1	47.3	23.9	21.6	19.1	12.7	25.6	50.3	42.0	34.8	18.7
Mchinji	23.6	66.5	38.5	24.6	25.3	18.9	40.5	55.1	52.8	48.9	29.1
Dedza	38.0	75.2	73.6	38.0	40.3	38.8	76.0	85.3	81.4	79.8	20.2
Ntcheu	21.0	66.1	46.2	21.7	22.4	20.6	48.3	63.6	50.3	53.1	26.2

図 III-23 「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源 (中部地方部) (2011 年)<sup>83</sup>

	Type of employer								Total
	Private Sector	Family, individual business	Parastatal	Public, government	Missions, NGO	Self employed	Mlimi (Subsistence farming)	Estate	
Malawi	3.8	8.5	0.2	2.3	0.5	4.9	78.6	1.2	100
Rural	3.1	7.8	0.2	1.8	0.4	4.4	81.0	1.3	100
Central	3.4	7.0	0.1	2.4	0.5	2.8	82.9	0.9	100
Kasungu	4.2	8.4	0.0	1.6	0.3	4.3	79.9	1.3	100
Nkhotakota	5.0	4.3	0.0	1.6	1.1	2.9	76.0	9.1	100
Ntchisi	1.4	1.1	0.0	4.3	0.2	1.9	90.7	0.4	100
Dowa	1.3	4.1	0.2	1.7	0.0	0.9	91.8	0.0	100
Salima	0.6	11.6	0.5	1.3	0.7	3.6	81.1	0.5	100
Lilongwe Rural	2.8	7.6	0.0	2.3	0.3	1.6	84.7	0.6	100
Mchinji	3.1	5.0	0.0	1.1	0.1	2.0	87.9	0.7	100
Dedza	1.5	4.0	0.0	2.3	0.0	0.6	91.6	0.0	100
Ntcheu	2.2	5.6	0.2	1.3	0.5	4.7	84.4	1.2	100

図 III-24 中部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年)<sup>84</sup>

<sup>83</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.115~116 Table 8.6 より作成

<sup>84</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.69 Table 5.4 より作成

中部地域の自給作物の生産量・生産率を示す。中部地域も北部と同様に、トウモロコシ以外にキャッサバや豆類などを生産している。少量ではあるが、ミレット・コメ・ソルガムの栽培も見られる。トウモロコシはハイブリッド種 100 万 t、ローカル種 28.6 万 t、複合種 61.3 万 t である。

Production 2009/10 (MT)

	Maize				Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Total	Local	Composite	Hybrid						
Malawi	3,291,695	472,329	1,082,910	1,736,456	32,232	111,108	53,934	4,589,382	455,322	282,114
Rural Centre	1,901,837	286,630	613,867	1,001,340	9,460	25,231	1,700	1,506,300	150,570	199,513
Kasungu	275,994	27,390	100,212	148,392	1,033	182	25	235,995	18,415	16,551
Nkhotakota	69,525	4,650	25,514	39,361	19	7,803	28	729,125	1,525	6,152
Ntchisi	136,578	19,553	44,451	72,574	0	0	0	39,373	17,158	9,796
Dowa	213,705	43,033	67,734	102,938	9	5	70	116,771	16,240	31,994
Salima	92,976	11,654	29,360	51,962	0	2,565	331	25,656	2,468	7,649
Lilongwe Rural	485,092	56,197	154,164	274,731	1,049	486	0	131,402	19,806	53,018
Mchinji	264,723	47,179	87,716	129,828	7	868	5	62,383	18,056	39,912
Dedza	182,111	40,809	45,450	95,852	1,142	12,268	597	113,638	36,420	21,298
Ntcheu	181,133	36,165	59,266	85,702	6,201	1,054	644	51,957	20,482	13,143

Yield 2009/10 (MT/ha)

	Maize			Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Local	Composite	Hybrid						
Central Average	1,216	2,379	3,326	767	1,300	647	19,229	742	1,144
Kasungu	1,227	2,403	3,328	727	758	581	21,591	553	790
Nkhotakota	1,110	2,567	3,558	1,919	2,166	651	23,463	937	1,089
Ntchisi	1,611	2,917	3,884	0	0	0	21,168	1,157	1,342
Dowa	1,387	2,510	3,380	900	1,000	1,186	19,391	605	1,453
Salima	1,155	2,103	2,916	655	1,252	855	17,323	834	1,060
Lilongwe Rural	1,201	2,360	3,487	729	1,200	0	14,647	591	1,197
Mchinji	1,431	2,415	3,309	778	1,145	833	22,432	924	1,316
Dedza	898	1,969	3,042	493	3,061	825	18,436	534	1,098
Ntcheu	924	2,164	3,031	698	1,115	893	14,607	547	955

図 III-25 中部地域の主要農産物収穫率・生産量（地方別、2009 年度）<sup>85</sup>

<sup>85</sup> Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development, Malawi (2012)  
“2010/11 Annual Agricultural Statistical Bulletin” P.70~154 Table2.4~2.13 より作成

## (v) 南部地域

南部地域の地方部における貧困率関連の指数・職業を以下に示す。南部地域の人口は多く、マラウイ地方部の約半数を占めている。また、人口密度はマラウイ平均値より多い。貧困の状況は深刻であり、南部平均の貧困率は 63.3% となっているが、District によって相違があり、貧困率は 36.8~81.6% となっている。職業は農業が約 9 割を占めている。

	2008 Census			IHS3 (2010)						
	Land Area (Sq. Km.)	Population	Density (Pop/Sq.km)	Poverty (% Population)	Poverty Gap	Poverty Gap Squared	Ultra Poverty (% Population)	Ultra Poverty Gap	Ultra Poverty Gap Squared	Gini
Malawi	94,276	13,066,320	139	50.7	18.9	9.3	24.5	7.0	2.8	0.452
Rural	93,513	11,520,057	123	56.6	21.4	10.6	28.1	8.0	3.3	0.375
Rural South	32,963	5,127,974	156	63.3	25.1	12.8	34.2	10.0	4.1	0.379
Mangochi	6,273	803,602	128	73.2	30.3	15.0	44.4	11.2	3.9	0.329
Balaka	2,193	316,748	144	67.7	23.9	10.8	33.2	7.3	2.4	0.324
Machinga	3,771	488,996	130	75.0	29.1	14.1	39.2	10.2	3.7	0.320
Neno	1,469	108,897	74	65.3	23.8	11.3	29.7	8.2	3.3	0.317
Zomba Rural	2,541	583,167	230	56.6	20.6	10.0	26.4	7.6	3.0	0.384
Mwanza*	2,295	94,476	41	64.3	24.1	11.5	31.4	8.2	3.0	0.369
Blantyre Rural	1,792	338,047	189	40.0	11.9	4.8	13.5	2.8	0.9	0.421
Chiradzulu	767	290,946	379	43.3	11.6	4.4	12.5	2.2	0.6	0.377
Mulanje	2,056	525,429	256	65.3	26.0	13.6	33.6	10.9	4.9	0.384
Phalombe	1,394	313,227	225	64.5	28.4	15.1	41.7	12.5	4.9	0.385
Chikwawa	4,755	438,895	92	81.6	40.6	24.3	59.0	21.9	10.9	0.381
Thyolo	1,715	587,455	343	36.8	10.4	4.5	11.2	3.1	1.2	0.317
Nsanje	1,942	238,089	123	81.2	40.4	23.9	56.0	21.2	10.8	0.381

図 III-26 マラウイ南部地方部の貧困状況 (人口 : 2008 年<sup>86</sup>、貧困指数 : 2010 年<sup>87</sup>)

Table 5.5: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by main activity according to background characteristics, Malawi 2011.

	Agriculture, Forestry, Fishing	Mining and Quarrying	Manufacturing	Electric, Water, other utilities	Construction	Whole sale, Retail marketing	Hotels	Transport/ Communication	Finance and Business	Social and Community services	Total
Malawi	86.4	0.1	0.9	0.3	1.9	3.4	0.4	0.7	1.9	3.9	100
Rural	88.4	0.1	0.8	0.3	1.8	3.0	0.3	0.6	1.7	3.0	100
Southern	83.4	0.1	1.3	0.4	2.3	4.1	0.5	1.0	2.8	4.1	100
Mangochi	94.7	0.0	0.2	0.4	1.2	1.5	0.2	0.0	1.6	0.2	100
Balaka	74.5	0.0	0.4	0.3	5.2	7.2	0.9	2.2	6.0	3.3	100
Machinga	93.2	0.1	0.3	0.3	1.7	2.1	0.1	0.2	0.5	1.5	100
Neno	83.2	0.5	2.9	0.3	1.9	3.0	0.5	0.2	2.2	5.3	100
Zomba Rural	92.9	0.1	0.3	0.1	0.8	2.3	0.1	0.3	1.6	1.4	100
Mwanza	66.1	1.4	2.5	0.0	7.2	10.1	0.9	1.8	2.5	7.5	100
Blantyre Rural	78.2	0.2	0.8	0.0	1.3	4.5	1.0	2.6	2.9	8.6	100
Chiradzulu	67.8	0.0	2.8	0.2	5.0	4.0	0.2	1.1	4.3	14.6	100
Mulanje	86.1	0.0	1.1	0.3	1.3	3.9	0.2	1.0	1.3	4.8	100
Phalombe	88.5	0.0	0.3	1.2	1.7	4.0	0.3	0.0	2.4	1.5	100
Chikwawa	83.7	0.3	5.1	0.0	1.6	3.2	0.9	0.4	2.4	2.4	100
Thyolo	78.3	0.1	2.7	0.6	4.0	4.3	1.0	1.2	4.5	3.4	100
Nsanje	91.9	0.0	0.4	0.0	0.7	3.7	0.0	0.0	0.3	3.0	100

図 III-27 マラウイ南部地方部における 15 歳以上の労働者の職業比率 (2011 年)<sup>88</sup>

<sup>86</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) "2008 Population and Housing Census Preliminary Report" P.3 Table 1 の数値を使用

<sup>87</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) "Integrated Household Survey 2010-2011 (IHS 3)" Table 13.2~13.9 より作成

<sup>88</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) "Welfare Monitoring Survey 2011" P.70 Table 5.5 より作成

南部地方部の主な世帯収入源と、給与所得者の雇用主のデータを示す。貧困率の高い Mwanza、Nsanje などでは単純労働「Ganyu」による収入が 30%以上を占める一方、同様に貧困率の高い Phalombe では「Ganyu」による収入は 4.3%に過ぎず、地域によって「Ganyu」へのアクセスの相違が見られる。南部地域は畜産が可能な地域が限られている。

Table 8.6: Proportion of households by main source of income for the household level in the past 7 days prior to survey, Malawi 2011

	Sale of own staple food crop	Sale of own other food crops	Sale of own cash crops	Sale of own livestock/ fish/milk	Sale of firewood	Ganyu	Income from business work	Income from paid job	Remittances [received from relatives]	Sale of household assets	Other
Malawi	20.2	37.2	26.8	22.1	20.9	17.5	28.8	46.0	47.7	37.2	20.6
Southern	12.4	35.5	22.2	15.9	16.8	13.9	27.0	49.6	49.5	37.7	20.1
Mangochi	4.7	8.1	7.3	7.8	7.3	13.4	8.1	40.2	47.5	10.3	8.4
Balaka	2.4	57.7	2.1	2.1	19.2	3.1	18.2	28.7	38.8	26.6	20.3
Machinga	11.1	48.8	12.7	11.3	17.5	9.1	21.3	48.2	49.4	26.1	24.8
Neno	23.8	30.6	23.5	33.0	25.2	22.3	26.6	49.6	46.8	36.3	21.9
Zomba Rural	1.6	5.1	1.8	4.4	2.1	4.6	1.8	43.9	30.7	8.6	11.3
Mwanza	32.2	78.6	45.6	40.9	40.1	33.4	49.4	52.9	63.6	51.4	42.1
Blantyre Rural	3.6	1.9	3.6	5.3	4.6	7.5	9.4	56.8	30.4	18.6	7.0
Chiradzulu	16.0	42.9	31.1	14.9	16.2	12.8	33.5	52.3	49.3	38.3	31.9
Mulanje	16.1	31.6	29.5	24.3	15.8	14.0	28.7	50.3	48.5	48.5	27.2
Phalombe	1.2	0.0	1.2	2.3	1.2	4.3	3.9	62.8	40.7	8.9	10.5
Chikwawa	13.8	48.0	27.7	17.9	25.0	16.8	39.3	61.1	49.9	48.9	18.2
Thyolo	11.6	46.0	22.8	23.4	22.1	10.6	29.7	42.4	46.0	44.7	28.3
Nsanje	25.5	51.4	51.6	27.7	25.9	31.2	54.3	75.0	63.7	54.5	19.6

図 III-28 「WMS 2011」調査前 7 日間の世帯別収入源（南部地方部）（2011 年）<sup>89</sup>

<sup>89</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.115~116 Table 8.6 より作成

Thyolo District と Mulanje District は紅茶やナッツ類などの大規模農園があり、給与所得者のうち大規模農園で勤務する割合はそれぞれ 6.3%、5.8%となっている。ただし、Thyolo District では南部地域で最も貧困率が低い(36.8%)、Mulanje District は南部地域の中でも貧困率が高い(65.3%、南部平均貧困率 63.3%)。これは、大規模農場を除いた地域の自然環境の相違に起因する農業生産性が原因とみられる (Annex 参照)。

Table 5.4: Percentage distribution of currently employed persons aged 15 years and above by type of employer according to background characteristics, Malawi 2011.

	Type of employer								Total
	Private Sector	Family, individual business	Parastatal	Public, government	Missions, NGO	Self employed	Mlimi (Subsistence farming)	Estate	
Malawi	3.8	8.5	0.2	2.3	0.5	4.9	78.6	1.2	100
Rural	3.1	7.8	0.2	1.8	0.4	4.4	81.0	1.3	100
Southern	4.2	10.0	0.3	2.1	0.6	6.3	75.2	1.4	100
Mangochi	1.7	4.6	0.2	0.1	0.0	2.7	90.5	0.1	100
Balaka	3.8	14.9	0.5	2.1	0.8	8.1	68.6	1.3	100
Machinga	1.2	13.7	0.1	1.5	0.1	3.7	79.6	0.1	100
Neno	1.9	9.4	0.3	3.8	1.3	9.2	73.1	1.0	100
Zomba Rural	1.0	5.5	0.4	0.7	0.1	2.9	88.4	1.1	100
Mwanza	11.0	23.2	0.0	7.3	1.2	13.4	43.9	0.0	100
Blantyre Rural	4.4	8.3	0.0	4.5	0.5	7.9	73.9	0.5	100
Chiradzulu	7.3	10.7	0.3	2.6	1.0	23.0	54.5	0.5	100
Mulanje	10.5	6.6	0.5	3.4	0.2	6.8	65.7	6.3	100
Phalombe	9.6	8.6	0.0	1.7	0.0	7.5	72.6	0.0	100
Chikwawa	1.6	10.2	0.0	1.4	0.6	2.9	83.3	0.0	100
Thyolo	5.5	15.9	0.0	2.2	1.5	5.7	63.3	5.8	100
Nsanje	2.6	14.2	0.0	2.7	0.4	0.4	79.6	0.0	100

図 III-29 南部地域の給与所得者の雇用主の種類 (2011 年)<sup>90</sup>

<sup>90</sup> National Statistical Office, Malawi (2012) “Welfare Monitoring Survey 2011” P.69 Table 5.4 より作成



南部地域の自給作物の生産量・生産率を示す。南部地域はマラウイ全土の中でも農業生産性がきわめて低く、このことも南部地域の貧困を深刻にしているとみられる。

	Maize			Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Local	Composite	Hybrid						
North Average	1,330	2,321	3,091	723	1,678	270	22,255	734	962
Central Average	1,216	2,379	3,326	767	1,300	647	19,229	742	1,144
South Average	509	1,216	1,830	498	828	619	14,611	718	523

図 III-30 マラウイの主要農産物収穫率（再掲）（地方別、2009 年度）<sup>91</sup>

	Maize				Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Total	Local	Composite	Hybrid						
Malawi	3,291,695	472,329	1,082,910	1,736,456	32,232	111,108	53,934	4,589,382	455,322	282,114
Rural South	866,678	131,134	290,336	445,208	8,326	40,641	52,180	1,050,656	260,481	44,903
Mangochi*	160,247	36,373	74,743	49,131	1,113	2,657	2,678	113,426	15,155	11,318
Balaka	58,319	12,109	20,382	25,828	214	233	603	17,406	4,999	1,682
Machinga*	69,040	9,900	33,888	25,252	221	15,330	4,760	52,834	13,753	4,333
Neno	31,007	4,083	17,578	9,346	138	0	266	27,028	10,432	2,073
Zomba Rural	132,231	20,435	32,890	78,906	64	7,046	6,049	164,581	23,312	6,145
Mwanza	11,029	1,195	4,019	5,815	135	33	317	70,013	13,390	670
Blantyre Rural	73,159	8,342	17,578	47,239	854	172	2,890	43,366	13,198	6,228
Chiradzulu	65,612	8,417	34,940	22,255	277	16	5,297	46,763	18,372	1,703
Mulanje	86,105	7,365	21,046	57,694	1	4,588	11,156	244,982	66,125	4,394
Phalombe	49,089	8,665	5,402	35,022	50	5,111	5,310	54,196	30,791	3,941
Chikwawa	30,169	6,777	6,837	16,555	3,196	4,089	8,526	15,337	13,525	171
Thyolo	83,071	5,432	16,718	60,921	22	0	1,923	194,955	34,448	1,832
Nsanje	17,600	2,041	4,315	11,244	2,041	1,366	2,405	5,769	2,981	413

	Maize			Millet	Rice	Sorghum	Cassava	Pulse	Groundnut
	Local	Composite	Hybrid						
South Average	509	1,216	1,830	498	828	619	14,611	718	523
Mangochi	806	1,923	2,822	1,000	803	697	15,200	581	672
Balaka	487	1,103	1,621	402	631	569	13,156	603	541
Machinga/Kawinga	543	1,493	2,578	426	1,529	569	13,252	635	549
Neno	395	1,483	1,658	545	0	600	16,956	758	92
Zomba Rural	658	1,240	2,443	451	1,454	759	13,610	651	602
Mwanza	278	724	870	615	546	572	15,963	776	716
Blantyre Rural	617	1,483	2,399	417	910	792	17,957	764	858
Chiradzulu	640	1,315	1,931	617	727	770	16,725	704	784
Mulanje	522	1,232	2,106	708	1,251	1,169	21,695	1,198	933
Phalombe	578	2,259	2,663	324	1,323	801	16,910	914	665
Chikwawa	324	702	1,255	252	1,617	310	13,337	589	130
Thyolo	632	1,500	2,133	524	0	725	17,947	811	501
Nsanje	641	571	1,135	277	795	330	11,846	348	283

図 III-31 南部地域の主要農産物収穫率・生産量（地方別、2009 年度）<sup>92</sup>

<sup>91</sup> Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development, Malawi (2012)  
“2010/11 Annual Agricultural Statistical Bulletin” P.70~154 Table2.4~2.13 より作成

<sup>92</sup> Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development, Malawi (2012)  
“2010/11 Annual Agricultural Statistical Bulletin” P.70~154 Table2.4~2.13 より作成

#### (vi) マラウイの地域別貧困（収入状況）のまとめ

- マラウイの都市部と地方部を比較すると、地方部の貧困状況がきわめて深刻であり、マラウイの貧困層のほとんどが地方の農村世帯に集中している。
- 農業従事者の多い地方部では、収入は事実上地域の農業生産性によって規定される。
- 地方部では、高賃金が得られる大農場が多い District は貧困率が低めになり、賃金の安い中小農場が多い District は貧困率が高くなる。
- 地域的に見ると、南部地域の貧困率が多く、農業生産性の低い District の貧困状況は非常に深刻な状況である。
- 降雨量の影響を受けにくいキャッサバを多く栽培する地域は食料脆弱性が低いが、降雨量の影響を受けやすいトウモロコシを多く栽培している地域は食料脆弱性が高い。
- 北部地域は余剰の農産物や家畜・畜産物などを販売して収入を得る世帯が多く、貧困率が低い傾向にある。
- 現金収入を得る手段が多い地域と、限定された地域が存在する。
- 現金収入の手段が限られた地域では、貧困率が高くなる。
- 貧困世帯の現金収入源「Ganyu」にアクセスできない District は、貧困率が高くなる傾向にある。

※各 District の特徴については、巻末 Annex を参照されたい。